別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項		記　入　欄						備　考
計画の区分		学部の学科の設置						
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝﾋﾛｼﾏｼﾞｮｶﾞｸｲﾝ 学校法人広島女学院						
フリガナ 大学の名称		ﾋﾛｼﾏｼﾞｮｶﾞｸｲﾝﾀﾞｲｶﾞｸ 広島女学院大学　(Hiroshima Jogakuin University)						
大学本部の位置		広島県広島市東区牛田東四丁目13番1号						
大学の目的		広島女学院大学（以下、「本学」という。）は、キリスト教を教育の基盤とし、女性の生涯を支える高度の教養を授け、専門の学術を教授研究することにより、真理と平和を追究し、世界と地域の人々に仕えるゆたかな人格の育成を目的とする。						
新設学部等の目的		【人間生活学部】 多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において女性のライフキャリアを通して貢献できる人材を養成する。さらに人間生活の基本となる〈衣・食・住〉および〈育〉の分野で、被服と住居・建築、健康と食・栄養、および保育・教育と子育て支援についての高度な知識・技能を身につけ、実践していくことのできる専門家を養成することを目的とする。 【生活デザイン学科】 地域・生活に関わる知識・技能を用いて、豊かな生活を創造する発想力を持ち、人々の生活や価値観の多様性を理解し、地域・生活環境を構成する事象を多面的に捉え、よりよい暮らしを提案することができる人材を養成する。さらに、地域の人々の声を受け止め、ニーズに即した行動、および他者との協働によって地域・家庭生活の問題解決に貢献できる人材を養成する。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間生活学部 (Faculty of Human Life Studies)	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	生活デザイン学科 (Department of Human Life and Environment)	4	65	―	260	学士 （家政学）	平成30年4月 第1年次	広島県広島市東区 牛田東四丁目13番1号
	計		65	―	260			
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）		国際教養学部（廃止） 国際教養学科　(△240) 人間生活学部 生活デザイン・建築学科（廃止）　(△　70) 幼児教育心理学科（廃止）　(△　90) ※平成30年4月学生募集停止 人文学部〔学部設置〕（平成29年4月届出） 国際英語学科　(65) 日本文化学科　(40) 人間生活学部 児童教育学科〔学科設置〕（平成29年4月届出）　(90)						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	人間生活学部 生活デザイン学科	164科目	64科目	32科目	260科目	124単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	人文学部　国際英語学科	3 人 (3)	0 人 (0)	4 人 (4)	0 人 (0)	7 人 (7)	0 人 (0)	83 人 (83)	平成29年4月届出済
		人文学部　日本文化学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	87 (87)	平成29年4月届出済
		人間生活学部　生活デザイン学科	6 (4)	3 (5)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	91 (91)	
		児童教育学科	7 (7)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	72 (71)	平成29年4月届出済
		（共通教育部門）	3 (4)	3 (4)	0 (0)	3 (3)	9 (11)	0 (0)	0 (0)	
		計	23 (22)	12 (16)	5 (5)	3 (3)	43 (46)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	人間生活学部　管理栄養学科	4 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	70 (69)	
		計	4 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	－ (－)	
	合計		27 (27)	16 (20)	7 (7)	3 (3)	53 (57)	0 (0)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	33 人 (37)	11 人 (15)	44 人 (52)	
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	3 (3)	2 (3)	5 (6)	
	その他の職員	3 (3)	1 (1)	4 (4)	
	計	39 (43)	14 (19)	53 (62)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	18,414.37㎡	0㎡	0㎡	18,414.37㎡	
	運動場用地	23,191.93㎡	0㎡	0㎡	23,191.93㎡	
	小計	41,606.30㎡	0㎡	0㎡	41,606.30㎡	
	その他	160,866.03㎡	0㎡	0㎡	160,866.03㎡	
	合計	202,472.33㎡	0㎡	0㎡	202,472.33㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	29,882.92㎡ (29,882.92㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	29,882.92㎡ (29,882.92㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	23室	21室	25室	7室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人間生活学部　生活デザイン学科	10 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間生活学部 生活デザイン学科	29,366〔3,624〕 (28,646〔3,597〕)	1,187〔141〕 (1,155〔138〕)	3〔 0 〕 (0〔 0 〕)	126 (124)	－ (－)	－ (－)	
	計	29,366〔3,624〕 (28,646〔3,597〕)	1,187〔141〕 (1,155〔138〕)	3〔 0 〕 (0〔 0 〕)	126 (124)	－ (－)	－ (－)	機械・器具 120（109） 大学共通

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	5,904.61㎡	381	442,500	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	908.22㎡	テニスコート	弓道場

経費の見積り及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	図書購入費については、電子ジャーナル・データベース・その他の経費（運用コスト）を含む。届出学科全体
経費の見積り	教員１人当り研究費等		150千円	150千円	150千円	150千円	－	－	
	共同研究費等	1,050千円	1,636千円	1,636千円	1,636千円	1,636千円	－	－	
	図書購入費	3,659千円	4,178千円	4,178千円	4,178千円	4,178千円	－	－	
	設備購入費	3,810千円	4,924千円	4,924千円	4,924千円	4,924千円	－	－	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,310千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、寄付金収入、利息収入、雑収入

既設大学等の状況	大学の名称	広島女学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次	人		倍			
	国際教養学部						0.52		広島県広島市東区牛田東四丁目13番1号	
	国際教養学科	4	240	－	960	学士（国際教養学）	0.52	平成24年度		平成30年度より学生募集停止
	人間生活学部			－			0.90			
	生活デザイン・建築学科	4	70	－	280	学士（家政学）	0.74	平成24年度		
	管理栄養学科	4	70	－	280	学士（家政学）	1.02	平成24年度		
	幼児教育心理学科	4	90	－	360	学士（幼児教育心理学）	0.92	平成24年度		
	文学部 日本語日本文学科	4	－	－	－	学士（文学）	－	平成12年度		平成23年度より学生募集停止

附属施設の概要	該当なし

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間生活学部 生活デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎科目		キリスト教学入門Ⅰ	1前	2			○								兼1	
		キリスト教学入門Ⅱ	1後	2			○								兼1	
		初年次セミナー	1前	2				○		3	5	1			兼2	
		日本語表現技法	1前	2			○								兼2	
		情報リテラシーⅠ	1前	2			○								兼3	
		情報リテラシーⅡ	1後	2			○								兼3	
		基礎英語Ⅰ	1前	1				○							兼1	
		基礎英語Ⅱ	1後	1				○							兼2	
		基礎英語Ⅲ	2前	1				○							兼1	
		基礎英語Ⅳ	2後	1				○							兼2	
		基礎日本語Ⅰ	1前		1			○							兼1	＊外国人留学生等は「基礎英語ⅠⅡⅢⅣ」の代わりに、「基礎日本語ⅠⅡⅢⅣ」を必修とする。
		基礎日本語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
		基礎日本語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
		基礎日本語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
		小計（14科目）	－	16	4	0		－		3	5	1	0	0	兼12	
ライフキャリア科目	必修	キャリアプランニング	1前	2			○			3	5	1			兼3	共同
		女性とライフキャリア	2前	2			○			1					兼3	共同
	自己との関係科目群	女性史	1前		2		○				2	1				オムニバス
		女性とライフスタイル	1後		2		○			3	3				兼1	オムニバス
		Women in Christianity	1後		2		○								兼1	
		女性文学の世界Ⅰ（近現代編）	2前		2		○								兼1	
		キリスト教と女性	2後		2		○								兼1	
		Women ＆ the World Ⅰ	2後		2		○								兼1	
	他者との関係科目群	対人関係の心理	1前		2		○			1					兼2	オムニバス
		キリスト教と教育	1前		2		○								兼1	
		Intercultural Communication Ⅰ	1後		2		○								兼1	
		暮らしを営む食と健康	2前		2		○								兼4	オムニバス
		子育てとライフキャリア	2後		2		○								兼1	
	社会との関係科目群	World Literature Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		キリスト教と社会	1後		2		○								兼1	
		ビジネス実務総論Ⅰ	1後		2		○								兼1	
		ビジネス実務総論Ⅱ	2前		2		○								兼1	
		ヒロシマと平和	2前		2		○								兼1	集中
		ボランティア活動	2前		2		○				2	1			兼1	オムニバス
		インターンシップ	2前		2			○							兼2	
		Human Rights in the World	2後		2		○								兼1	
		Culture Studies Ⅰ	2後		2		○								兼1	
	その他科目群	ライフキャリア特別講義Ⅰ	1前		2		○								兼1	集中
		ライフキャリア特別講義Ⅱ	1後		2		○								兼1	集中
		ライフキャリア特別セミナーⅠ	1前		2			○							兼1	集中
		ライフキャリア特別セミナーⅡ	1後		2			○							兼1	集中
		オープンセミナーⅠ	1前		1			○		3	5	1			兼2	集中
		オープンセミナーⅡ	1前		2			○		3	5	1			兼2	集中
		スポーツ科学Ⅰ	1前		1		○								兼2	※実習
		スポーツ科学Ⅱ	1後		1				○						兼2	
		日本国憲法	1後		2		○				1					
		外国語（英語Ⅰ）	1前		1			○							兼5	
		外国語（英語Ⅱ）	1後		1			○							兼5	
		外国語（英語Ⅲ）	2前		1			○							兼3	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ライフキャリア科目	その他科目群	外国語（英語Ⅳ）	2後		1			○							兼3	
		外国語（フランス語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（フランス語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（韓国語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（韓国語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（中国語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（中国語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（日本語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（日本語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（日本語Ⅲ）	2前		1			○							兼1	
		外国語（日本語Ⅳ）	2後		1			○							兼1	
		小計（45科目）	－	4	69	0		－		3	5	1	0	0	兼32	
専門科目	学科基礎科目	衣生活論（含被服学概論）	1前		2		○								兼1	
		地域デザイン入門	1･2前		2		○				2	1			兼1	オムニバス
		生活空間デザイン論	1前		2		○			1						
		都市と文化財	1･2後		2		○				1					
		住生活論（含住居学概論）	1後		2		○				1					
		多文化共生社会論	1･2後		2		○					1				
		グローバル化と地域	1･2後		2		○				1	1			兼1	オムニバス
		環境とひと	2後		2		○			1	2	1			兼1	オムニバス
	住居・建築系	情報科学入門	1前		2		○								兼1	
		住居・建築設計実習Ⅰ(含製図)	1後		2				○						兼2	共同
		西洋建築史	1後		2		○								兼1	集中
		グローバル社会と環境問題	2･3後		2		○								兼1	
		地域資源と利用	1･2後		2		○					1			兼2	オムニバス
		都市・環境法	1･2後		2		○				1					
		日本建築史(含住居史)	2前		2		○								兼1	
		住居・建築設計実習Ⅱ	2前		2				○	1	1					共同
		建築CADⅠ(実習)	2前		2				○						兼1	
		建築構造Ⅰ(構造計画、木造・RC造・鉄骨造他)	2前		2		○			1						
		生活情報論	2･3前		2		○								兼1	
		プログラミング基礎	2前		2		○								兼1	
		自然と環境	2･3前		2		○								兼1	
		地域地理学	2･3前		2		○					1				
		世界遺産学	2･3前		2		○				2	1			兼1	オムニバス
		観光学	2･3前		2		○								兼1	
		自然環境実習	2･3前		2				○						兼1	
		地域調査法	2･3前		2		○					1				
		コミュニティーとまちづくり	2･3前		2		○								兼1	
		地域環境実習	2･3後		2				○			1			兼1	オムニバス
		住居・建築設計実習Ⅲ	2後		2				○	1	1					共同
		住環境工学	2後		2		○								兼1	
		建築意匠論Ⅰ	2後		2		○				1					
		構造力学Ⅰ(静定構造)	2後		2		○			1						
		建築CADⅡ(実習)	2後		2				○						兼1	
		環境保全学	2･3後		2		○								兼1	
		ＣＧの世界	2･3前		2		○								兼1	
		建築材料学（含実験）	3前		2		○			1						※実験
		住居・建築計画学Ⅳ(複合建築デザイン他)	3前		2		○								兼1	
		建築設備	3前		2		○								兼1	
		建築積算	3前		2		○								兼1	
		住居・建築設計実習Ⅳ	3前		2				○	2						共同
		建築意匠論Ⅱ	3前		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	住居・建築系	構造力学Ⅱ(不静定構造、断面設計)	3前		2		○			1						
		建築施工	3前		2		○								兼1	
		建築法規	3前		2		○								兼1	
		建築構造Ⅱ(建築構法、耐震構造)	3後		2		○			1						
		住居・建築計画学Ⅴ(建築・都市デザイン)	3後		2		○				1					
		住居・建築設計実習Ⅴ(含測量)	3後		2				○		1				兼2	共同、オムニバス
		建築倫理(含建築職能論)	3後		2		○			1	1					オムニバス・共同（一部）
		建築プレゼンテーション実習	3後		2				○						兼1	
	被服・ファッション系	西洋服装史	1･2前		2		○				1					隔年
		ファッションデザイン論	1･2前		2		○				1					
		被服材料学	1･2後		2		○				1					隔年
		プレゼンテーション概論	1後		2		○								兼1	
		情報倫理	1後		2		○								兼1	
		日本服装史	1･2後		2		○								兼1	
		感性デザイン論Ⅱ(ファッション文化史)	1･2後		2		○			1						隔年
		生活とファッション	1･2後		2		○								兼1	隔年
		被服構成学(含実習)	2前		2		○			1						※実習
		ファッション・デザイン実習Ⅰ	2前		2				○						兼2	
		写真映像論	2･3前		2		○				1					
		服装社会学	2･3前		2		○			1						隔年
		ビジネス実務演習Ⅰ	2前		2			○							兼1	
		プレゼンテーション演習Ⅰ（アサーティブ・コミュニケーション論演習）	2前		2			○							兼1	
		テキスタイルデザイン実習(手工芸)	2前		2				○	1	1				兼1	オムニバス
		マンガ・アニメーション研究	2･3前		2		○								兼1	
		ビジネスデザイン	2･3前		2		○								兼1	
		ファッション・ビジネス	2･3前		2		○				1					
		被服管理学	2･3後		2		○				1					隔年
		ビジネス実務演習Ⅱ	2後		2			○							兼1	
		プレゼンテーション演習Ⅱ	2後		2			○							兼1	
		ファッション・デザイン実習Ⅱ	2後		2				○						兼1	
		データ処理	2後		2			○							兼1	
		被服心理学	2後		2		○			1						
		地域と歴史	2･3後		2		○				1					
		広島地域ビジネス論	2･3後		2		○								兼2	オムニバス
		アパレル企画演習	2･3後		2			○		1						
		アパレル・コーディネート演習	2･3後		2			○		1						
		服飾美学	2･3後		2		○								兼1	隔年
		ファッション・プレゼンテーション実習	3前		2				○	1	1				兼1	共同
		ファッション・プレゼンテーション演習	3後		2			○		1	1				兼1	共同
		ファッション・デザイン実習Ⅲ	3後		2				○		1					
	生活デザイン系	感性デザイン論Ⅰ(ポップカルチャー)	1･2前		2		○			1						隔年
		生活造形論（工芸とデザイン）	1後		2		○				1					
		インテリアデザイン論	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
		住居設計実習(含製図)	1後		2				○						兼2	オムニバス
		健康科学（含栄養学概論）	1後		2		○								兼1	
		公共政策	1･2後		2		○				1					
		博物館教育論	1後		2		○								兼1	
		コミュニティー論	1･2後		2		○					1				
		Webデザイン演習	1後		2			○							兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生活デザイン系	住居・建築計画学Ⅰ（独立住宅デザイン）	1後		2		○			1						
		インテリアデザイン演習	2前		2			○							兼2	オムニバス
		国際社会の文化と言語	2･3前		2		○				1					
		ヴィジュアル・マーチャンダイジングⅠ	2前		2		○								兼1	
		市民社会とNGO・NPO	2･3前		2		○								兼1	
		造園表現（ガーデニング）技術論	2前		2		○								兼2	オムニバス
		住居・建築計画学Ⅱ（生活デザイン他）	2前		2		○				1					
		情報管理論（含情報処理）	2前		2		○								兼1	
		地域文化実習	2･3前		2				○		2					オムニバス
		基礎法学	2･3前		2		○				1					
		博物館概論	2･3前		2		○				1					
		生涯学習論Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		地域と宗教	2･3前		2		○								兼1	
		環境教育（ESD）	2･3前		2		○								兼1	
		社会教育課題研究Ⅰ	2･3前		2			○			2	1				オムニバス
		社会教育計画Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		情報処理総合演習（クレイアニメ）	2前		2			○							兼1	
		造形実習	2･3前		2				○		1					
		画像デザイン演習	2･3前		2			○			1					
		行政法	2後		2		○				1					
		女性労働論	2後		2		○								兼1	
		生活デザイン論	2･3後		2		○								兼1	隔年
		カラーコーディネート演習	2後		2			○							兼1	
		ヴィジュアル・マーチャンダイジングⅡ	2後		2		○								兼1	
		グローバル地域社会論	2後		2		○					1				
		造園表現（ガーデニング）設計実習	2後		2				○						兼2	オムニバス
		住居・建築計画学Ⅲ(集合住宅デザイン他)	2後		2		○			1						
		地域と食文化	2･3後		2		○								兼1	
		社会教育演習Ⅰ	2･3後		1			○							兼1	
		グローバル・フィールドワーク	2･3･4通		4				○		1	1				
		グローカル・フィールドワーク	2･3･4通		4				○		1				兼1	
		調理科学実習	3後		2				○						兼1	
		福祉環境計画学	3前		2		○				1				兼1	オムニバス
		地域連携デザインセミナーⅠ	1前		2			○		3	3				兼1	
		地域連携デザインセミナーⅡ	1後		2			○		3	3				兼1	
		生活デザインインターンシップ	3後		2				○	1						
	セミナー	地域デザインセミナーⅠ	3前		2			○			2	1			兼1	
		地域デザインセミナーⅡ	3後		2			○			2	1			兼1	
		被服心理学演習Ⅰ	3前		2			○		1						
		被服心理学演習Ⅱ	3後		2			○		1						
		服飾史学・美学演習Ⅰ	3前		2			○							兼1	
		服飾史学・美学演習Ⅱ	3後		2			○							兼1	
		アパレル・デザイン演習Ⅰ	3前		2			○			1					
		アパレル・デザイン演習Ⅱ	3後		2			○			1					
		生活デザイン・建築セミナーⅠ	3前		2			○		2	2					
		生活デザイン・建築セミナーⅡ	3後		2			○		2	2					
		卒業研究セミナーⅠ	4前	2				○		3	5	1			兼2	
		卒業研究セミナーⅡ	4後	2				○		3	5	1			兼2	
		卒業論文等	4後	4				○		3	5	1			兼2	
		小計（139科目）	－	8	275	0	－			4	5	1	0	0	兼39	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連科目Ⅰ	教職・社会教育主事	教育原理	2後		2		○								兼1	
		教育心理学	2前		2		○								兼1	
		教育社会学	3前		2		○								兼1	
		家庭科教育法Ⅰ	3前		2		○								兼1	
		家庭科教育法Ⅱ	3後		2		○								兼1	
		家庭科教育法Ⅲ	3前		2		○								兼1	
		家庭科教育法Ⅳ	3後		2		○								兼1	
		教育史	3後		2		○								兼1	
		学習心理学	3前		2		○								兼1	
		教育と法	3後		2		○				1					
		教職実践演習（中・高）	4後		2			○							兼4	共同
		人間関係論Ⅰ（含家族関係学）	3前		2		○								兼1	
		人間関係論Ⅱ（含家族関係学）	3後		2		○								兼1	
		生活経営学（含家庭経営学・家庭経済学）	1前		2		○								兼1	
		食品学概論	2前		2		○								兼1	
		保育学(含実習・家庭看護)	2後		2		○								兼1	
		家庭電気・機械	2前		2		○								兼1	
	司書・司書教諭	情報メディアの活用	2前		2		○								兼1	
		図書館情報技術論	2後		2		○								兼1	
		情報サービス論	3前		2		○								兼1	
		小計（20科目）	－	0	40	0	－			0	1	0	0	0	兼13	
関連科目Ⅱ	教職	教職論	1後			2	○								兼2	オムニバス
		教育課程論	2前			2	○								兼1	
		教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	2前			2	○								兼1	
		生徒・進路指導論（進路指導の理論及び方法を含む）	3前			2	○								兼1	
		特別活動論	3後			2	○								兼1	
		学校カウンセリング	3前			2	○								兼1	
		道徳教育指導論	3後			2	○								兼1	
		介護等体験Ⅰ	3通			1			○						兼3	共同
		介護等体験Ⅱ（事前・事後指導）	3通			1			○						兼3	オムニバス・共同（一部）
		教育実習Ⅰ	4通			2			○						兼3	共同
		教育実習Ⅱ	4通			2			○						兼4	共同
		教育実習Ⅲ（事前・事後指導）	4通			1			○						兼4	共同
	学芸員	博物館経営論	2･3･4後			2	○								兼1	
		博物館資料論	2･3･4前			2	○								兼1	
		博物館情報・メディア論	2･3･4前			2	○								兼1	
		博物館資料保存論	2･3･4後			2	○				1					
		博物館展示論	2･3･4後			2	○								兼2	
		博物館実習Ⅰ	4前			1			○		1				兼2	オムニバス
		博物館実習Ⅱ	4通			2			○		1					
		博物館実習Ⅲ	4後			1			○		1					
	社会教育主事	生涯学習論Ⅱ	2･3･4後			2	○								兼1	
		社会教育計画Ⅱ	3･4前			2	○								兼1	
		社会教育演習Ⅱ	3･4後			1		○							兼1	
		社会教育課題研究Ⅱ	2･3･4後			2		○			2	1				オムニバス
	司書・司書教諭	図書館概論	1後			2	○								兼1	
		図書館制度・経営論	3前			2	○								兼1	
		図書館サービス概論	2前			2	○								兼1	
		情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○							兼1	
		情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2後			2	○								兼1	
		情報資源組織論	2前			2	○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
関連科目Ⅱ	司書・司書教諭	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1	○								兼1
		情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○							兼1
		児童サービス論	2前			2	○								兼1
		図書・図書館史	3後			1	○								兼1
		図書館サービス特論	3後			1	○								兼1
		図書館基礎特論	3前			1	○								兼1
		図書館情報資源特論	3前			1	○								兼1
		読書と豊かな人間性	2後			2	○								兼1
		学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼1
		学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼1
		学習指導と学校図書館	2後			2	○								兼1
		小計（42科目）	－	0	0	70	－			0	1	2	0	0	兼22
合計（260科目）			－	28	388	70	－			4	4	2	0	0	兼91

学位又は称号	学士（家政学）	学位又は学科の分野	家政関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基礎科目16単位を必修科目、ライフキャリア科目4単位を必修、12単位を選択必修として計32単位を履修し、専門科目（内、3年次の演習・セミナーを選択必修として4単位、4年次の卒業研究セミナーおよび卒業論文等を必修として8単位、計12単位を履修）、関連科目Ⅰから92単位を履修し、合計124単位以上を修得すること。 卒業要件として修得すべき単位数については、一年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を原則として50単位未満とする。ただし、直前学期の成績平均点数（ＧＰＡ）が2.3未満の者については、当該学期の履修登録上限単位数を22単位とする。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間生活学部生活デザイン・建築学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通基礎科目（C1）		キリスト教学入門Ⅰ	1前	2			○								兼1	
		キリスト教学入門Ⅱ	1後	2			○								兼1	
		キャリアプランニング（人間生活）	1前	2			○				1				兼2	
		初年次セミナー	1前	2				○		2	3				兼1	
		日本語表現技法	1前	2			○								兼2	
		情報リテラシⅠ	1前	2			○								兼3	
		情報リテラシⅡ	1後	2			○								兼3	
		基礎英語Ⅰ	1前	1				○							兼2	
		基礎英語Ⅱ	1後	1				○							兼2	
		基礎英語Ⅲ	2前	1				○							兼2	
		基礎英語Ⅳ	2後	1				○							兼2	
		小計（11科目）	－	18	0	0	－			2	4	0	0	0	兼11	－
共通教養科目（C2）	総合知	環境と人間	2後		2		○			1	1				兼3	
		現代女性と身体	2後		2		○								兼1	隔年
		現代ジェンダー考	2後		2		○								兼2	隔年
		ヒロシマ	2前		2		○								兼1	
		ボランティア論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		ボランティア論Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		キリスト教の時間Ⅰ	2前		1		○								兼1	
		キリスト教の時間Ⅱ	2後		1		○								兼1	
		特別講義Ⅰ	1前･後		2		○								兼1	集中
		特別講義Ⅱ	1前･後		2		○								兼1	集中
		特別セミナーⅠ	1前･後		2		○								兼1	集中
		特別セミナーⅡ	1前･後		2		○								兼1	集中
	人文科学知	教育学入門	1前		2		○								兼1	
		心理学入門	1前		2		○								兼2	
		哲学入門	1後		2		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ（キリスト教と倫理）	2前		2		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ（キリスト教と文化）	2後		2		○								兼1	
		生命倫理	1後		2		○								兼1	
		アメリカの文化と歴史	2後		2		○								兼1	
		イギリスの文化と歴史	2前		2		○								兼1	
		ヨーロッパと文化	1後		2		○								兼1	
		歴史学のみかたⅠ	1前		2		○								兼1	
		歴史学のみかたⅡ	1後		2		○								兼1	
		歴史学のみかたⅢ	2前		2		○								兼1	
		色彩情報論	1後		2		○								兼1	
		音楽の世界	1後		2		○								兼1	
		日本美術史	1前		2		○								兼1	
		西洋美術史	1後		2		○								兼1	
		American Culture and History	1前		2			○							兼1	
		British Culture and History	1前		2			○							兼1	
		European Culture and History	1前		2			○							兼1	
		American Literature and Thought	2前		2			○							兼1	
		Asian and African Literature and Thought	2前		2			○							兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教養科目（C2）	人文科学知	European Literature and Thought	2後		2			○							兼1
		日本文学入門	1前		2		○								兼3
		アメリカ文学史	2前		2		○								兼1
		イギリス文学史	2後		2		○								兼1
		日本語学の視点	1前		2		○								兼1
		英語学の視点	1前		2		○								兼1
		比較言語	1後		2		○								兼1
	社会科学知	女性学入門	1後		2		○								兼1
		平和学入門	1前		2		○								兼1
		社会学入門	1前		2		○								兼1
		現代社会と人権	1前		2		○								兼1
		地理学概論	1前		2		○								兼1
		開発と文化	2前		2		○								兼1
		民俗学	1後		2		○								兼1
		経済学入門	1前		2		○								兼1
		経営学総論	1前		2		○								兼1
		Area Studies 1 (America)	1後		2			○							兼1
		Area Studies 2 (Asia and Africa)	1後		2			○							兼1
		Area Studies 3 (Europe)	1後		2			○							兼1
		金融論	2前		2		○								兼1
		国際金融論	3後		2		○								兼1
		経理実務	3前		2		○								兼1
		ビジネス実務演習Ⅰ	2前		2			○							兼1
		プレゼンテーション概論	1後		2		○								兼1
		インターンシップⅠ	2前		2				○						兼1
		Social Anthropology	2後		2			○							兼1
		Social Psychology	2後		2			○							兼1
		World Economy	2前		2			○							兼1
		日本国憲法	1後		2		○								兼1
		ビジネス法務	3後		2		○								兼1
		公共性と権力	1後		2		○								兼1
		政治学入門	1後		2		○								兼1
		国際関係論	2前		2		○								兼1
		ポストコロニアリズム/ナショナリズム	2後		2		○								兼1
		グローバル化と地域	2後		2		○								兼1
	自然科学知	数学入門	1後		2		○								兼1
		生活の中の数学	1前		2		○								兼1
		物理学入門	1後		2		○								兼1
		情報科学入門	1前		2		○								兼1
		統計学入門	1後		2		○								兼1
		情報管理論（含情報処理）	2前		2		○								兼1
		家庭電気・機械	2前		2		○								兼1
		バイオサイエンス入門	1後		2		○								兼1
		自然と環境	1前		2		○								兼1
		生物学入門	1前		2		○								兼1
		健康科学（含栄養学概論）	1後		2		○								兼1
		衛生と安全	1後		2		○								兼1
		Computer Science	1前		2			○							兼1
		Nature and Environment	1前		2			○							兼1
		Health Science	1後		2			○							兼1
		化学	1前		2		○								兼1
		科学と技術	2後		2		○								兼1

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目（C2）	自然科学知	都市と環境	2前		2		○								兼1	
		生活空間デザイン論	1前		2		○			1						
		感性デザイン論Ⅰ（ポップカルチャー）	1･2前		2		○			1						隔年
		感性デザイン論Ⅱ（ファッション文化史）	1･2後		2		○			1						隔年
		生活とファッション	1･2後		2		○								兼1	隔年
		食品加工・商品学	2前		2		○								兼1	
		調理学概論（含厨房機器・設備）	2後		2		○								兼1	
	言語知	外国語（初級英語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（初級英語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（初級独語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（初級独語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（初級仏語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（初級仏語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（初級中国語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（初級中国語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（初級韓国語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（初級韓国語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（中級英語Ⅰ）	2前		1			○							兼2	
		外国語（中級英語Ⅱ）	2後		1			○							兼2	
		外国語（中級中国語Ⅰ）	2前		1			○							兼1	
		外国語（中級中国語Ⅱ）	2後		1			○							兼1	
		外国語（中級韓国語Ⅰ）	2前		1			○							兼1	
		外国語（中級韓国語Ⅱ）	2後		1			○							兼1	
		外国語（初級日本語Ⅰ）	1前		1			○							兼1	
		外国語（初級日本語Ⅱ）	1後		1			○							兼1	
		外国語（中級日本語Ⅰ）	2前		1			○							兼1	
		外国語（中級日本語Ⅱ）	2後		1			○							兼1	
	スポーツ科学知	スポーツ科学Ⅰ	1前		1		○								兼2	
		スポーツ科学Ⅱ	1後		1				○						兼2	
		スポーツ科学Ⅲ（野外活動等）	2前		1				○						兼1	
		スポーツ科学Ⅳ（スキー・スケート等）	2後		1				○						兼1	
		スポーツ科学Ⅴ（水泳等）	2前		1				○						兼1	
		スポーツ科学Ⅵ（フィットネス）	2後		1				○						兼1	
		小計（118科目）	－	0	208	0	－			2	1	0	0	0	兼75	－
専門科目（C3）	住居・建築系	住居・建築設計実習Ⅰ（含製図）	1後		2				○	1					兼2	
		日本建築史（含住居史）	2前		2		○								兼1	
		西洋建築史	2後		2		○								兼1	
		住居・建築設計実習Ⅱ	2前		2				○	1	1					
		住居・建築設計実習Ⅲ	2後		2				○	1	1					
		建築材料学	3前		2		○			1						
		住環境工学	2後		2		○								兼1	
		建築CADⅠ（実習）	2前		2				○						兼1	
		建築意匠論Ⅰ	2後		2		○				1					
		住居・建築計画学Ⅳ（複合建築デザイン他）	3前		2		○			2						
		構造力学Ⅰ（静定構造）	3前		2		○			1						
		建築構造Ⅰ（構造計画、木造・RC造・鉄骨造他）	2前		2		○			1						
		建築構造Ⅱ（建築構法、耐震構造）	2後		2		○			1						
		建築CADⅡ（実習）	2後		2				○						兼1	
		建築設備	3前		2		○								兼1	
		建築積算	3前		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目（C3）	住居・建築系	住居・建築設計実習Ⅳ	3前		2				○	2						
		建築意匠論Ⅱ	3前		2		○			1						
		住居・建築計画学Ⅴ（建築・都市デザイン）	3後		2		○				1					
		住居・建築設計実習Ⅴ（含測量）	3後		2				○		1				兼1	
		構造力学Ⅱ（不静定構造、断面設計）	3後		2		○			1						
		建築材料実験	3後		2				○	1						
		建築施工	3前		2		○								兼1	
		建築法規	3前		2		○								兼1	
		建築倫理（含建築職能論）	3後		2		○			1	1					
		建築プレゼンテーション実習	3後		2				○						兼1	
	被服・ファッション系	西洋服装史	1前		2		○								兼1	
		日本服装史	1後		2		○								兼1	
		被服材料学	1後		2		○								兼1	
		被服管理学	2前		2		○								兼1	
		ファッションデザイン論	1･2前		2		○				1					隔年
		被服構成学（含実習）	2前		2		○			1						
		ファッション・デザイン実習Ⅰ	2前		2				○						兼1	
		ファッション・ビジネス	2･3前		2		○				1					隔年
		アパレル企画演習	2･3後		2			○		1						隔年
		アパレル・コーディネート演習	2･3後		2			○		1						隔年
		ファッション・デザイン実習Ⅱ	2後		2				○						兼1	
		ファッションデザイン演習（カラーコーディネート）	2後		2			○			1					
		服飾美学	2･3後		2		○								兼1	隔年
		被服心理学	2後		2		○			1						
		服装社会学	2前		2		○			1						
		ファッション・デザイン実習Ⅲ	3後		2				○		1					
		テキスタイルデザイン実習（手工芸）	3前		2				○						兼1	
		ファッション・プレゼンテーション演習	3後		2			○		1	1				兼1	
		ファッション・プレゼンテーション実習	3前		2				○	1	1				兼1	
	生活デザイン系	女性と生活	1･2後		2		○			3	2				兼1	オムニバス・隔年
		衣生活論（含被服学概論）	1前		2		○								兼1	
		住生活論（含住居学概論）	1後		2		○				1					
		生活デザイン論（和の心）	2･3前		2		○								兼1	隔年
		生活造形論（工芸とデザイン）	1後		2		○				1					
		造形実習	3前		2				○		1					
		画像デザイン演習	2･3前		2			○							兼1	
		インテリアデザイン論	1後		2		○			1					兼1	
		住居・建築計画学Ⅰ（独立住宅デザイン）	1･2後		2		○			1						
		福祉環境計画学	3前		2		○				1					
		造園表現（ガーデニング）技術論	2前		2		○				1					
		造園表現（ガーデニング）設計実習	2後		2				○						兼2	
		住居・建築計画学Ⅱ（生活デザイン他）	2前		2		○				1					
		住居・建築計画学Ⅲ（集合住宅デザイン他）	2後		2		○			1						
		住居設計実習（含製図）	1後		2				○						兼1	
		調理科学実習	3後		2				○						兼1	
	セミナー	オープンセミナー	1前		2			○		3	3				兼1	集中
		被服心理学演習Ⅰ	3前		2			○		1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（C3）	セミナー	被服心理学演習Ⅱ	3後		2			○		1					
		服飾史学・美学演習Ⅰ	3前		2			○							兼1
		服飾史学・美学演習Ⅱ	3後		2			○							兼1
		アパレル・デザイン演習Ⅰ	3前		2			○			1				
		アパレル・デザイン演習Ⅱ	3後		2			○			1				
		生活デザイン・建築セミナーⅠ	3前		2			○		2	2				
		生活デザイン・建築セミナーⅡ	3後		2			○		2	2				
		卒業研究セミナーⅠ	4前	2				○		3	2				兼1
		卒業研究セミナーⅡ	4後	2				○		3	2				兼1
		卒業論文等	4後	4				○		3	2				兼1
		小計（73科目）	－	8	140	0	－			4	3	0	0	0	兼19
関連科目Ⅰ（C4）	文化・歴史	アート・ワークショップ実習	2後		1				○						兼1
		アート・マネージメント実習	2後		1				○						兼1
		世界遺産学	2前		2		○								兼4
		現代美術論	2後		2		○								兼1
		日本文化史Ⅰ	2前		2		○								兼1
		日本文化史Ⅱ	2後		2		○								兼1
		文化プロデュース論	2前		2		○								兼1
		芸術史研究	2前		2			○							兼1
		古典日本語基礎文法	2前		2		○								兼1
		女性文学の世界Ⅰ（古典編）	2前		2		○								兼1
		日本王朝文化の世界	2前		2		○								兼1
		日本史	1後		2		○								兼1
		外国史Ⅲ	2前		2		○								兼1
		外国史Ⅳ	2後		2		○								兼1
		映画史	2後		2		○								兼1
		宗教学Ⅱ（仏教・神道・ユダヤ教・イスラム教・新宗教）	2後		2		○								兼1
		パフォーミング・アーツ論	2前		2		○								兼1
		造形の基礎Ⅰ	2前		2		○								兼1
		造形の基礎Ⅱ	2後		2		○								兼1
		マンガ・アニメーション研究	2前		2		○								兼1
		都市と文化財	2後		2		○								兼1
	ビジネス	広島地域ビジネス論	2後		2		○								兼2
		女性労働論	3後		2		○								兼1
		市民社会とNGO・NPO	3前		2		○								兼1
		コミュニティとまちづくり	2前		2		○								兼1
		ビジネス実務総論Ⅰ	1後		2		○								兼1
		ビジネス実務総論Ⅱ	2前		2		○								兼1
		ビジネス実務演習Ⅱ	2後		2			○							兼1
		プレゼンテーション演習Ⅰ（ノンバーバル・コミュニケーション論演習）	2前		2			○							兼1
		プレゼンテーション演習Ⅱ	2後		2			○							兼1
		情報総合プレゼンテーション演習	3前		2			○							兼1
		ビジネスデザインⅠ	2後		2		○								兼1
		ビジネスデザインⅡ	3前		2			○							兼1
		マーケティング論	2前		2		○								兼1
		ビジネス英語	2後		2		○								兼1
	ビジネス	インターンシップⅡ	3前		2				○						兼1
	教職	教育原理	2後		2		○								兼1
		教育心理学	2前		2		○								兼1
		教育社会学	3前		2		○								兼1
		家庭科教育法Ⅰ	3前		2		○								兼1
		家庭科教育法Ⅱ	3後		2		○								兼1

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
関連科目Ⅰ（C4）	教職	家庭科教育法Ⅲ	3前		2		○								兼1	
		家庭科教育法Ⅳ	3後		2		○								兼1	
		教職実践演習（中・高）	4後		2			○							兼4	
		教育史	3後		2		○								兼1	
		学習心理学	3前		2		○								兼1	
		教育と法	3後		2		○								兼1	
		人間関係論Ⅰ（含家族関係学）	3前		2		○								兼1	
		人間関係論Ⅱ	3後		2		○								兼1	
		生活経営学（含家庭経営学・家庭経済学）	1前		2		○								兼1	
		食品学概論	2前		2		○								兼1	
		保育学(含実習・家庭看護)	2後		2		○								兼1	
	司書・司書教諭	情報メディアの活用	2前		2		○								兼1	
		図書館情報技術論	2後		2		○								兼1	
		情報サービス論	3前		2		○								兼1	
		小計（55科目）	－	0	108	0	－			0	0	0	0	0	兼41	－
関連科目Ⅱ（C5）	教職	教職論	1後			2	○								兼2	
		教育課程論	2前			2	○								兼1	
		教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	2前			2	○								兼1	
		生徒・進路指導論（進路指導の理論及び方法を含む）	3前			2	○								兼1	
		特別活動論	3後			2	○								兼1	
		学校カウンセリング	3前			2	○								兼1	
		道徳教育指導論	3後			2	○								兼1	
		介護等体験Ⅰ	3通			1			○						兼3	オムニバス
		介護等体験Ⅱ（事前・事後指導）	3通			1	○								兼3	オムニバス
		教育実習Ⅰ	4通			2			○						兼3	
		教育実習Ⅱ	4通			2			○						兼3	
		教育実習Ⅲ（事前・事後指導）	4通			1	○								兼4	
	学芸員	博物館教育論	1後			2	○								兼1	
		生涯学習論Ⅰ	2前			2	○								兼1	
		博物館概論	2前			2	○								兼1	
		博物館経営論	2後			2	○								兼1	
		博物館資料論	2前			2	○								兼1	
		博物館情報・メディア論	2前			2	○								兼1	
		博物館資料保存論	2後			2	○								兼1	
		博物館展示論	2後			2	○								兼2	
		博物館実習Ⅰ	4前			1			○						兼3	
		博物館実習Ⅱ	4後			2			○						兼1	集中
		博物館実習Ⅲ	4後			1			○						兼1	
	司書	生涯学習概論（司書）	2後			2	○								兼2	オムニバス
		図書館概論	1後			2	○								兼1	
		図書館制度・経営論	3前			2	○								兼1	
		図書館サービス概論	2前			2	○								兼1	
		情報サービス演習Ⅰ	3前			1		○							兼1	
		情報サービス演習Ⅱ	3後			1		○							兼1	
		図書館情報資源概論	2後			2	○								兼1	
		情報資源組織論	2前			2	○								兼1	
		情報資源組織演習Ⅰ	2前			1		○							兼1	
		情報資源組織演習Ⅱ	2後			1		○							兼1	
		児童サービス論	2前			2	○								兼1	
		図書・図書館史	3後			1	○								兼1	
		図書館サービス特論	3後			1	○								兼1	
		図書館基礎特論	3前			1	○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
関連科目Ⅱ（C5）		図書館情報資源特論	3前			1	○								兼1	
	司書教諭	読書と豊かな人間性	2～4後			2	○								兼1	
		学校経営と学校図書館	2～4前			2	○								兼1	
		学校図書館メディアの構成	2～4前			2	○								兼1	
		学習指導と学校図書館	2～4後			2	○								兼1	
		小計（42科目）	－	0	0	71	－			0	0	0	0	0	兼24	－
合計（299科目）			－	26	456	71	－			4	3	0	0	0	兼143	－

学位又は称号	学士（家政学）	学位又は学科の分野	家政関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通基礎科目(C1)(18単位)を必修科目、共通教養科目(C2)(30単位)を選択必修科目として計48単位を履修し、学科の専門科目(C3)(40単位)を選択必修科目、3年次の演習・セミナー、4年次の卒業研究セミナーおよび卒業論文等(計12単位)を必修科目として履修し、残り24単位をC3、関連科目Ⅰ(C4)から選択科目として履修し、合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録上の上限:原則として22単位(半期))	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間生活学部生活デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	キリスト教学入門Ⅰ	(1)本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2)その「正典」である聖書について、理解を深める。 (3)古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (4)イエス・キリストの教えと行いから、「クリティカル・シンキング」を学ぶ。 (5)一方で、人の”いのち”を活かし、尊厳・自由・平等をもたらす宗教が、他方ではなぜ人の”いのち”を奪い、尊厳・自由・平等を脅かすのかを、ともに考える。	
	キリスト教学入門Ⅱ	(1)本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深める。 (2)前期「キリスト教学入門Ⅰ」に続いて、古代の文書である聖書が、なぜ、どのようにして、現代の私たちの生活に関わりを持つのか、さまざまな読み方を通じて、理解を深める。 (3)人間の根本にある「宗教性」（霊性・スピリチュアリティ・帰依心）に気付き、「祈り」について学ぶことで、心と感性の豊かさを育てるきっかけとする。 (4)キリスト教的歴史観・世界観における「創造」と「終末」について学び、「いま・ここ」に生きる「意味」を各々が喜びをもって見出すきっかけとする。	
	初年次セミナー	新入生が大学での学びを進めていく上で必要とされる学びの技法、すなわち聴くこと、読むこと、書くこと、整理すること、まとめること、表現すること等を修得することを目的とする。とくに、授業の聴き方・書き方・書くことをはじめとする技法、情報の整理の仕方、まとめ方について学ぶ。さらに、整理した情報等をまとめ、プレゼンテーションする力を養う。また、情報を得る場としての図書館の利用・活用の仕方について実地体験を行う。	
	日本語表現技法	日本語で教育を受けてきた人々でさえ、日本語の使い方を誤っている場合も多い。漢字を正しく書くことだけでなく、その意味を理解し、熟語や四字熟語、慣用表現などを日常的に使用することに慣れるため、もう一度自分の日本語をみつめなおす。敬語などの基本的な表現を身に付け、手紙やビジネス文書など社会で必要とされている文書の意味を理解し、書く作業を通して、相手の理解を促すことを意識した表現方法を学ぶことを目的とする。	
	情報リテラシーⅠ	「情報活用能力」の中でも「情報活用の実践力」を学習する。特に文書作成、表計算（表の作成、目的に応じた適切なグラフの作成、関数処理、表の並べ替えや抽出操作）、プレゼンテーションの資料作成など基本的な情報スキルを学修する。さらに、大学でのさまざまな科目で出されるレポートの作成、レジメの作成および4年次の卒業論文で必要な実践的な情報活用の力、さらにビジネス文書といったビジネスの場でも役立てることのできる実践力に繋がることを目的とする。	

基礎科目	情報リテラシーⅡ	コンピュータの基本的なハードウェアの構造（制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置）、個人情報の保護や著作権を考慮した情報の扱い方、アプリケーションソフトウェアの種類や用途などを理解する。さらにその上で、使うべきソフトウェアを自分で判断して選択し、またこれらを利用して「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」の育成を目的とする。	
	基礎英語Ⅰ	この授業は基本的な英会話のスキルを身につけることを目標とする。リスニングやスピーキングとともにリーディングやライティングの基礎力を養うことはもちろんであるが、最も重要な点はコミュニケーションを図る力を養うことにある。授業では、さまざまな状況における会話を想定しながら、その状況に関連する語彙も習得し、コミュニケーション能力を高めていく。また、『ミニマルエッセンシャルズ１』（ME１）も活用していくこととする。	
	基礎英語Ⅱ	この授業は基礎英語Ⅰをもとにして、さらに英会話のスキルを身につけることを目標とする。リスニングやスピーキングとともにリーディングやライティング力をさらに高め、自ら発信でき、他者をより深く理解できるコミュニケーション力を高めていく。授業では、さまざまな状況における会話を想定しながら、その状況に関連する語彙も習得し、表現力を高めていく。また、『ミニマルエッセンシャルズ１』（ME１）も活用していくこととする。	
	基礎英語Ⅲ	この授業は基礎英語Ⅰ・Ⅱをもとにして、中級レベルのライティングや英会話のスキルを養成していくことを目標とする。学生の強みや弱みを理解し、学習への動機づけや支援を行いながら、その目標に向かっていくが、基礎英語Ⅰ・Ⅱと同様に、授業中の活動や実践を通して最大限の成果が生まれていくようにする。また、より自然なライティングやスピーキングを目指し、引き続き、『ミニマルエッセンシャルズ１』（ME１）も活用していく。	
	基礎英語Ⅳ	この授業は基礎英語Ⅰ～Ⅲをもとにして、上級レベルのライティングや英会話のスキルを養成していくことを目標とする。学生の強みや弱みを理解し、学習への動機づけや支援を行いながら、その目標に向かっていくが、基礎英語Ⅰ～Ⅲと同様に、授業中の活動や実践を通して最大限の成果が生まれていくようにする。また、より自然なライティングやスピーキングを目指し、引き続き、『ミニマルエッセンシャルズ１』（ME１）も活用していく。	
	基礎日本語Ⅰ	本授業は、日本語を初めて学習する学生を対象とし、非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができるようになることを目的としている。主に「自分の名前、国の名前、基礎的な単語を平仮名、片仮名でかける」「日常よく使うあいさつなどの定型表現を聞きとったり、使用したりできる」「いくらですか」「どこですか」といった基本的な質問文を聞き取り、簡単な文で答えることができる」「初級前期レベルの文型と語彙を用いた文を読める」といったことを具体的な到達目標としている。	
	基礎日本語Ⅱ	本授業は、初級前期レベルの学生を対象とし、ゆっくりであれば簡単な日常的やりとりができるようになることを目的としている。主に「日常的な場面で自分に対してゆっくり話される簡単な質問であれば、内容をほぼ理解し、応答することができる」「初級後期レベルの文型と語彙を用いた文を読める」「手書きでの簡単な自己紹介文や伝言メモを書くことができる」「パソコンで簡単な日本語文を入力できる」といったことを具体的な到達目標としている。	

基礎科目		基礎日本語Ⅲ	本授業は、初級後期レベルの学生を対象とし、より自然な日本語での日常的やりとりができるようになることを目的としている。主に「日常的な場面で自分に対して話される発話だけでなく、他者同士の日常的な会話についても、ある程度内容を理解できる」「中級前期レベルの文型と語彙を用いた文を読める」「手書きやパソコンで、短くて簡単な問い合わせ文やお礼文を書くことができる」「簡単な敬語表現を使うことができる」といったことを具体的な到達目標としている。	
		基礎日本語Ⅳ	本授業では、中級前期レベルの学生を対象とし、中級中期の文型、語彙を使った様々な課題を実行できることを目的としている。主に「日常的な対面のやりとりだけでなく、電話やメールなどの非対面のやりとりも自分の言語力に対する相手の配慮のもとなら比較的スムーズにできるようになること」「簡単な日本語を使った短いプレゼンを聞きとり、これに対して簡単なコメントを述べたり、簡単な日本語を使った短いプレゼンができるようになること」を具体的な到達目標としている。	
ライフキャリア科目	必修	キャリアプランニング	この授業は、広島女学院大学の一員として大学の建学の精神・歴史・教育理念についての認識を深め、また大学の教育目標やカリキュラムを十分に理解したうえで、大学においていかに学ぶかを考え、将来のキャリアプランを形成することを目的とする。特に、学部の教育理念を理解し、責任感、倫理観、創造性、コミュニケーション力、社会貢献への意思等を形成する基礎を身につけ、ぶれない個の形成を図る。	共同
		女性とライフキャリア	ライフキャリアの観点から、女性の人生について考える。女性の生涯における様々なライフイベントを想定し、女性の置かれた現状における問題点を明らかにする。さらに、この困難な状況の中でいかに対応すべきか、また、地球市民として社会をどのように変革すべきかを考える。自分のキャリア・アンカーについて考える機会や、身近にいる先輩女性、将来目指したい職業についている女性に対するキャリア・インタビューの実施などの、アクティブ・ラーニングを授業に取り入れ、自己を振り返り、社会貢献できる将来像を描く。	共同
	自己との関係科目群	女性史	過去から現在に至るまでの女性の歴史を概観することで、女性としての自己の生き方を見つめる機会とする。また、国内外の女性の個人史を取り上げ、日本や世界の国々における女性の多様な生き方について学び、今後の自らの生き方を考える。さらに、身近な女性にインタビューを試みて、個人史を書いたり、自分史を書いてみることで、女性としての自分を歴史の中に位置づけることができる。 (オムニバス方式／全15回) （8 福田道宏／5回) 日本を中心に、歴史を紐解きながら女性の生き方やその変遷を理解する。また、自分史の作成を通し、女性としての自分を歴史の中に位置づける。 （7 永野晴康／5回) ヨーロッパを中心に、歴史を紐解きながら、女性の生き方やその変遷を理解する。 （10 伊藤千尋／5回) アフリカを中心に、歴史を紐解きながら、女性の生き方やその変遷を理解する。	オムニバス方式

ライフキャリア科目	自己との関係科目群	女性とライフスタイル	衣服、住居、インテリア・建築、食生活、家庭、家族、就職、子育て等、女性を取り巻く生活環境の変化と、それに伴う女性たちのライフスタイルや価値観、生活習慣等の変遷を辿る。 （オムニバス方式／全15回） （6 小林文香／3回） 女性のライフコースの変遷を事例や統計データをもとに学び、これからの女性のライフデザインについて考察する。 （4 三木幹子／2回） スターやアイドル、若者の意識調査などの事例をもとに、理想の女性像・男性像の変遷、日本女性のジェンダー意識、恋愛観にみる美意識の変化を考察する。 （32 楢﨑久美子／2回） 女性の暮らしを「被服」というキーワードで読み解く。歴史的知識を持つことで、現代の衣生活との比較・分析力や、未来の衣生活への発想力を養う。 （9 熊田亜矢子／2回） ファッションを学ぶ上で重要な要素である被服材料の観点から、繊維の性質と管理について知識を養い、日常生活での活用法について考える。 （2 小野育雄／2回） 社会学者、建築家の言説をもとに、生活空間と女性（男性）との関係について考察する。 （3 細田みぎわ／2回） 近代以降の女性建築家（日本／海外）の作品をもとに、女性の暮らしを「すまい」というキーワードで読み解く。 （5 真木利江／2回） 子育て、介護・終末の空間について建築作品を通して学び、今後の福祉空間について考える。	オムニバス方式
		Women in Christianity	In this course, we will examine the representation of women in the Bible, Christian literature and tradition from the critical viewpoint concerning gender issues. We will explore the various Christian views which have at times liberated women and at times oppressed them. For example, we can find some evidence and trace of female leaders in the Bible, though we at the same time find far more male-centric cases and expressions in the Biblical stories and Christian teachings. And throughout ages, churches have been shaped by the stereotypical gender models of women's life. However, those gender norms in Christianity have been challenged and transformed especially by the questioning of modern feminist theology. In this course, we will deal with those issues in the themes of: Women in the Bible; Women in the History of Christianity; Toward Gender Inclusiveness - the attempt of contemporary theology. この授業では、聖書、キリスト教文献および伝統的教義を、ジェンダーの視点から批判的に考察する。キリスト教の歴史においては、様々な女性に対する見解が、あるときには女性を解放し、またあるときには抑圧してきた。たとえば、聖書の中には女性のリーダーシップに関する証言や痕跡をいくつも見出すことができるが、圧倒的多数の場面や表現は男性中心的である。また過去には長い間、キリスト教は女性の生き方を理想化したステレオタイプに閉じ込めてきた。しかし、今日では特に現代的なフェミニスト神学よりの問いかけをきっかけに、こういったキリスト教的規範的女性像は変革を迫られている。 この授業では、これらの問題を主に以下のことがらにおいて扱う。 ― 聖書の中の女性 ― キリスト教史における女性 ― 性差別の無い社会に向けて 現代キリスト教神学の試み	

ライフキャリア科目	自己との関係科目群	女性文学の世界Ⅰ （近現代編）	現代社会において、女性作家の活躍はめざましいものがある。本講義では、有吉佐和子、三浦綾子の２人の作家の代表的作品を取り上げる。女性作家の視点で人間存在や時代を見ればどのように映るのか、また、日本近現代文学史において「女性文学」はどのような意義をもつのかを、特に昭和30年代以降に焦点をおいて考察していきたい。男性作家とは異なった視野で形象した作品の多様性や独自性に着目することによって、受講生にも幅広い視野を得ることを期待する。	
		キリスト教と女性	授業の目的は二点。男女を二分し、主に男性の視点から成り立ってきた社会や学問体系を、女性の視点から捉えなおす「女性学」にたいしてキリスト教がはたしてきた貢献について学ぶこと、そして、男性優位・父権主義的価値観から生じ、それを保持・強化してきたキリスト教に対し、女性学からの問い直しが果たした貢献について学ぶこと、である。そのようにして受講者各位が健全な自己像やキャリア観を形成することに寄与するとともに、新しい時代を創るひとりとなるためのちからを養う。 より具体的には、聖書が登場人物としての女性をどのように描いているかという釈義的アプローチ、聖女／魔女から現代のDVやLGBT差別に至るまでのキリスト教と性差別との関係についての宗教社会学的分析などを座学およびディスカッションを通じて俯瞰、考察する。	
		Women ＆ the World Ⅰ	Throughout our history, women have played significant roles in a wide number of disciplines and walks of life. This course will introduce students to a variety of pioneering women throughout history that have fought against and dealt with injustice and prejudice. It will use a mixture of theory and historical cases to show how women have shaped the world in areas such as politics, art, music, the economy, science, the environment and cinema. Essentially, it will inspire them to play an active role in their own futures. この授業の目的は、女性の権利やキャリアを拡大するために重要な役割をはたし、不正と差別に対して戦った歴史上の先駆的な女性たちについて学ぶことである。授業では、どのように女性が世界を構築していったかということを明らかにしていくため、理論と歴史的資料を用いて進めていく。授業内で扱う分野としては政治、芸術、音楽、経済、科学、環境、そして映画などが挙げられる。この授業を通して、学生たちは自分たちの将来のために積極的な活動を行うことが期待される。	
	他者との関係科目群	対人関係の心理	社会に生きる私たちは、対人関係を避けて通ることはできない。また、人のメンタルヘルスで、最も影響を与えるのは対人関係のあり方である。この講義では、対人関係の心理について、臨床心理学、被服心理学、色彩情報論などの専門分野から、対人関係の心理の魅力にアプローチする。対人関係のあり方に影響を与える、話し方、動作、装い、色彩などについて、簡単な実験などを取り入れて、明らかにする。この授業を通して、他者と自己との関係について振り返り、他者も自己も尊重できる対人関係の有り方について検討する。 （オムニバス方式／全15回） （16 山下京子／5回） 臨床心理学分野からのアプローチを講義する。 （4 三木幹子／5回） 被服心理学の分野からのアプローチを講義する。 （17 西口理恵子／5回） 色彩情報論の分野からのアプローチを講義する。	オムニバス方式

ライフキャリア科目	他者との関係科目群	キリスト教と教育	本授業ではキリスト教主義教育を題材にとって、教育とは何かについて考察する。また、キリスト教の子ども観が教育史に果たしてきた役割について考察する。教育者や、子どもとかかわるキャリアを考えている学生、なかでも教職課程・初等教職課程・保育士課程に学ぶ学生、とくにキリスト教主義の園や学校への就職を考えている学生に必須の視点を提供する。受講者個々がキリスト教教育の特徴を学ぶことを通して、自らの教育観を涵養することを目的とする。より具体的には、聖書の子ども観、キリスト教の歴史における子ども観の変遷、幼児教育の歴史とキリスト教、生涯教育とキリスト教、キリスト教主義教育現場についてのケーススタディなどを、座学およびディスカッションを通じて学ぶ。	
		Intercultural Communication Ⅰ	In this course, students will learn about and practice different communication strategies, such as stating opinions, making requests, and conducting negotiations. These strategies will allow students to work in a diverse, globalized workplace in their future careers. Topics introduced in the course will make students consider the implications for communication between differing cultures. By the end of this class, students will begin to understand how their communication methods can create misunderstandings between different groups of people, and how to begin to overcome this challenge. この授業の目的は学生がグローバルな職場において使用する必要がある、意見を述べる、要求をする、交渉をするといった、さまざまなコミュニケーションの方法を学ぶことである。授業を通じ、学生は将来の自分自身のキャリアのため、異なる文化におけるコミュニケーションの複雑さを理解することが求められる。授業を通じて、学生は自分たちのコミュニケーション技術が異なるグループに対してどのような誤解を与える可能性があり、それをどのように克服できるかを学習する。	
		暮らしを営む食と健康	この授業は、人が暮らしを営む中で必要な食と健康について取り上げ、現代が抱える問題を把握し、多様化するライフスタイルや、ライフステージに合わせた食生活と健康管理の在り方について理解することを目的とする。さらに、生涯にわたる食と健康の意義を考察し、自身のみならず周囲の人や地域社会との連携を図り、ライフキャリア構築のため幅広い視野を持った活動が実践できるようにする。 （オムニバス方式／全15回） （18 石長孝二郎／3回） 現代が抱える食と健康に関する問題について学び、自身や周囲との関わりを考察する。 （27 佐藤努／4回） 食と健康の関係について、食品の機能と栄養の特性から学ぶ。 （36 野村知未／4回） 食とライフスタイルの関わりを学び、健康管理の考え方を理解する。 （33 妻木陽子／4回） 各ライフステージの特徴を知り、ライフステージに合わせた食生活の在り方を学ぶ。	オムニバス方式
		子育てとライフキャリア	現代においては、「就活」、「婚活」、「妊活」、「保活」という言葉に象徴されるように、就職し、結婚し、子どもを産み育てるという営みは個人の努力なしには手に入れられないものとして観念されている。一方で、結婚や家族、親子のあり方はますます多様化しており、経済の不安定さからライフキャリアを描くことが難しくなりつつある。 　本授業では、現代の女性の労働や子育て、ワークライフバランスについて学び、学生が主体的に自らのライフキャリアと子育てについて考える態度を涵養する。	

ライフキャリア科目	社会との関係科目群	World Literature Ⅰ	This course will offer a brief introduction of some major American, British, European and Asian writers. Students will read short stories and also write a report about these works. They are supposed to present their findings in every lesson of the class. We will read the works of Franz Kafka, Gabriel Garcia Marquez, Bernard Malamud, Yasunari Kawabata, Guillaume Apollinaire, Edgar Allan Poe, Anton Pavlovich Chekhov, Italo Calvino, Jhumpa Lahiri. この授業では、アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、アジアの主要な作家について学ぶ。学生は短編小説を読み、これらの作品についてレポートを執筆する。すべての授業において、作品についての解釈や発見を発表することが求められる。授業で取り扱う作家はフランツ・カフカ、ガルシア・マルケス、バーナード・マラマッド、川端康成、ギョーム・アポリネール、エドガー・アラン・ポー、チェーホフ、イタロ・カルヴィーノ、ジュンパ・ラヒリなどである。	
		キリスト教と社会	現代社会における諸課題について、キリスト教の視点からどのように答えうるのかを、受講者とともに考察したい。とくに、生命倫理、環境倫理、情報倫理、平和、差別などの諸課題について、キリスト教がもたらした光と影の両面を見据えながら、受講者が社会における課題と自己の関係を見つめるにあたって、それぞれの拠って立つ視点を確立するきっかけを模索する。 さらに、女性と社会との関わりについて、例えば、我が国における、女性が活躍する社会の実現に向けた取組などもとりあげる。具体的には、「男女雇用機会均等法」「育児休業法」「育児・介護休業法」「次世代育成支援対策推進法」「改正育児・介護休業法」「女性活躍推進法」のように、一連の女性の活躍推進に向けた法律の整備は、女性の社会進出や、仕事と家庭の両立を支援し、男女共同参画社会の実現を目指している。しかしながら、管理職の女性登用に関する国際比較では、我が国の女性管理職の占める割合は低く、課題となっている。こうした点についても、キリスト教の視点から考察を加える。	
		ビジネス実務総論Ⅰ	ICT部門が急速な発展を遂げているが、その対応に追われながらも進展するビジネス社会にあって、ビジネスワーカー自身のあり方も大きく変わってきている。キャリアだけを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性をビジネスワーカーが意識しはじめた。グローバル化された社会において、ビジネスワーカーに必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、自らの職業観を確立することを目的とする。 「ビジネス実務士」の資格取得に向けた必修科目である。	
		ビジネス実務総論Ⅱ	複雑化・高速化・高度化する多元的な現代社会において、あらゆる分野で適材適所の人財が求められている。経済が成熟し、モノがあふれている社会では、消費者の求める商品の質は高くなり、商品そのものの魅力だけではなく、消費者の「心」や「気持ち」を動かすようなホスピタリティあふれる販売方法の必要性も高まっている。新しい概念としての「ホスピタリティ･マネジメント」の導入は、医療・福祉・介護・生活文化・地域・金融・教育・旅行・外食・観光等々で大きな成果を挙げている。ホスピタリティを理解し、ビジネスで活かすことを目的とする。	

ライフキャリア科目	社会との関係科目群	ヒロシマと平和	広島は「ヒロシマ」と記されるとき、「社会化された被爆体験」（歴史学者・宇吹暁による定義）の記号となる。また、「廣島」とあえて表記するときに、原爆投下の背景となった「軍都」の歴史を象徴する記号となりうる。この授業では、広島／ヒロシマ／廣島について、原爆投下に至る歴史、被爆の実相、戦後の復興の歴史、および核の「平和」利用との関わりについて、座学、フィールドワーク、ディスカッションを通じて総合的に学ぶことを通じて、受講者がそれぞれの平和観を確立することを目的とする。本授業は8月6日を中心とする夏期集中講義として実施される。 より具体的には、この授業では、スクーリング、研修、事前および事後レポートを通じて総合的に下記の目標を達成する。 １）座学とフィールドワークから、広島への原爆投下に至る歴史的経緯、被爆の実相、広島の戦後のあゆみについての知識を得、他者に伝えることができる。 ２）「平和」とは何かという課題について自らの考えを持ち、発信することができる。 ３）ディスカッションを通じ、自らの考えを整理し伝えることの難しさや楽しさを経験するとともに、他者の意見に対して共感したり建設的に批判したりする力を身につける。	集中
		ボランティア活動	現代社会において、ボランティア活動を必要とする領域が拡大されてきている。本講義では、社会の中で展開される様々なボランティア活動を通して、ボランティアとは何かということを理解し、社会に参加する自分から、「参画」しながら社会を創り出していく自分へと重心を移動するために、講義とワークショップを通して、ボランティアのあり方について考え、現代社会のニーズに即応し、行動をとることのできる人材を育成する。 （オムニバス方式／全15回） （22 田頭紀和／4回） ボランティア活動の概要を説明するとともに、様々なタイプの事例に基づいてボランティア活動参加者のマナー、心構え等を伝える。 （10 伊藤千尋／4回） 農村部におけるボランティア活動について、概要を説明するとともに、実践的指導を行う。 （7 永野晴康／4回） 都市部におけるボランティア活動について、概要を説明するとともに、活動の実践的指導を行う。 （8 福田道宏／3回） ボランティア活動のワークショップを総括し、問題点、改善点を議論させるとともに、今後の地域貢献活動を展開させるために知識を伝達する。	オムニバス方式
		インターンシップ	ビジネス活動とそこで働く人びとのビジネスワークについて、「インターンシップ（就業体験実習）」を通じて理解を深め、自らの職業意識の形成を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、ビジネス組織についての理解、ビジネス・コミュニケーションの基本について理解を深め、ビジネス・ワーカーとして求められる実務能力開発やキャリア・プランニングを探求する契機とする。 　受講生は、夏期休業中に１～３週間程度の期間で、本学独自の研修先での「インターンシップ」に参加すること、ならびに事後学習としての「研修報告」（研修レポート提出と報告会参加・発表）が義務づけられる。	

ライフキャリア科目	社会との関係科目群	Human Rights in the World	This course will introduce the history of human rights, and examine human rights issues in the modern world.Students will study about the history of the formation of the 'Human Rights' concept, and about the background and ongoing process concerning some human right issues (i.e. Child labor, Human Trafficking, Peace and Justice, Discrimination, etc.). Students will be challenged to think critically about global and local issues from the viewpoint of human rights and develop the sense of a human rights advocate through studies and discussions in this course. この授業では、世界における人権の歴史について学ぶとともに、現代社会における人権の問題について考察する。受講者は人権概念形成の歴史について学び、また、実際の人権に関する現代的諸課題（児童労働、人身売買、正義と平和、差別、など）の背景と現状についても学ぶ。受講者はこの授業での学びと議論を通じて、現代社会の諸課題にたいして人権の観点から批判的に考察するよう問いかけをうけ、人権擁護の感性を発達させることとなる。	
		Culture Studies Ⅰ	This course explores the theories of culture against a backdrop of rapid globalization that has affected communication styles and intercultural relations. It will examine key issues in culture debates and explores how the various concepts of culture can be applied in everyday life. Specifically, it will begin to introduce students to how society is impacted over time by issues such as ideology, class structure, ethnicity, sexual orientation,gender, and age. Students will thereby develop skills for cultural exchange in the contemporary world while improving their reading, writing, and critical thinking skills. この授業では、コミュニケーションの様式や異文化間交流に影響を与えてきた、現在もなお急速に進むグローバル化の背景に関する文化論を学ぶ。授業ではさまざまな文化的な違いが日常生活にどのように反映されるのかについて考察する。特に学生は授業を通して、社会がどれほどイデオロギーや階級制度、民族、性的役割やジェンダー、年齢によって影響を受けているのかを学習する。学生は現在社会における文化的差異を理解することができるようになると同時に、リーディング、ライティング、論理的思考の技術を向上させることができる。	
	その他科目群	ライフキャリア特別講義Ⅰ	現在の社会情勢を見据え、学生に学んでほしいテーマを設定し、実社会で活躍する先達を講師に迎え、話題を提供する。あるいは、専門の学びと連携しながら学生に学んでほしいテーマを設定し、専門家から話題を提供する。この授業を通して、ライフキャリア形成に向けて、社会の中での自己の立場を理解し、そのためにどのような学びを積み重ねるべきか考えるとともに、自身の今後のライフキャリア形成の構築方法を考えるきっかけとすることを目的とする。	集中
		ライフキャリア特別講義Ⅱ	現在の社会情勢を見据え、学生に学んでほしいテーマを設定し、実社会で活躍する先達（主に女性）を講師に迎え、話題を提供する。あるいは、専門の学びと連携しながら学生に学んでほしいテーマを設定し、専門家から話題を提供する。この授業を通して、社会に求められる人材とは何か、女性として求められる力は何かを考えるとともに、自身の専門性を高める方法をイメージしながら、専門性を踏まえたライフキャリア形成の基盤を構築することを目的とする。	集中

ライフキャリア科目	その他科目群	ライフキャリア特別セミナーⅠ	社会情勢・環境を理解し、専門の学びに基づくライフキャリア形成に向けて、学生に学んでほしいテーマを設定し、セミナー形式で授業を展開する。具体的には、学生自ら専門的な課題を見出し、自身の専門的考察力や実践力を用いて課題解決を図ってゆく。この授業を通して、自身の専門性をどのように生かすべきか考え、そのためにどのような学びを重ねていくかを想像し、そこから自身のライフキャリア形成を考えることを目的としている。	集中
		ライフキャリア特別セミナーⅡ	社会情勢・環境を理解し、専門の学びに基づく女性としてのライフキャリア形成に向けて、学生に学んでほしいテーマを設定し、セミナー形式で授業を展開する。具体的には、学生がこれまでに培った教養や専門性を活かしながら、自ら専門的な課題を見出し、女性の視点から専門的な考察を行い、課題解決を図ってゆく。この授業を通して、女性として専門性をどのように生かすべきか考え、そのためにどのような学びを重ねていくかを想像し、自身のライフキャリア形成の基盤を作ることを目的としている。	集中
		オープンセミナーⅠ	語学、文学、教育、ファッション、インテリア、デザイン、環境などの各専門分野について、基礎的、包括的な講義や演習の中から、それぞれの専門を学ぶ意味を知り、専門の学びへの理解を深める。 語学・文学分野では「英語を通じたアメリカ・イギリス文化の理解」、「方言を通した日本の理解」を、教育分野では「遊びを通した子どもの発達過程の理解」を、ファッション・インテリア・デザイン分野では「生活空間を構成するインテリアの理解」、「設計の基本的方法への理解」、「コーディネートやアレンジの基本についての理解」、環境分野では「地理・歴史・自然・食を通した地域の文化への理解」などを分野に分かれて学ぶ。	集中
		オープンセミナーⅡ	語学、文学、教育、ファッション、インテリア、デザイン、環境などの各専門分野について、基礎的、包括的な講義や演習を通して、その実際に触れることにより、これから学ぶ専門分野への理解、実践的な学びへの理解につなげることを目的とする。 具体的には、語学・文学分野では語学を通じた文化の理解等を、教育分野では幼児・児童・生徒の発育過程の理解等を、ファッション・インテリア・デザイン分野ではそれぞれの基本的概念や方法論の理解等を、環境分野では地域による環境や文化の理解等を学ぶ。	集中
		スポーツ科学Ⅰ	スポーツ科学Ⅰでは、スポーツを歴史的、社会的、生理的、心理的な視点から理論的に学習する。その内容として、高校までの学習内容を発展させながら、人間の身体と健康について学ぶ。また、部活やサークルでスポーツを行う学生が少なくないことから、特にスポーツが心身にもたらす影響と効果的なトレーニングについて学習し、安全にスポーツを行う方法について学ぶ。さらに、発達段階に応じた身体活動について必要な知識理解を深めていくことで、適切な判断と行動を身につけ、生涯を通じてスポーツによりよく親しめるようになる。	講義　10時間 実習　20時間
		スポーツ科学Ⅱ	スポーツ科学Ⅱでは、スポーツ科学Ⅰで学んだ理論を生かし、実践を通して生涯に渡り自立的な運動者となることを目指す。その内容として、バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ニュースポーツ等、各種目のルールや技術獲得の方法を理解し、工夫された練習を通して技術を獲得する。また、技術獲得の過程で、仲間と協力して教えあいや作戦を立てることによりスポーツの楽しさや爽快感を経験する。さらに、自分の体力を知り、体力を高める生活を心がける。	

ライフキャリア科目	その他科目群	日本国憲法	人権保障の砦としての憲法の役割を理解してもらえる講義としたい。日本国憲法の規定する国民主権の内容、伝統的な基本的人権の種類と内容、新しい人権をめぐる議論について歴史的な経緯を踏まえて講義する。基本的人権の保障に関する主要な判例を取り上げる。日本国憲法の制度化する国家の統治構造（国会・内閣・裁判所）を解説する（その際、国会法、内閣法、裁判所法、国家行政組織法等にも言及する）。地方自治・地方分権に関する現在の我が国の動向について講義する。	
		外国語（英語Ⅰ）	One aim of this course is to prepare learners for the TOEIC test. The first semester will familiarise students with the structure and requirements of each test part, and focus on vocabulary development - two fundamentals for TOEIC success. Lessons will take a three-pronged approach: communicative tasks, specific TOEIC focus, and extensive reading. Classroom tasks will relate to real world activities, focusing on all four skills and prioritising meaning and outcome. These tasks will engage with the specific language and skills found in the TOEIC test. An extensive reading programme will complement classroom study, providing students with the self study skills to develop their vocabulary range. この授業の目的の一つはTOEIC対策である。各パートの形式や内容になじみ、語彙を増やすことにあり、コミュニケーション能力、TOEICの問題、幅広いリーディングなど3点を中心に進めていく。また授業中は日常生活のテーマを題材として、英語の4技能を中心にその内容や成果を重視することとし、TOEICに見られる英語や技能を身につける。また多読を行うことで授業を補い、学生自ら語彙能力を高めていくものである。	
		外国語（英語Ⅱ）	The second semester looks at some useful TOEIC test-taking strategies and continues vocabulary development. As in the previous semester, lessons will take a three-pronged approach: communicative tasks, specific TOEIC focus, and extensive reading. Classroom tasks will relate to real world activities, focusing on all four skills and prioritising meaning and outcome. These tasks will engage with the specific language and skills found in the TOEIC test. An extensive reading programme will complement classroom study, providing students with the self study skills to develop their vocabulary range. 英語ⅡではTOEIC対策としての方策に触れ、引き続き語彙能力を高めていく。また、外国語（英語Ⅰ）と同様に、コミュニケーション能力、TOEICの問題、幅広いリーディングなど3点を中心に進めていく。授業中は日常生活のテーマを題材として、英語の4技能を中心にその内容や成果を重視することとし、TOEICに見られる英語や技能を身につける。また多読を行うことで授業を補い、学生自ら語彙能力を高めていくものである。	

ライフキャリア科目	その他科目群	外国語（英語Ⅲ）	This course is designed to improve the overall English language abilities of the students enrolled. While we will primarily focus on speaking and listening skills, we will also work on reading and writing skills. Students in this class will improve their skills as they tackle controversial topics on a wide range of important subjects. The improvement of these skills is expected to be achieved through deep understanding and active interaction about the topics provided. この授業は総合的な英語力を伸ばすことを目的とする。スピーキングやリスニングを中心に、リーディングやライティングの活動も行なう。学生は幅広い分野において大切なトピックに触れながら自らのスキルを高めていく。ただし本授業ではトピックへの深い理解力や発信力の養成に主眼を置き、その中で必要なスキルを高めていくというアプローチをとる。	
		外国語（英語Ⅳ）	This course continues the aim of improving the overall English language abilities of the students enrolled. In this one semester course we confront important problems that the world faces today. We will work to develop opinions on world issues, and to be able to communicate our opinions to others effectively. To that end, we will also be focusing on developing critical thinking skills. この授業ではさらに英語力を高めていくことを目的とする。本授業では今日世界が抱えている重要な問題を探り、その問題に対する様々な見解を深め、自分の見解を効果的に伝えることができるように進めていく。そのためには批判的思考能力も身につけていきたい。	
		外国語（フランス語Ⅰ）	フランス文化とフランス人に親しみながら、フランス語の文法と読解、ヒアリング、簡単な会話の基本的な力を身につける。まずは、フランスに親しむためにフランスについての常識的知識や地理への理解を深め異文化理解を図る。その上で、フランス語文法の基礎を理解し、発音の原則を身につけ、基本的な挨拶表現、数の数え方、人物や物についての表現法を習得し、フランス語で簡単なコミュニケーションができるよう、基礎的な学びを行う。	
		外国語（フランス語Ⅱ）	外国語（フランス語Ⅰ）で身につけた基礎学習をさらに充実させ、所有形容詞から英語とは違うフランス語の特徴を理解し、形容詞の比較級を使いこなせるようにする。また、基本的な日常行為をフランス語で表現でき、簡単な質問や記述ができ、身近な話題を表現できるようになることを目的とした学びを行う。さらに、少し複雑な構文の運用も身につけ、実用フランス語検定5級、4級に挑戦できる力の修得を目標とし、フランス語についてより多くのことを自ら学ぶための力を培う。	
		外国語（韓国語Ⅰ）	この授業は初めて韓国語を学ぶ人のための入門クラスで、韓国語の基礎的コミュニケーション能力を獲得することをその目的とする。まず、人工的な言語である韓国語の創出起源を理解し、表音文字である各文字の発音と表記の熟達に努める。とくに、文字の発音に重点を置きながら、基本的な文法と語彙を用いて､簡単な日常会話を行う。主な内容は、動詞・形容詞・存在詞・指定詞（四つの用言＝述語）の区分と語尾の基本的な変化、すなわち、丁寧語・否定文・疑問文・助詞の使い方などである。必要に応じて韓国映画・K-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみる。	

ライフキャリア科目	その他科目群	外国語（韓国語Ⅱ）	この授業では、韓国語Ⅰにおいて獲得した授業成果、すなわち、ハングル文字と発音の習熟をもとに、基礎的な文法と日常会話の能力を高めていく。また、日本語との対照言語学的な観点からの理論的な面白さを満喫する一方で、実際に使える表現能力を上達を目指す。とくに、基本的な文法と語彙をもとに、読み・書き・聞き・話す四機能をバランスよく伸ばしていく。主な内容は、前期で学んだ用言（述語）の基本的な活用に加え、過去形、数詞、よく使う言い回しなどである。韓国語Ⅰと同様、必要に応じて韓国映画・K-popといったメディアも活用する。	
		外国語（中国語Ⅰ）	「中国語は発音よければすべてよし」と言われているぐらい、発音は一番大切であるので、中国語の基本である発音を身につけるため、発音指導は復習や予習課題での自己学習を踏まえた個別対応で行い、正しく流暢に発音できることを目的とする。また、人称代詞（姓名）、動詞、疑問文、動詞述語文、形容詞述語文、指示代名詞などの文法を習得しながら、会話文の朗読を個人やペアで行いながら、簡単な日常会話できることを目的とする。	
		外国語（中国語Ⅱ）	中国語Ⅰに続き、個別の徹底した発音練習を重ねるとともに、発音を聞きながらピンイン、漢字、声調を書く練習も行う。また、量詞、所有の表現、親族呼称、反復疑問文、選択疑問文等の文法への理解をさらに深める。さらに、日常会話でよく使われる表現である曜日、日にちの表現、時間帯や時刻の表現、新事態発生、変化状況の表現、語気助詞、前置詞の修得をはかる。この授業を通して、発音の修得、基本的語彙の修得、簡単な文章作成力の修得を目的とする。	
		外国語（日本語Ⅰ）	本授業では、中級中期レベルの学生を対象に、大学生活で必要な４技能の基礎固めを行うことを目的とする。主に、「予習をしておけば、初年次生向けの講義のおおまかな内容を聞きとり、ノートにポイントを書きとめることができる」「辞書を使用すれば、必要な文献のおおまかな内容を理解できる」「あらかじめ準備をしておけば、自分の意見や考えを人前で発表できる」「授業の内容を踏まえ意見文を作成できる」ことを具体的な到達目標としている。	
		外国語（日本語Ⅱ）	本授業では、中級後期レベルの学生を対象に、大学生活で必要な４技能について一定の運用能力を獲得することを目的としている。主に「予習をしておけば、初年次生向けの講義の内容をほぼ聞きとり、ノートにまとめることができる」「辞書を使用すれば、必要な文献の内容をほぼ理解することができる」「簡単な調査を行ない、手書きやワープロ入力でレポートを作成したり、発表したりすることができる」ことを具体的な到達目標としている。	
		外国語（日本語Ⅲ）	本授業では、上級前期レベルの学生を対象とし、大学生活で必要な４技能の高度な運用能力を獲得することを目的としている。主に「予習をしておけば、1、2年生対象の講義の内容を聞きとり、ノートにわかりやすくまとめ、疑問点について調べることができる」「辞書を使用すれば、必要な文献の詳細をほぼ理解することができる」「調査を行ない、やや長めのレポートを作成したり、分析的発表を行うことができる」を具体的な到達目標としている。	
		外国語（日本語Ⅳ）	本授業では、上級中期レベルの学生を対象に、大学生活で必要な４技能のより高度な運用能力を獲得することを目的としている。主に「1、2年生対象の講義の内容を分析的にまとめることができる」「必要な文献を理解するだけでなく、内容をレポートの中で適切に引用したり、紹介したりすることができる」「与えられたテーマについて発表だけでなく、他者とのより分析的なディスカッションをすることができる」ことを具体的な到達目標としている。	

専門科目	学科基礎科目	衣生活論（含被服学概論）	被服とは衣服に限らず、アクセサリー・靴・下着など身に付けるもの全てをさす言葉である。この授業では、生活の中で欠かせない被服の起源や機能、天然繊維や化学繊維などの素材、家庭での選択や管理について学ぶ。 また、それを身に付ける人間によって、被服をどのように選択するのかや着用方法は異なってくることから、被服心理・デザイン・色彩についても学び、将来に向けて自分自身だけでなく、関わる人々すべての衣生活を豊かにするための手法を身に付ける。	
		地域デザイン入門	個々の生活空間は、地域空間の一部として連動し、地域社会を形成している。本講義では、我々の生活空間を「社会」、「文化」、「自然」、「コミュニティー」の４つの視点から個々の生活の役割、位置付けを理解するための基礎的知識を身につけ、地域社会に根ざした生活空間を創出するための感覚を養う。 （オムニバス形式：全15回） （22 田頭紀和／4回） 我々の生活空間を取り巻く自然環境や都市環境ついて、環境問題を主体とした知識を提供する。 （8 福田道宏／4回） 生活空間や生活環境の中にある文化・伝統的な側面に目を向け、知識や着眼点を伝える。 （7 永野晴康／4回） 生活環境や市民生活の中に見られる行政の取り組みや暮らしに密着する法律ついて基礎的知識を提供する。 （10 伊藤千尋／3回） 暮らしや地域社会の中に見られる人との連携や共同について目を向け、地域社会作りの基礎となるコミュニティー形成に関する基礎知識を伝える。	オムニバス方式
		生活空間デザイン論	生活する空間を設計するとは、建築するとは、或る場所に或る内部と同時に或る外部という生活に連動する空間がつくられることである。この授業では具体的に、生活する空間を設計するとはどういうことなのか、そのことを生活空間設計の実践諸例を通してさまざまに考えていく。設計（conceptの創案→designの諸相の展開）の＜根拠＞への問いが生まれはじめることを目指すとともに、その＜根拠＞への問いが現代社会を問う問いであるということ、現代思想の根とつよく関係する問いであるということを知るようになることを目指す。	
		都市と文化財	都市化が進む現在、我々の多くの生活空間は都市に集中してきており、都市を構成する要素が我々の生活空間に密接に繋がりを持つようになっている。それぞれの都市には、都市を象徴する「文化財」が存在し、その都市を彩る要素と成っている。本講義では、「文化財」として伝わるモノが、どのような場で、どのような需要を受けて生まれ、どのように受容され、消費され、今日まで伝わったのかを「都市」というキーワードのもとに考えるとともに、いまはまだ「文化財」と認識されていない消えゆくモノについても考える。	
		住生活論（含住居学概論）	住まいとは生活を空間化したものであり、生活の拠点である。この授業では、住まいはどのような要素によって構成されているのかを把握した後、住まいを取り巻く環境や家族形態の変化を踏まえ、今日的な視点で住まいについて考える力を養うことを目的とする。具体的には、住まいの機能、住まいと気候風土、住まいの変遷、熱環境と空気環境、住まいの維持管理、住まいの選択、住まいと家族、住まいとライフステージ、新しい住まい方などを扱う。	

専門科目	学科基礎科目	多文化共生社会論	国内においても移民が増加する現在、「他者」「異文化」を理解し、共生していく作法を身につけることは必須となっている。本科目では、日本をはじめとして世界の様々な地域で起こっているコンフリクトや共生の事例を学ぶことを目的とする。これを通じて、グローバリゼーションの進展とともに変わりゆく日本の生活環境において、異なる他者とどのように折り合いながら生活し、協働していくのかを考え、実践するための視点を身につける。	
		グローバル化と地域	世界各地に存在する地域固有の文化、歴史、自然、人々の暮らし（衣食住）について概説する。これにより、グローバルな視点から自らの生活文化を洞察する力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （22 田頭紀和／5回） 自然環境と人々の生活の繋がりをテーマに、ヨーロッパ、東南アジアにおける人々の生活文化についての知識を提供する。 （10 伊藤千尋／5回） 地域コミュニティーとして人々の暮らしや繋がりをテーマに、アジア・アフリカにおける人々の生活や活動についての知識を提供する。 （7 永野晴康／5回） 人々の衣食住や文化の多様性をテーマに、ヨーロッパ諸国に存在する多様な生活文化について知識を提供する。	オムニバス方式
		環境とひと	環境をひとが意味づけることは、ひとの行為の＜起発＞点に位置しつつ、ひとの行為の全幅にわたり＜こだま＞することである。詩人オクタビオ・パスが「リズムは拍ではない―それは世界のヴィジョンである」と語るときの＜リズム＞が、ここでの＜起発＞と＜こだま＞に当たる。その意味づけ同時に行為する事態には、自然とひとの行為とのそのつどあらたな調和への試行とでも呼べるひと的くり返しが現われている、とも語りうる。本授業では、そのくり返しを、環境思想、文学、生物行動学、諸工学、環境地理学、認知心理学、生活環境制作等においてみていく。 （オムニバス方式／全15回） （10 伊藤千尋／3回） 自然、風土という概念を説明しながら、環境とひとの関わりにおいて重要な農耕や牧畜、狩猟採集といった生業について概説するとともに、様々な生業形態とその発達によりひとが自然にどのような影響を与えてきたのかを考える。また、変化し続けている環境とひとの関わりとその背景について概説し、そのなかで地域や地球全体を単位とした環境問題が生じていることを考える。さらに、東洋／西洋の自然観について説明する。 （7 永野晴康／3回） 公害問題から現在の自然保護をめぐる法制度及び環境行政の主要な組織（環境省、現在では経産省）について、廃棄物・リサイクル・環境影響評価等、都市環境をめぐる法制度について説明する。 （6 小林文香／2回） 住生活と環境にかかわる史的概説とともに、現代的課題について説明する。 （13 桐木建始／2回） ひとが周囲の環境をどのように認知しているのかを知り、環境の中でのひとの行動のあり方を考える。また、個人と社会的環境とのかかわり方、特に対人認知・対人魅力・社会的影響について、アイデンティティの確立と環境とのかかわりについて考える。 （2 小野育雄／5回） 環境の哲学への導入とともに、各自の環境描画を通して、われわれの＜すむ＞場所の環境的イメージのかけがえのない想起を経験する。さらに、環境描画による藝術療法や「箱庭療法」等の方法にひそむ哲学を、小野訳の『＜まち＞のイデア』という或る種の場所論の概説とともに、論じ、＜すまひ＞制作のあり方を考え、生活環境－現代「ひろしま」という＜すまひ＞－を問う。	オムニバス方式

専門科目	住居・建築系	情報科学入門	情報化社会における情報科学について、基礎から学習し情報化社会に生きる社会人としての常識を身に付けることを目的とする。「コンピュータの歴史」から「ハードウェア」「ソフトウェア」を学習し、「ネットワーク技術」「インターネットについて」など様々な情報技術を説明し、「情報とはなにか」を学習できる知識を身に着ける。特に常に最新の技術を含んだ「情報技術」を解説する。また、社会で問題となっている「情報技術を利用した犯罪」についても巻き込まれない方法などを説明し、常に進化している情報化社会で、情報技術を利用しながら生きることについての知識を身に着ける。	
		住居・建築設計実習Ⅰ（含製図）	基本的な製図の手法や図面表現を学び、設計製図に進むための基礎を修得することを目的とする。また、建築家の住宅作品の図面をトレース（模写）することにより、その住宅についての設計概念を理解する。授業の計画としては、線の練習、木造二階建て住宅の図面（平面図・配置図・立面図・断面図・矩計図のトレース）、鉄筋コンクリート造住宅の図面（1/100平面図、1/50平面詳細図）のトレース、およびアクソメを予定している。	共同
		西洋建築史	過去のすばらしい建築をみる歓びを体験し、西洋建築の歴史と様式について基本的な理解を得ることをめざす。授業の内容としては、建築と建築家、西洋建築史の枠組み、古代ギリシアの建築、古代ローマの建築、キリスト教建築のはじまり　ビザンティンの建築、ロマネスクとゴシックの建築、ルネサンスの建築、バロックの建築、ロココと新古典主義・折衷主義の建築、アールヌーヴォーと近代建築、建築のオーダー、ヨーロッパ以外の西洋建築を予定している。	集中
		グローバル社会と環境問題	現代社会において、環境問題に対する取り組みはどのような国、地域であっても必ず行わなければならない必須事項となっている。こうした流れは私たちの生活においても例外ではなく、地球温暖化対策、ゴミ問題対策等の環境対策は不可欠な行動として定着しつつある。本講義では、こうしたグローバルな環境問題の流れを正しく理解するためのグローバルな視点からの知識を身につけるとともに、現代の環境対策技術、活動についても学びを深める。	
		地域資源と利用	我々を取り巻く生活空間には、衣食住や周辺環境に多くの個性が存在し、特に地域の文化や環境に根ざした個性は、地域資源となりうる有用性を持っている。本授業では、こうした地域の生活に根ざした地域資源に焦点を当て、その利用ついての実践的な取り組みを学びながら、生活・文化の中に根付く資源を抽出する洞察力を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （22 田頭紀和／5回） 地域の自然環境に関する資源に焦点をあて、自然との共生を実現するための生活の事例を紹介する。 （10 伊藤千尋／5回） 地域の生活・文化的な資源に焦点をあて、資源に基づく地域コミュニティーの事例を紹介する。 （17 西口理恵子／5回） 地域の環境資源に焦点をあて、持続可能な社会作りの事例を紹介する。	オムニバス方式
		都市・環境法	生活デザイン分野を中心とした、まちづくりや環境に関する法的ルールを学ぶ。まちづくりの基本となる都市計画法、建築基準法等の各種法令の内容を学ぶ。また、市民と行政の協働によるまちづくりの実例、国内や海外の先進事例や特徴的な事例を調べる。また、日本における公害問題の歴史や判例を学びながら、環境保護に関する規制に関する法的知識を身につける。環境法の基本原則、環境権、自然保護、廃棄物処理、リサイクル、大気汚染、地球温暖化等の個別テーマにつき、必要に応じて海外の例を取り上げながら、環境法に関する最新の動向を知る。	

専門科目	住居・建築系	日本建築史(含住居史)	日本の古建築の特色を、寺院・神社・住宅・城郭建築の構造や意匠・技術を通して理解し、日本の文化や伝統および先人の知恵を感じ取ること、また建築学の基礎知識を習得することを目的とする。授業の内容としては、日本建築の種類、社寺建築の構造と細部意匠、飛鳥・奈良時代の寺院建築、平安時代の寺院建築、中世の寺院建築、神社本殿の種類と構造、近世の社寺建築と地方色、古代の住居と寝殿造、寝殿造から書院造へ、書院造の構造、城郭建築（天守）の構造などを予定している。	
		住居・建築設計実習Ⅱ	住宅および小空間の設計課題により、住居・建築設計計画の手法を修得し、建築設計製図の手法およびプレゼンテーションの手法を修得する。また、人が生活する上で必要な機能・空間を理解し、内部空間と外部空間の関係・調和に配慮しつつ、特定の環境・敷地・使用する人を想定して設計の実習を行なう。また、デザインした混構造住宅（木造＋鉄筋コンクリート造）に関しては軸組模型制作を行い、木造の構造とデザインとの関係を理解する。	共同
		建築CADⅠ(実習)	建築・住居・インテリアのデザイン等において、CAD（Computer-Aided Design）技術は今日重要なものとなっている。この実習では、CADの技術を修得し、またCADの理論を理解することを目的とする。基本操作を理解し図形の作図を行い、2次元ツールを操作し図面を作図する。その上でCADの機能を使った作図方法を考えて図面表現を行う。すでに設計実習によって設計行為と手作業による製図をある程度まで初歩的に体得している者を受講対象者とする。	
		建築構造Ⅰ(構造計画、木造・RC造・鉄骨造他)	建築の構造は厳しい自然環境から身を守るとともに、自然環境・人工環境と積極的に関わっていくためのものである。木造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造において、建築構造に加わる荷重外力、構造原理、使用する材料・各種構造の仕組みと特徴を体系的に学習し、建築構造の基礎知識を習得する。特に木構造においては在来軸組構法、鉄筋コンクリート構造・鋼構造においてはラーメン構造に関して構造形式や構成部材に関する知識・技術を学ぶ。	
		生活情報論	インターネットにより、販売、金融、広告には新しいスタイルの業務が登場した。一方、家庭でも家電のネットワークにより新たな使い方が可能となっている。また、ICカードにより定期券、保険証、電子マネーとしての機能を利用できるようになった。その背景には、個人情報の漏えいや不正アクセスへのセキュリティ面の安全性が上がったことが挙げられる。この授業では、商品、広告、サービスを情報と考えその機能を適切に生かすために、商品開発から流通までを概観し、さらに生活へ浸透するマルチメディア化に対応できる力を身につける。	
		プログラミング基礎	プログラミング言語を用いて、論理的な考え方をみにつける。フローチャートを読み取り、その論理に従って簡単なプログラムを作成することができることを目標とする。特にプログラムを利用することで、コンピュータで自動的に作業させることができることを理解する。そのために、論理的な考え方に基づいた手順を検討して、実際にプログラミング言語を使って組み立てていく手法を具体的に学習して、問題解決を行うことができるようになることを目的とする。	
		自然と環境	自然環境は、古来より人々の生活、文化、伝統に大きく影響を与えており、自然との共生は人の住環境を作る上で不可欠な要素の一つである。本講義では、自然環境の成り立ちや特性、地域ごとに異なる動植物に目を向け、地域を構成する自然を理解するための基礎知識を理解する。また、人園の生活空間の拡大・縮小により生じる自然環境問題にも目を向け、人間と自然の相互作用を実例から読み取り、自然との共生に基づく生活のあり方を考える。	

専門科目	住居・建築系	地域地理学	地域地理学では、特に、現代社会における地域に関わる諸問題を考察する力を身につけることを目的とする。講義では、日本が抱える深刻な問題である過疎・高齢化の現状を統計データ等を用いてマクロな視点で捉えると同時に、中国地方を事例に地域レベルではどのような生活に関わる諸問題が現れているかを検討する。また、これらの問題への対策としての移住促進や地域活性化の取り組みも扱う。講義を通じて、変化する社会環境において、自らの地域生活空間の現状と課題を地理学的に理解・分析する視点を養う。	
		世界遺産学	地域環境に存在する人類普遍の遺産である世界遺産を保護する条約とその制度について学ぶとともに、世界各地の文化遺産、自然遺産について検証し、今後の世界遺産の保護制度について考える。 （オムニバス方式／全15回） （22 田頭紀和／4回） 世界遺産のうち、特に、環境的な側面から自然遺産に関して解説を行う。 （8 福田道宏／4回） 厳島神社と原爆ドーム、奈良・紀伊の世界遺産、石見銀山等の日本国内の世界遺産を解説するとともに、日本の文化財保護に関しても触れる。 （7 永野晴康／4回） 世界遺産条約と世界遺産の保護制度の概要、ヨーロッパの世界遺産に関する解説を行う。 （10 伊藤千尋／3回） アジア・アフリカの世界遺産の状況について解説を行うとともに、危機遺産等の問題につき言及する。	オムニバス方式
		観光学	近年の海外の旅行者の増加、海外での日本文化の認知の結果、我々の生活文化は観光産業においても大きな資源となってきている。これからの日本を支える産業とも目される観光について、その歴史や産業構造などの基礎的知識を身につけ、多岐にわたる観光学の広がりを理解するとともに、「知る」・「伝える」ための観光プランの作成などを通じて、我々の持つ観光資源を有効に活用し、観光に結びつけて産業化に応用する力を実践的に身につける。	
		自然環境実習	現在、我々の生活空間に接する自然環境・緑地環境は、環境保全活動や環境教育活動の場として、広く市民に利用されている。本実習では、地域に存在する自然環境を題材に、自然を理解し、評価するために必要となる知識や技術を身につける。実習では、実際の地域の自然環境をフィールドとして、個々の植物の識別、森林植生・生態系といったマクロな自然環境を良化する技法を身につけるとともに、分析機器を用いて詳細な特性理解するミクロな技法も身につける。	
		地域調査法	生活空間をデザインするためには、特定地域のもつ特性を多角的に理解し、その特徴を見極めることが重要となる。本授業では、学術研究の基礎とともに、地域の特性や地域が抱える問題点を発見するための調査の方法論を身につけることを目的とする。質問紙調査の方法や、構造的・半構造的インタビュー、参与観察等の手法を学ぶとともに、そのデータの分析手法についても実践的に学ぶ、また、統計データの所在や利用法、データの取扱に関する研究倫理等も学ぶことによって、課題発見能力や専門的技能を総合的に身につける。	
		コミュニティーとまちづくり	我々の生活空間の集合体である地域空間は、そこに住む人と、空間を構成するもの、そしてそこに根付く歴史・文化のつながりにより構成されている。本講義では、我々の生活空間の持つ有形無形の資源を、まちづくりのなかでどのように活かしているのか、活かしていけばいいのかについて、国内における代表的な取り組みや広島県における取り組みの具体例を学ぶとともに、人と地域の資源が結びついたより良い地域空間作りの将来像と課題について考える。	

専門科目	住居・建築系	地域環境実習	地域環境はその地域が置かれている環境に基づいて多種多彩な特性を有している。本実習では、地域の生活空間に存在する生活文化の特性、コミュニティーの特性、地域の持つ環境資源を実際に調査・検討し、地域環境に基づいた生活を創造するための企画・行動力を身につける。 （オムニバス方式／全30回） （22 田頭紀和／16回） 自然環境を含めた生活環境について、地域連携型のフィールドワークの準備・実施・報告する。 （10 伊藤千尋／14回） 地域コミュニティーを含めた生活環境について、地域連携型のフィールドワークを準備・実施・報告する。	オムニバス方式
		住居・建築設計実習Ⅲ	店舗、高齢者ケア等の都市機能を含む複合住居（集住体）の建築空間をすぐれた事例から学び、オリジナル課題に取り組んで、住居設計のこれまで以上の習熟を目指す。即日設計を別に含みつつ、ふたつの大課題に順次とりくむ。 セメスター内にとりくむふたつの大課題は次のようなものである。ひとつは延床面積250㎡前後の規模をもつシェアハウス等の設計であり、あとひとつは、店舗や工房等を併設する10世帯前後の集合住宅の設計である。	共同
		住環境工学	建築物の中で生活する人間にとって安全性・健康性・利便性・快適性といった必須の要件を獲得するためには、人間を取り巻く環境を適正に制御・調整しなければならない。 本講義は、住環境が人間に対して適正な調和をもたらすことを目的として、人体に関する諸要因と周辺環境（熱・光・空気・音等）に関する諸要因についての基礎知識を習得し、適切な環境計画を模索する応用力を醸成する。 「建築設備」の講義と直結・連動する内容をもつ。つまり、ひとにやさしい建築づくり・地球にやさしい建築づくりを意味する、高い性能を有する建築づくりを実現する担い手の教育でありたい。	
		建築意匠論Ⅰ	建築設計の背景にある思想や議論の理論的フレームを、近代から現代にかけての作品と設計者の具体的な取り組みを通して理解することを目的とする。講義は3部構成とし、第1部の近代建築では産業革命以降の多彩な造形活動と近代建築の成立を、第2部では1960年代後半以降の現代建築を、第3部で戦後から現在にかけての日本建築を扱う。これにより、近代・現代建築の展開を理解し、建築設計の歴史的展開と理論的側面に関心を抱く態度を養う。本授業は「建築意匠論Ⅰ・II」の前半にあたる。	
		構造力学Ⅰ(静定構造)	構造物の安全性確保には、自重・地震・風などの力に対し建物がどのように成立しているかを理解した上で設計を行うことが必要である。まず力の釣合い・合成・分解について学び、構造解析の基本である静定構造物を対象にして力学の基本原理を学びながら、構造物における力の流れを理解する。特に力の釣合い条件から部材に生じる力が求められることを学び、色々な荷重が働く静定梁、静定ラーメンおよび静定トラスの部材に生じる力の計算方法などを学ぶ。	
		建築CADⅡ(実習)	建築CADⅠ（実習）に引き続き、2次元による設計図面の作図、および3次元モデルの作成を学ぶ。また、事例や課題を通し、３次元による建築的発想およびプレゼンテーション技法を習得することを目的とする。３次元ツールを操作し作図を行い、内観パースや外観パースを完成させる。また、作図方法や図面の表現方法を考え、建築的発想およびプレゼンテーション技法を修得する。建築ＣＡＤＩ(実習)でCADの２次元操作を理解・習得した者を受講対象者とする。	

専門科目	住居・建築系	環境保全学	地域の自然環境に息づく動植物の中には、人間の営みの影響で絶滅の危機に瀕しているものが数多く存在する。こうした希少生物は、我々の生活環境の健全性や持続可能性のシグナルとも言える。本講義では、希少生物について生物多様性の保全の観点から、私物保護の基礎的知識を身につけるとともに、希少生物を取り巻く自然環境の現状、我々の生活環境の影響、保全活動について実例をを通して学修し、自然との共生社会実現に向けた思考基盤を作る。	
		ＣＧの世界	この授業では、コンピュータ上に画像の生成を行うために必要なCGの知識と技術を修得する。知識では、図形の知覚効果、デジタル画像の基礎知識（標本化、量子化、解像度など）、コントラスト変換の仕組み、濃淡変換とフィルタリングの原理、モデリング、レンダリング、コンピュータアニメーション、２値画像処理、パターン認識といったCG制作で扱うものを学ぶ。さらに、実際に3次元CADソフト、デザイン系ソフトを使って表現技法を学ぶことによりCGの知識を深めていく。	
		建築材料学（含実験）	建築の設計においては材料・構法についてその特徴を十分に認識して選定する必要がある。そのために、材料の持つ性能が、美観・機能性・構造安全性などの複数の要求性能を満足することを考慮して材料を選定できる知識・技術を学ぶ。主に木・コンクリート・鉄および仕上げ材の特徴について学び、特にフレッシュコンクリートの硬化後の性質、鋼・木材を建築材料として使用する場合の性質、建築に使用されている内外装材料についての基本的な知識を学ぶ。	講義　30時間 実験　4時間
		住居・建築計画学Ⅳ（複合建築デザイン他）	複合建築（特に文化施設・公共施設）に求められる空間機能と空間構成手法を事例にもとづき解説する。建物の機能的な側面、各機能の空間的な関連について理解し、建築計画の基礎を身につけることを目的とする。また同時に、すぐれた建築家の設計過程をもとに、その建築家がいかに計画学的にゆたかに思索しているかをみていく、という学びも行ない、学生が住居・建築計画についてしだいにすぐれたものの分かる眼を獲得していくことを目指す。	
		建築設備	建築の伝熱、日射と日照、換気設備、空気調和設備、空気線図の読み方 、給水設備、排水・通気設備、衛生器具設備、給湯・ガス設備、建築設備の省エネルギー対策と維持・保全を学ぶことを予定しており、次の4点を目指す。1)設備の機能やシステムを理解し、用途に応じた基礎的な設備計画の導入ができ、建築計画に反映できる。2)サスティナブルな建物のライフサイクル評価の重要性を認識できる。3)地球環境問題の原因と温暖化のメカニズムを理解し、建築・設備計画上の考え方や日常生活における取るべき行動・意識を高めることができる。4)空調負荷削減のための省エネルギー技術の考え方を身につける。	
		建築積算	建築の生産活動に携わる技術者として建築積算についての基本的な知識や技術を理解し、建築工事費の算定ができるようになるとともに、建物のライフサイクル全般における建築コスト管理の役割について理解することを目指す。 授業内容としては、建築生産プロセスと建築積算の役割、建築数量積算基準と内訳書、建築数量積算、内訳書の作成と工事費の構成、建築積算データの整理と活用、改修工事の積算、設備工事の積算、建築積算の現状と今後を予定している。	

専門科目	住居・建築系	住居・建築設計実習Ⅳ	教育施設等としてのコミュニティセンターおよびメディアセンター等のすぐれた事例から、都市空間を豊かにする諸施設（学 - 舎（学ぶ場所））の空間や機能等を学びつつ、オリジナル課題に取り組んで、建築設計のこれまで以上の習熟を目指す。種々の相にわたる複合的要素を統合しつつ設計する力を修得し、さらに自らの空間表現を行うための建築設計製図の手法、プレゼンテーションの手法を修得する。	共同
		建築意匠論Ⅱ	建築の形態やその構成理論等に関する研究成果を教示することを目的とする。すなわち、主に建築制作にたずさわる際の多方面の議論や思考の助けとなる知、あるいは知っておくべき理論的フレームを、解説することを目指す。 建築意匠論全体の後半として、＜建築の原点＞をまず詳細に論じ、その後、＜建築の要素＞、＜建築のかたち＞、＜部分と全体＞、＜光について＞、＜空間について＞、＜近・現代の都市＞、＜力の流れと表現＞、＜持続可能性と建築デザイン＞という流れで解説を展開する。	
		構造力学Ⅱ（不静定構造、断面設計）	構造材料の力学的性質を学び、部材に生ずる力に対して安全に設計する基本を学ぶ。構造力学Ⅰに加えて、力学の基礎的能力を習得する。特に構造材料の力学的な特性、および断面の性質に関わる基本的な事項について理解し、部材の強さと変形の断面計算を学ぶ。また、静定構造物の変形と部材に生じる力の関連を理解し、不静定梁の解法から不静定ラーメンのたわみ角法・固定モーメント法などによる代表的な不静定構造物の部材に生じる力の計算方法などを学ぶ。	
		建築施工	建築に対する建築主の要求、および設計者の意図とを、現地において具現化していくことを学ぶこと、これが本講義の大概要として記しうることである。 工場における大量生産方式による工業製品などと違い、建築は、特定の場所での一品注文生産であり、そこでの特有な条件への対応を求められるという特異性をもっている。設計図の意図するところを読み取り、それを施工計画として立案し、実行していくには、各種施工技術の理解のみならず、それらをマネジメントする管理技術の習得も必要である。よって、施工の技術・工程の学習や、現場でのモノづくりを学習することによって、建築のライフサイクルにおける施工の位置づけを理解し、設計やデザインの領域にフィードバックできることを最終的な目的とする。	
		建築法規	現実の「住居」や「まち」を計画・設計する場合には、それに関連する法律も計画・設計条件の一つとなる。それは、具体的に技術規定として建築の構造や形態を制約するだけでなく、それに基づく手続きの過程や期間、コストも含めて建築の成立に大きな影響を及ぼしている。 この講義では、現行の建築関連法規のこうした運用面について、できるだけ実証的に解説し、現実の住宅および建築の計画・設計に活用できる基礎知識として修得することを目的とする。	
		建築構造Ⅱ（建築構法、耐震構造）	建築構造に加わる荷重外力、構造原理、使用する材料・各種構造の仕組みと特徴を体系的に学習し、建築に携わる者として知っておくべき基本的構造知識を建築構造Ⅰに加えて、習得する。特に構造設計全体の流れ、主要構造の耐震設計，構造計算の留意事項，各種耐震構造についての知識を身に付け、鉄筋コンクリート構造・鋼構造においては構造設計のための基本的知識を学ぶ。なお、構造力学Ⅰ・Ⅱで修得した知識を活用して鉄筋コンクリート構造・鋼構造では基本的な構造計算を行う。	

専門科目	住居・建築系	住居・建築計画学Ⅴ(建築・都市デザイン)	1年次からの住居・建築計画学・設計実習との関連およびそれらの延長、また卒業設計への準備として、人間と環境との関係を、主として建築・都市デザインを素材として設計の方法論を学習する。 指定した主要文献および各自の選択した文献の研究を基礎として、建築・都市デザインの設計方法論を学ぶ。また、現在進行中の内外の建築・都市デザインの具体的な試みについても学習し、学生の研究発表や討論なども交えて、理想的な建築・都市デザインの姿はこれからどのようなものであるべきか、またどのように実践すべきかを考える。	
		住居・建築設計実習Ⅴ(含測量)	インテリア・エクステリア・ランドスケープはそれぞれに関連しあうものであるとともに、デザインされた人工環境はまた人・自然環境との間での有機的な関係を保つべきものである。そのような観点からこれまでの実習との関連を考慮しながら、多様なデザインの中から、ここではさまざまな機能の建築・都市施設をその自然・人工環境との美的・科学的関係・調和に配慮しつつ、特定の場所を想定して建築・自然・都市環境デザインの実習を行う。 （オムニバス方式／全30回） （5 真木利江・57 小川晋一／16回）（共同） とくに建築と都市環境との関係をテーマとして設計指導を行う。 （5 真木利江・81 中村勝己／14回）（共同） とくに建築と自然環境との関係をテーマとして設計指導を行う。	共同・ オムニバス方式
		建築倫理(含建築職能論)	本講義では、①建築分野の職能や建築生産の現状への理解を深め、②事例研究を通して建築実務と建築倫理について学び、建築に関わる問題および背景について、さまざまな方向から考える力を身につけることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （3 細田みぎわ、6 小林文香／2回）（共同） 建築に関わる職能と倫理の関係について、事例をもとに考察する。 （3 細田みぎわ／6回） 建築士と建築家、設計と監理、建築を取りまく社会規範、建築プロジェクトのチーム編成について事例をもとに現状把握を行う。また、建築と環境問題、建築と災害などをテーマに建築に関わる問題を取り上げ、問題の背景、解決策などについて討議を行う。 （6 小林文香／7回） 空き家問題、住みつなぎ、近居など地域居住に関する問題を取り上げ、問題背景の基礎知識を習得の後、問題の捉え方、解決策について討議を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		建築プレゼンテーション実習	この授業では実習課題を通じて、自分の思考を言語化し人に伝えるためのプレゼンテーション技法を養うことを目的とする。また、課題制作を通して、人に伝えるためのプレゼンテーション技法を養うことを目的とする。具体的には、プレゼンテーション手法の分析を行い、コンセプトの図式化・表現方法および模型の種類・スケール・制作手法を習得する。また、建築家の作品表現を参考にし、プレゼンテーション図面を制作し、プレゼンテーション技法の向上を目指す。	
	被服・ファッション系	西洋服装史	服装は、時代や民族により異なり流行とともに移り変わっている。この授業では、現代の服装のルーツとなる西洋の服飾史の変遷から、それぞれの時代の服装成立の条件から、気候や風土の違い、歴史的背景や繊維加工技術の発展などを読み取り、服飾についての基礎知識を修得する。また、アイテムの特徴から、デザインや素材、色、形などの基本的な知識を学び、服飾や装飾から現代のファッションについての意識を高めることを目的とする。	隔年

専門科目	被服・ファッション系	ファッションデザイン論	衣服は私たちの生活になくてはならないものである。その中でも機能的なデザインから、造形的なデザインまで様々である。衣服は、同じデザインであっても、形、色、素材によって全く異なる印象を与える。 この授業では、基本的なデザインの基礎からファッションデザインについて基礎知識を習得する。さらに、多くの芸術からデザインへと発想の転換を行い、造形的デザインを展開する。さらに、デザインのイメージMAPを作成することにより、ファッションイメージを効果的に表現する能力を養うことを目的とする。	
		被服材料学	今日、被服材料には多種多様な繊維が利用されている。その中でも、必要性能である身体保護と審美的性能などをはじめ、様々な特性の被服材料がある。この授業では、それらの繊維の構造を学び、繊維の性質や性能を修得する。そして、繊維の性質や性能が糸や布に与える影響について理解する。また、目的に応じて、繊維の改良や加工することにより、繊維製品の被服材料としての用途を広げている。これらの必要性能について理解を深めることを目的とする。	隔年
		プレゼンテーション概論	現代社会における企業などのビジネス組織において、ビジネスワーカーに必要とされる技能の一つにプレゼンテーションがある。単に情報機器を使用したものをプレゼンテーションとする傾向に対して警鐘を鳴らし、本来のプレゼンテーションのあり方、それに関する知識や技法についての理論を体系的に学習することを目的とする。また、実践したプレゼンテーションには必ず評価がついてくることから、PDCAサイクルから評価の意味を考察し、フィードバックの重要性を理解する。	
		情報倫理	情報化社会を「秩序ある社会」とするには、情報社会の特性と問題の所在を明確にさせ、それらを認識していく必要がある。情報社会における「問題」「犯罪」を多くの事例をあげて、それぞれの対処方法についてを学習する。通常の社会での常識が「ネットワーク社会」でも常識であることを理解することから始まる。特に、常に新しいツールが出現してくるため、それらを利用する際の注意点や、自分を守るための最低限の知識を身につけることを目的とする。	
		日本服装史	この授業では、体系的な日本の服装の歴史を学び、デザインや色彩、被服それぞれの構成など、それらの巧妙な組み合わせを知ることで、服飾の多角的な見方を習得することを目的とする。また、自らの装う意味や他者のファッションが表現のするものを見抜く力も色や文様などの意味を知ることにより養成する。この授業で取り扱う時代は縄文、弥生、白鳳、飛鳥、奈良、平安、鎌倉、室町、戦国、江戸、明治、大正、昭和初期までとし、考古学的視点も含めた内容とする。	
		感性デザイン論Ⅱ(ファッション文化史)	現代社会において、過剰なまでに氾濫するモノを選択するうえで、デザインは大きな要素を占めている。現代だけでなくひとはつねに新しいデザインを求めてきた。インテリア、ファッション等においても、デザインはわたしたち消費者を刺激する強い力といえる。 この授業では私たちにとってもっとも身近なファッションデザインをとりあげ、特に若者の日常生活から発生・流行した“ストリート・ファッション”に注目し、戦後のファッションの歴史と、彼らの価値観の変化、および若者を取り巻く環境の影響について考察する。	隔年

専門科目	被服・ファッション系	生活とファッション	「ファッション」とは流行のことである。普段何気なく接しているからこそ気付きにくい、日常的に用いられている流行と、日々の生活の関係を具体例を用いながら分類することで、生活を構成する要素を明らかにし、客観的な視野を獲得することをこの授業の目的とする。 衣生活に関わる内容を中心としながら、食生活や住生活、生活環境や生活文化などにも着目することで、生活に関わる多角的なファッションの知識とそれを根底にしたデザインの発想も促す。	隔年
		被服構成学(含実習)	被服製作のための基礎知識と製図理論、製図展開技法を習得する。まず、人体の構造と機能（人体の構造とプロポーション、人体計測の測定部位と計測の種類、運動機能とゆとり量の関係、人体と衣服原型の関係、）を把握する。次に、各自の身体の計測値を元にして、平面製図法を用いて、身頃原型および袖原型を製図する。シーチング布により袖付き原型を縫製する。その後、実際に原型を試着し、シルエット、身体サイズの適合性、ゆがみやつれの有無、動きに必要なゆとり量などを観察し、補正を通して体型と原型の関係を理解する。また、縮尺原型を用いて、ダーツの移動と身頃の立体化の関係について学ぶ。さらに、原型を展開することで、シャツ、スカート、ワンピース等の、デザインされた衣服のパターン製図理論を学ぶ。	講義28時間 実習4時間
		ファッション・デザイン実習Ⅰ	被服の構成に関する基礎的知識と技術を習得することを目的とする。 まず、平面構成法（和服）と立体構成法（洋服）における衣服構造の違いを把握し、人体と衣服構成の関係について理解を深める。次に、手縫いによる基礎縫い、部分縫いを練習し、被服構成に必要な基礎的技術を習得する。実際に被服材料（布）を用いて平面構成としての大裁女物ひとえ長着（ゆかた）および、立体構成としての洋服（スカート等）を制作し、布地の性質と衣服のシルエットとの関係、および衣服の機能性について理解する。	
		写真映像論	インターネットの普及によって、写真・映像は氾濫しており、今日、写真・映像のない状況を夢想することすら困難である。現代社会において、重要な伝達メディアであり、あまりに当たり前にありふれたものになってしまっている写真・映像について当たり前を疑うことから始める。まずは写真の原理を理解し、写真・映像など視覚表現の歴史を写真の発明からたどるとともに、現在の多様な在り方、発信の双方向性などからその特性や、限界と可能性、どのように向き合っていくべきか、実践的に考える。	
		服装社会学	ファッションデザインを通して、その時代の新しい女性たちの生き方・ライフスタイルを提案してきた女性デザイナーに注目し、彼女らのファッション哲学を学ぶ。また、日本の女性アイドルのファッションから、戦後の女性たちが求められてきた「理想の女性像」「魅力的な服装」「女性たちの価値観の変化」を考察する。さらに、ファッションの流行が女性たちの身体と精神を害してきた流行の歴史を振り返り、ファッションとは女性にとってどのような意味があるのかを考えるきっかけとする。	隔年
		ビジネス実務演習Ⅰ	ビジネス活動とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業などのビジネス組織における積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性、人間関係調整の重要性について考察を深めることを目的とする。また、急速に変化するビジネス環境に対応し得るクリエイティブなビジネス・ワーカーとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求する。実習およびロールプレイとそのフィードバックを通し「わかることからできること」を目標とする。	

専門科目	被服・ファッション系	プレゼンテーション演習Ⅰ（アサーティブ・コミュニケーション論演習）	現代社会における企業などのビジネス組織において活用されているプレゼンテーションに関する知識や技法のなかでも、基本となるコミュニケーションのあり方を体系的に学習する。とりわけ、欧米社会だけでなく、新興国においてもビジネスのフィールドでは、アサーティブネス論に基づいたコミュニケーションのトレーニングが盛んである。より良い人間関係構築のためのコミュニケーションについて、ロールプレイなどを通して学ぶことを目的とする。	
		テキスタイルデザイン実習(手工芸)	被服において、テキスタイルのデザインは生活者に対して大きな影響力を持っている。それをふまえて、自身で作成する経験をすることで、その成り立ちの歴史や、技法の知識、デザイン力を獲得することを目的とし、染色、編み物、織物、刺繍などの技法を用いて、布地のテキスタイルデザインを行う。 （オムニバス方式／全30回） （4 三木幹子／10回） 機織り機を用いて、織物のテキスタイルデザインを行う。たて糸とよこ糸の色彩配置や組織による模様や図柄などのデザインの違い、および糸の種類や糸密度による織物の風合いの違いを理解する。 （32 楢﨑久美子／10回） 編物によるテキスタイルデザイン（カギ針編み）、刺繍によるテキスタイルデザイン（洋刺繍）を行う。基礎技術を修得し、色彩やデザイン構成による表現力を培う。 （9 熊田亜矢子／10回） 染色によるテキスタイルデザイン（絞り染め、型染め）を行う。繊維の種類と染料、染色方法について、実習を通して染色の基礎知識を学び、染色における表現技術を養う。	オムニバス方式
		マンガ・アニメーション研究	マンガ・アニメーションは我々の生活からの派生物として生み出されたが、日本文化への定着が進んだ現在、我々の生活に新しい影響を与えるトレンドを与える先端的文化として、国内外において評価されている。日本の輸出産業としても注目されるマンガ・アニメーションについて、日本作品を中心に海外作品との比較によって、相互の影響関係を視野に入れつつ、その歴史と表現方法の変遷をたどるとともに、現実的な我々の生活空間への影響について考える。	
		ビジネスデザイン	地域活性化のためには、雇用されることに期待を持つだけでなく、自らが起業し他者を巻き込むことが望まれる。自らがプロジェクトマネージャーとなること目指し、ビジネスの基本を習得し、企画立案・計画実行（デザイン）する過程において必要な知識・技能と対応能力を養う。身近な問題に着目したビジネスアイディアについて、チームで情報収集し、基本的なフレームワークを活用した分析を行い、討議を重ねたうえで、企画書を作成し、プレゼンテーションを行う。総合的なビジネスデザイン力を身につけることをねらいとする。	

専門科目	被服・ファッション系	ファッション・ビジネス	ファッションビジネスは、繊維製品にスタイルやイメージなどの付加価値をつけて新しいデザインを表現することによって、消費者の感性に訴え共感を得て、流行を生み出している。また、繊維ファッション産業は、生活を心豊かで質の高いものにする、高い感性価値を持った商品を提供するという役割を果たしている。 この授業では、フッション業界でビジネスを効率的かつ効果的に行って活躍するための専門的な知識や感性および技術を学び、実務能力を養うことを目的とする。	
		被服管理学	今日、被服材料として多種多様なものが用いられている。各々の繊維の素材や製造・加工方法などの特性を知ることにより、よりデザイン性の高い衣服製作が可能となる。また、これらの繊維製品を合理的に管理するには、被服管理の基礎理解を十分理解することが必要である。 授業では、繊維製品の性質・加工方法などについて講義し、被服製品の洗浄を中心に被服の保管と管理について講義する。繊維の特徴・加工から管理・保管について理解を深める。	隔年
		ビジネス実務演習Ⅱ	ビジネスワーカーの役割を組織論から理解し、職務のあり方を考察し、事例にそって業務内容を分類する。ケーススタディを通して問題解決のための対応や処理の手順、ならびに優先順位のつけ方を考察し、対応能力の向上を図るとともに、ロールプレイを通して実践において必要な知識と技能を学ぶ。さらに、ディベートを通し、ビジネス現場で必要となる、情報に対する批判的な視点を養い、さらに簡潔かつ論理的なコミュニケーション力を高めることをねらいとする。	
		プレゼンテーション演習Ⅱ	プレゼンテーションの理論と実践をより深め，さらに動画を用いた効果的なプレゼンテーションを実践することを目的とする。与えられた課題に対しての個人発表を行なうとともに、グループに与えられた課題を協同作業で企画し、映像で表現するための制作ならびに発表を行う。ビデオカメラなどの機器を使い、素材を集め、編集機器で整える一連の作業を通じて、プロジェクトチームのあり方を学ぶ。	
		ファッション・デザイン実習Ⅱ	被服に関する基礎的な知識の習得だけでなく、自己表現のためにそれを応用できるようになることを目的とする。 特に、既製服の氾濫する昨今だからこそ、自分自身の手で制作する喜び、楽しみをこの授業を通して身に付ける。 授業の内容としては手縫いに関する実習、手縫いによる小物製作、ミシン縫いに関する実習、制作に関する用語理解と採寸、デザイン画の書き方、ミシンによる被服製作を予定している。振り返り学習として、また、実習記録書をまとめ、自分自身の能力を客観的に見る力も養成する。	
		データ処理	我々を取り巻く生活環境にはインターネットをはじめとして、経済、文化、居住など生活に関わる様々なデータやデータベースが存在している。そのデータを目的に応じて適切に処理し、分析し問題を解決することは情報化された現代においては重要な能力の一つである。この授業では、データ処理のツールとしてExcelを利用し基本的な統計処理の手法、さらに、目的に応じたグラフ化、データ間の関連性などについて学び、データの集まりから、さらに進んで現象を視覚的・実践的に解釈が行えるための知識と技術を学ぶ。	

専門科目	被服・ファッション系	被服心理学	人間は、何かを見る・聞く・匂う・味わう・触る・体験することである種の感情を抱く。また、人間は、身の回りを包むインテリアやファッションによって自己を表現し、自分の情報を伝達している。個人の嗜好、価値観、ライフスタイル、生活環境、人間関係といったものがデザイン行動を決定しているともいえる。 この授業では、デザイン行動における造形心理要素を取り上げ、人間と社会の要因と関連づけながらデザイン行動に関して考えてゆく。またＳＤ法を用いた官能評価法により、データ収集を行い、因子分析や主成分分析等の多変量解析結果から、造形心理的考察を展開し、人間の感覚とその要因について考えていく。	
		地域と歴史	我々の衣食住の生活は、それぞれの地域の持つ歴史や文化の中で育まれ、継承されてきた産物で構成されている。本講義では、高校までに習ってきた日本史・世界史をいったん離れて、歴史学とは何かを考えたのち、歴史学の基礎、歴史学の方法、歴史学の思考法を学び、そのうえで、地域の持つ資源やその特性の背景にあって、それを特徴づけている歴史について、地域ごとの違いや共通点に着目しながら理解することで、我々の生活空間を彩る文化を洞察する目を養う。	
		広島地域ビジネス論	広島地域経済の概況を知るとともに、広島の地域経済を支える産業や、広島県の特産品などについて、ビジネスの第一線にある実務者の方がたから話題を提供していただき、自らも調査・分析を深めることを通して、広島地域ビジネスの現況を理解することをめざす。 （オムニバス方式／全15回） （12 篠原収／7回） 広島の産業の地域特性についての理解を深めるために、広島の経済の概要、広島の産業の特性、歴史的な変遷について講義を行う。 （25 吉田順子／8回） 実際の広島の企業での取り組みの実例を紹介するとともに、広島の企業、産品、伝統工芸等、地域資源を活用した地域活性化提案を作成し、発表・討論を行う。	オムニバス方式
		アパレル企画演習	ファッション、インテリア、プロダクトデザイン等の生活デザインに関する身近な事柄を題材とし、商品企画・商品開発の際に必要なマーケティング分析と調査手法を学ぶ。質問紙法によるアンケート調査法を用いて、消費者の消費生活に関する実態調査を行い、分析結果についてプレゼンテーションを行う。また、商品のイメージについてのポジショニングマップ（イメージマップ）を作成し、プロダクトのデザインの違いによる評価の差を認識する。	
		アパレル・コーディネート演習	アパレル業界や各種製造メーカー企業において、商品企画の際に必要な発想力、プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。 教室内に設置したブティックの服飾アイテムを用いて、テーマに沿ってコーディネートを行う。その後、コーディネート作品画像と使用したアイテム画像を用いて、作品のコンセプト、使用アイテムの詳細、着用者と着用場面の設定、コーディネートで工夫したところとその効果等について、パワーポイントのスライドを作成する。 また、視覚官能評価法を用いて、コーディネート画像の官能評価を行い、自分の評価と他者の評価の比較を行う。その後、各自のコーディネートの魅力を説明するためのプレゼンテーションを行う。 コーディネート課題は３テーマについて行う予定である。	

専門科目	被服・ファッション系	服飾美学	服飾は時代や地域・文化によって、様々な文化的表現、思想的表現を行い、また、社会的地位を表象している。 この授業では、服飾に用いられる色彩、素材、技術、組み合わせを分類・分析することで、服飾が象徴する思想を客観的に読み解けるようになることを目的とする。 授業内容としては、絵画における服飾美学、演劇における服飾美学、祭礼における服飾美学、文学における服飾美学を予定している。それぞれの内容において動画資料などを用い、具体的な例に触れることを重視している。	隔年
		ファッション・プレゼンテーション実習	与えられた課題テーマから様々なアイディアを発想し、デザイン構想を基に実際のファッション作品を形作るまでの過程を繰り返し習熟することで、豊かな発想力と表現力を身につけることを目的とする。 ２年次の被服構成学およびファッション・デザイン実習で修得した被服製作に関する知識と技術を基にし、さらなる高度な被服構成技術を習得する。 この授業では、大学祭でのファッションショーに使用するデザイン性の高いオリジナル衣装（ドレス・ワンピース等）を自由にデザイン・制作することで、想像力・独創性、およびイメージを実体化する能力を養う。	共同
		ファッション・プレゼンテーション演習	「ファッション・プレゼンテーション実習」において制作したファッション作品（ファッションショーの衣装）に関する企画を行う。衣装だけでなく、アクセサリー、服飾品、小物、ヘアメイク等を含めたトータルコーディネートを行い、モデルが着用するモード作品としてプロデュースした後、ファッションショーの舞台でのパフォーマンスを通してプレゼンテーションを行う。 また、図書館フリースペースでの衣装展示を企画し、キャプション制作、ポスター、チラシ作成、作品配置を含む作品展示のプレゼンテーションを行う。	共同
		ファッション・デザイン実習Ⅲ	ファッション・デザイン実習Ⅱおよびファッションプレゼンテーション実習で修得した被服製作に関する知識と技術を基に、さらなる高度な被服構成技術を修得する。この授業では、裏地の付いた衣服としてジャケットの製作を行う。ジャケットは、3面構成もしくは4面構成の襟付き、2枚袖であることを目標とする。ジャケットをデザイン・製作することにより、想像力・独創性、縫製技術を身につけ、イメージを実体化する総合的な能力を養うことを目的とする。	
	生活デザイン系	感性デザイン論Ⅰ（ポップカルチャー）	現代の日本の若者文化（ポップカルチャー）は、海外から「クール・ジャパン」と呼ばれ、称賛されている。特にアニメ、マンガ、ファッションは、日本独自のデザインや感性、個性が高く評価されている。 この授業では、ポップカルチャーの中でも、特に日本の少女文化（ファッション、少女マンガ等）を取り上げ、戦後の少女文化の変遷を辿ることで、各時代に少女時代を過ごした世代が、どのような価値観（恋愛観、結婚観、人生観、将来像）を持っていたのか、また、社会背景、文化、生活習慣が女性の生き方や思考にどのような影響を与えてきたのかを理解する。	隔年
		生活造形論（工芸とデザイン）	私たちの生活は様々なものに囲まれている。これらのものはどのような考えをもってつくられ、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。授業では産業革命以降のデザインという行為の史的展開と、基本的なデザイン理論、現代デザインの背景と課題を解説する。デザインとは何か、デザインの歴史やデザインの役割や可能性について理解を深めるとともに、デザインに対して日常的に関心を抱く態度を養うことを目的とする。	

専門科目	生活デザイン系	インテリアデザイン論	人々の生活の中で最も身近に感じられるのがインテリア空間である。私的な空間から公的な空間まで、わたしたちはインテリア空間において活動をしている。本講義では、インテリア空間の構成要素、社会的背景等を学ぶことを通して、インテリア空間をデザインするための基礎的な概念・技術を習得する。 （オムニバス方式／全15回） （65 矢代恵／10回） インテリアの歴史、色、プレゼンテーション技法（パースの書き方）、インテリア図面の読み方・書き方などについての講義を行う。 （3 細田みぎわ／5回） 人間工学、椅子、あかり、インテリアエレメントについて、講義を行う。また、さらに実感を得るためにショールームの見学を行う。	オムニバス方式
		住居設計実習(含製図)	基本的な製図の手法や図面表現を学び、製図の基礎を習得して、住居という建築にすむことの意味、住まい方などを考える契機となることを目指す。また、建築家の住宅作品の図面を描き写すことにより、その住宅についての設計概念を理解する。授業の計画としては、木造二階建て住宅の図面トレース、鉄筋コンクリート造住宅の図面トレースを予定している。 （オムニバス方式／全30回） （68 橋本明美／16回） 線の練習、木造二階建て住宅の図面トレースの指導 （101 道工真衣／14回） 鉄筋コンクリート造住宅の図面トレースの指導	オムニバス方式
		健康科学（含栄養学概論）	『食』をめぐる情報が氾濫する現代社会において、『食』について様々な角度から分析し評価を行うことで、『食』を選ぶ力・選食力を養うとともに、望ましい食事のあり方を学ぶ。あわせて食品の安全性に関する問題や地球環境に配慮した『食』の重要性も学習する。 具体的な内容としては、栄養・健康問題、エネルギーアセスメント、食事バランスガイドの実践、生活習慣病予防のための栄養管理、生体リズムと食事、食べ方の基本パターンなどである。	
		公共政策	公共政策の対象、公共政策の担い手、公共政策の決定・実施過程、公共政策の評価について講義する。特に生活デザイン分野を念頭に、国や地方公共団体（都道府県、市町村）の活動を取り上げる。次に、NPO等の民間団体による積極的な公共活動の状況について学ぶとともに、これらの団体の活動を支援する特徴的な支援制度について学ぶ。公共政策の意思決定を国民が知るために重要な情報公開法、公文書管理法、行政機関個人情報保護法等についても学修する。また、公共政策をめぐる決定（意思決定過程を含む）が紛争の対象となった判例を取り上げる。	

専門科目	生活デザイン系	博物館教育論	博物館は、実物資料を通して人々の学修活動を支援する社会教育施設である。博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し，博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。博物館教育の意義と理念、コミュニケーションとしての博物館教育、博物館教育の方針と評価について検討し、博物館の利用実態と利用者の博物館体験、博物館における学びの特性を解説、博物館教育活動の手法、企画と実施などの実際を学ぶ。また博物館と学校教育についても取り上げる。	
		コミュニティー論	地域貢献に主体的に関わっていくためには、その中心となるコミュニティについての理解は不可欠である。この科目では、日本の伝統的な共同体構成原理や、都市化による変化、現代のコミュニティの特徴について理解する。また、アジア・アフリカ等、海外のコミュニティの事例を学ぶことを通じて、コミュニティの多様な在り方について理解を深める。これを通じて、現代の日本におけるコミュニティのあり方について、自らの考えを養い、他者に表現できる力を身につける。	
		Webデザイン演習	インターネットの仕組みを理解し、情報発信手法である「Webサイト」の作成方法を具体的に学習する。まずHTMLの基礎を学習する。次にスタイルシートを利用して作成する新しい方式のWebページの作成方法を学習する。また、様々なアプリケーションを利用して作成するWebページを学習する。インターネットではWebサイトが企業の宣伝・広告および消費者動向の調査など、様々な情報発信に利用可能である。そのためWebサイト作成における仕組みやデザイナーの観点からの注意点なども解説する。	
		住居・建築計画学Ⅰ（独立住宅デザイン）	住居・建築設計実習との関連もある程度考慮した上で、人間と環境との関係を、主として住居・建築を素材として設計の方法論を学習する。指定した主要文献および各自の選択した文献の研究を基礎として、住居・建築の基礎的設計方法論を学ぶ。 また、現在進行中の内外の住居・建築の具体的な試みについても学習し、学生の研究発表や討論なども交えて、理想的な住居・建築の姿はこれからどのようなものであるべきか、またどのように実践すべきかをともに考えたい。	
		インテリアデザイン演習	インテリアデザイン論で修得したインテリア空間の基礎的な概念・知識・技術を、演習（インテリア空間・家具）を行うことで、社会に役立つリアリティのあるデザインを修得する。材料の選定・色彩計画・インテリアコーディネーション計画・製図・プレゼンテーションの実践となる演習課題を行う。 （オムニバス方式／全15回） （66 松尾兆郎／7回） 椅子の製作。1本の木材より椅子に至るまでの過程を体験し、素材の特性を学び、家具をデザインする上で重要な知識・技術の修得を目差す。 （83 賀來寿史／8回） インテリア空間（飲食店・物販店）の設計演習。	オムニバス方式
		国際社会の文化と言語	複数の対象地域、国家、超国家の文化的な要素を取り上げ、比較考察することで、国際社会の様々な文化の多様性を理解する。まず、文化・芸術の幅広い領域の中から、一定の対象を取り上げ、次に、文化財の保護制度や保護組織を学ぶ。文化財の保護制度としては、法規制や公的な支援・助成の在り方が挙げられ、保護組織としては、博物館、図書館、文書館等が挙げられる。あわせて、当該地域で使用されている言語を取り上げ、その地域の文化をより身近に理解することを目的とする。	

専門科目	生活デザイン系	ヴィジュアル・マーチャンダイジングⅠ	ヴィジュアル・マーチャンダイジングは、消費者の多様なライフスタイルや価値観が叫ばれる昨今、小売業全般で重要視されている商品政策のことである。ヴィジュアル・マーチャンダイジングの目的を踏まえ、消費者に対し、ヴィジュアル（視覚的）に訴える店舗づくりや品揃え計画についての基本的な考え方と手法を習得することを目標とする。 卒業後の進路として、アパレルやその他メーカーにおける商品企画、店舗設計、インテリアデザイナー、マーチャンダイザー（MD）、バイヤー、マーケティングディレクター、などの専門職を目指す学生は履修することを推奨する。また、後期の「ヴィジュアル・マーチャンダイジングⅡ」と併せて履修することが望ましい。	
		市民社会とNGO・NPO	高度情報社会において、今までにない速度で社会が変化し、政府や自治体のみの公的サービスにより諸問題に対処するには限界が見えてきている。こうした変化に対応するために、まちづくりや環境保全等を推進する民間非営利組織(NPO)の活動が活発に展開されている。本講義では、身近な現代社会における様々な問題に注目しながら、NGO、NPOの活動や役割を理解するとともに、活動事例の中から、様々なNGO、NPO、営利企業が地域課題や社会課題に取り組む事例を分析し、取り組む課題と効果を理解し、社会における役割について考える。	
		造園表現（ガーデニング）技術論	造園の広範多岐にわたる対象の範囲を理解し、造園の概念と意義を理解するとともに、設計課題解決のための造園空間創成手法・技術の理論を修得する。授業内容としては、造園の理念、造園の設計史、造園の設計におけるコンセプト、造園の設計における事例と手法を予定している。 （オムニバス方式全30回） （96 仙石里恵／14回） 花壇や住宅の植栽などの小規模な作品に関する講義とする。 （63 新畑朋子／16回） 庭園や公園など比較的規模の大きい作品に関する講義とする。	オムニバス方式
		住居・建築計画学Ⅱ（生活デザイン他）	住まい・住居とは、そこに住む人たちの生活が空間化されたものである。また住宅の設計とは、住まい手の要求や設計者の思索の結果だけでなく、そこに携わる人々の生活経験、社会経験の試行と積み重ねのなかで豊かになっていくものである。計画はその設計に先立ち、要求、条件、機能、材料、技術などを整理し、住まいを現実に建つ住宅として空間化していく行為であり、そこには幅広い社会認識が必要とされる。この授業では、人々の生活像、家族像、住要求の捉え方、および住空間の計画・設計のための基礎的な概念、手法を学ぶ。	
		情報管理論（含情報処理）	情報社会において、理性的に自立した市民として良い情報発信者となることは必要である。この授業では、情報とはなにか、その概念、価値、深化についてまず明らかにし、情報の意味づけ（情報処理）について考える。さらに、会社、工場、家庭での情報処理システムについて解説する。情報処理の実践では品質という情報管理に用いられるABC分析を実際に行い、情報管理の必要性を理解する。その上で、ハード面の進歩、情報システムの変遷を通して複雑な目的で情報を管理する現代社会の姿について情報システムの立場から概観する。	

専門科目	生活デザイン系	地域文化実習	我々の住む地域をフィールドとして、生活に密着した地域の文化資源を見出し、それを活用する企画手法について学ぶとともに、その実際を、地域連携型のフィールドワークを通して、自ら企画・実施しながら実践的に学ぶ。 （オムニバス方式／全30回） （8 福田道宏／16回） 地域の生活環境における文化的側面に焦点を当て、地域連携型の実践活動を企画・実施する。 （7 永野晴康／14回） 地域の生活につながる行政・社会活動に焦点を当て、地域連携型の実践活動を企画・実施する。	オムニバス方式
		基礎法学	市民として、生活者として社会生活を営むにあたって必要とされる基本的な法律を学ぶ。具体的な事例を取り上げ、憲法、民法、刑法、会社法、知的財産法をはじめ重要な法律の基礎的知識を身につける。職業場面を意識した個別的な法律の学修を通して、企業で必要とされる基礎的な法的知識を身につける。また、明治期における西洋法の日本法への影響、現在の国際社会の動向が日本の法制度へ与える影響など、国際的な視野から法律を洞察する力を育む。	
		博物館概論	地域の学習の場として存在する博物館は、我々の生活に密着した文化、環境、技術等を伝達する貴重な場である。本講義では、博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。まず博物館とは何か、その歴史に簡単に触れた後、博物館の定義（類縁機関との違い）、種類（館種、設置者別、法的区分等）、目的、機能について具体的に学ぶ。また、わが国及び諸外国の博物館の歴史と現状を踏まえ、そこで「専門的事項をつかさどる」学芸員の役割と実態について、考える。あわせて、博物館関係法令を概観する。	
		生涯学習論Ⅰ	本科目では、将来、博物館学芸員・図書館司書や社会教育主事など社会教育関連の職種に就くための基本的な素養を身につけると共に、社会教育の観点から生涯学習の全体像を理解することを目指す。まずは、日常生活の中で見聞きする「生涯学習」のイメージから離れて、生涯学習をめぐる国際機関および各国の政策、日本における社会教育の歴史と現状、人々の多様な学習活動の諸相について幅広く学んだうえで、具体的に社会教育機関における生涯学習のあり方について理解する。	
		地域と宗教	この授業では、①宗教という人間社会における現象を理解するために必要な学問的方法の基礎について、②世界の諸宗教の成り立ちと現在について、③現代社会における諸課題と宗教との関わり、④「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」としての宗教が、世界の諸地域における人々の生活にどのように関わっているか、そして日本・広島における私たちの暮らしにどのように関わっているかについての比較研究、などを扱う。	
		環境教育（ESD）	環境問題の解決には、「規制」「技術革新」「環境教育」の3つが必要と言われているが、このうち、市民一人ひとりの意識改革を促す環境教育の果たすべき役割は年々重要性を増している。本講義では、環境教育の基本的考え方や効果的な環境教育プログラムの作成手法、環境教育指導者の役割などを整理し、環境と教育についての理解を深めるとともに、持続可能な開発のための教育（ESD)を踏まえた環境教育のあるべき姿を明確にし、持続可能な社会（SD)づくりに貢献できる人材育成を行う。	

専門科目	生活デザイン系	社会教育課題研究Ⅰ	地域と連動した生活空間を創造するためには、地域社会に根ざした活動を他者と共同して行う力は必要不可欠である。本授業は「社会教育主事」資格取得希望者を主な対象者として、同資格に必要な技能を演習形式で習得することを目的とする。実習は、青少年交流の家や他大学と連携して実施する。野外活動に必要な知識や技術について研修し、指導者としての実践力を身に付ける。 （オムニバス方式／全15回） （8 福田道宏／5回） ボランティアの意義、社会教育主事という職能、資格取得に必要な意識と技能を学ぶ。 （7 永野晴康／5回） 学生と教職員（本学、他大学、実習施設）と協働で野外活動にあたっての計画を作成する。 （10 伊藤千尋／5回） 学生と教職員（本学、他大学、実習施設）との協働で作成した野外活動の計画を実践し、実践を踏まえた振り返りを行う。	オムニバス方式
		社会教育計画Ⅰ	地域社会と連動した生活空間作りを行うためは、地域社会との連携は必要不可欠である。本講義では、生涯学習の場として共に学ぶ生活空間を地域に展開することを目的として、地域の持つ特性や資源を念頭に置いた社会教育の計画・立案に必要な理論と方法を習得する。また、地域に根ざした生涯学習を展開するために、各種社会教育施設等の現場の特徴や学習者のニーズを把握し、社会教育主事として社会教育計画を実際に策定・評価できる能力を身につける。	
		情報処理総合演習（クレイアニメ）	この授業では、静止画像、音声、動画データを用いて、マルチメディアデータの作成ができる知識と技術を習得する。手順としては、まず、明確なコンセプトを設定しそれに基づいた作品を企画し、主要なアニメのキャラクターをクレイ(粘土）で作成する。背景等は各自のアイデアによって自由な発想で設定し、一コマ一コマをデジカメで撮影後、ビデオ編集を行い一編の作品として完成させ、表現力と創造力を養う。作品はプレゼンテーション形式で発表を行う。	
		造形実習	わたしたちの生活は様々な形に囲まれている。これらの多くは自然発生的に形成されたものではなく、人の頭の中で考えられ、人の手によって作られたものである。この実習では、デザイン行為の基礎トレーニングと位置づけ、形の構成要素、構成形式、表現方法を学ぶ。また、実際にさまざまな素材を用いて形を造り、形の発見を積み重ねることで、形態、色彩、材質、空間への感覚を養う。具体的には、プロダクト作品の分析を行いながら、パターンデザイン、箱およびランプシェード、パッケージデザインの制作に取り組む。	
		画像デザイン演習	私たちが社会や世界に対して情報を発信し、メディアやインターネットを通じて他者とのコミュニケーションをとるために、様々な技術が必要とされる。 また、企業のみならず、我々の日常生活においても、明確、迅速、個性的、魅力的なプレゼンテーション能力が要求されるようになってきた。このように情報化・デジタル化は私たちの生活の中に浸透しつつある。 この授業では、実習を通して、市販の情報機器やアプリケーションソフトを用いた自己表現のための知識と画像処理技術を習得することを目的とする。	

専門科目	生活デザイン系	行政法	国や地域（都道府県、市町村）の行政運営に関する法的ルールを学ぶ。行政は、法令（法律や命令等）を中心に多種多様な規制に服しながら活動を行っている。一方、国民も生活や事業を行ううえで、行政活動に大きく影響を受けている。古典的な行政分野の規制から、現代的な行政分野の規制にいたるまで、我々の生活空間に存在する諸問題に関して、具体的な事例をもとに法的思考を身につける。また、行政事件訴訟法や国家賠償法をはじめとする行政活動に起因する紛争処理について学ぶ。	
		女性労働論	女性の社会進出が進む現在、家庭と仕事の両立が不可欠になり支援策は拡大している。しかしながら、女性のライフステージを取り巻く課題は依然として少なくない。本講義では日本の社会環境、労働環境、家族のありかたなど、さまざまな視点から現実を踏まえ、日本における女性雇用労働の現状と課題を探求する。また、家庭と仕事のみならずワークライフバランスに向けた解決策に関する情報収集と考察行い、ビジネス社会への女性進出とエンパワーメントについて展望する。	
		生活デザイン論	人間の文化的な生活を象徴する芸術品を中心とした基礎的な知識を得ることを目的とする。また、日本の伝統的な工芸（木工、竹工、漆芸、螺鈿、染織など）とそのデザインの歴史や芸術家、人間国宝などの職人について学ぶ。更に身近な生活用品やそれを提供するブランド、メーカーのデザインについても着目し、芸術的な価値だけでなく、実用美についても考察し、生活の中で息づくデザインについて、より広い視野を獲得することを目的とする。	隔年
		カラーコーディネート演習	カラーコーディネートのスキルは、平面、立体問わず、各デザイン分野において必要な能力である。また、ビジネス面だけでなく生活にも大いに生かすことができる。色彩（カラー）を扱う力を「色彩とは何か？」から、分野ごとの特性を踏まえた扱い方まで、実技を交えながら知識と技能の基礎力を身につけていくことを目標とする。 取り上げる内容は、ファッション、インテリア、建築のみならず、生活に関わる様々なアイテムや環境を対象として、色の体系、色の見え方、配色と調和、色の印象（イメージ）、および色彩計画についての理解を深める。	
		ヴィジュアル・マーチャンダイジングⅡ	ヴィジュアル・マーチャンダイジングの基本的な手法を理解した上で、ブランドのオリジナリティに連動・発展させるプロセス及び考え方を学ぶ。ターゲット層やデザインコンセプトを理解し、その特性や商品の特徴を捉えながら、品揃えや店舗づくり、プロモーション、デザインなど、一連のビジュアル演出効果について理解し、トータル的な視点をもつことを目標とする。 卒業後の進路として、アパレルやその他メーカーにおける商品企画、店舗設計、インテリアデザイナー、マーチャンダイザー（MD）、バイヤー、マーケティングディレクター、などの専門職を目指す学生は履修することを推奨する。また、前期の「ヴィジュアル・マーチャンダイジングⅠ」と併せて履修することが望ましい。	

専門科目	生活デザイン系	グローバル地域社会論	グローバル化が進む現代において、ある地域の生活は他地域・他国との関連性の中で成り立っている。この複雑なグローバルーローカルな関係性について、我々の生活に用いられる自然資源や食材などの流通を事例として挙げながら説明する。また、グローバル化が特定地域の生活に与える影響について、正負両面から検討し、個別グループにおいて議論を深める。これを通じて、グローバル化と自らの生活環境の関係性を分析的に読み解く能力を身につけることを目指す。	
		造園表現（ガーデニング）設計実習	造園表現（ガーデニング）技術論で習得した植栽設計に関する知識を参照しながら、２つの課題に取り組む。第1課題は住宅の庭園設計で、第2課題は小公園の設計である。いずれの課題においても外部空間の設計方法、植栽設計の検討・決定方法、植栽に関する専門的な図面表現方法を習得する。 （オムニバス方式全30回） （96 仙石里恵／14回） 花壇や住宅の植栽などの小規模な作品の設計を行う。 （63 新畑朋子／16回） 庭園や公園など比較的規模の大きい作品の設計を行う。	オムニバス方式
		住居・建築計画学Ⅲ（集合住宅デザイン他）	高齢者ケア、店舗、オフィス等の都市機能を含む複合住居＝集住体の建築空間を（幾つかの大きなエポックを経て形成される日本の集住文化のメインストリームとマイナーストリームをにらみながら）すぐれた事例から学ぶとともに、職住近接をもとめる現代都市居住（そこには多様化する世帯形態を容れうる、さらには、都市遊牧民とでもいいうる居住層を容れうる生活空間への居住）という点にとりわけ注目しつつ、みずからそうした空間設計を展開しうるための計画学を学んでいく。	
		地域と食文化	人間にとって、生きていくうえで最も基本的な食。食はその地域に根差して、受け継がれてきた文化であり、本来、多様なものであった。今日、グローバル化によって、地域が育んできた、そうした食の文化や生物多様性が失われ、私たちの健康を脅かす状況も生まれている。こうした現状を踏まえ、いまある問題を正しく認識するとともに、失われつつある食文化を守り、育てていくために、どうすべきなのかという視点から、食の歴史や現状をさまざまな側面から考える。	
		社会教育演習Ⅰ	本演習では、社会教育に参画しながら、積極的に地域の環境や社会作りを行うための実践的な力を身につけるために、公民館や社会教育施設などの社会活動現場で行われる諸活動について、グループワークやディスカッションを通して実践的に学修する。本演習では、社会教育で必要となるプログラムの作成能力や、個人やコミュニティが持つ潜在的なニーズに気づき企画できる力を、身近なコミュニティや地域を現場として想定し企画・実践することを通して身に付けていく。	
		グローバル・フィールドワーク	海外における生活デザイン分野の実情を学ぶ体験型海外研修である。生活デザインに加え、政治、経済、芸術文化いたる幅広い分野を対象とする。前年度に計画を発表して参加者を募り、前期に事前学修を行う。事前研修には、研修領域に関する調査、研修の準備、外国語（英語や現地の言語）の学修等から構成される。研修は、現地の大学や公的施設などでの学修の機会を含み、夏期休暇期間等に２週間程度を予定している。研修終了後は、各自の学修の成果をもとに報告書を作成し、発表の機会を持つ。	
		グローカル・フィールドワーク	本授業は、国内において生活文化や生活環境について特色を持つ地域を訪れ、実際にフィールド調査を行うことで、生活空間を構成する諸問題を深く考える洞察力を身につけることを目的とする。前期ではフィールド調査地およびフィールド調査内容について文献調査等を通した準備を行い、夏季休業中にフィールドワークを開催する。後期は得られた内容をもとに報告書をまとめるとともに、プレゼンテーションに向けた準備を行う。	

専門科目	生活デザイン系	調理科学実習	食を通じて、ヒトは栄養を摂取し、命や健康の維持・増進をしている。調理科学実習では、調理に必要な基本的な知識と技術を習得するとともに、自らの食生活や様々な食文化に関心を持ち、食事が果たす役割を理解し、実際の食生活への応用力を身につけることを目的とする。さらに、食品の調理性についての理解を深めることを目的とする。 実習を通して、次の項目を学ぶ。 1 調理の基本　①調理器具・機械の使用法　②計量　③だし・調味について 2 調理操作　①下処理　②加熱操作　③和える、寄せる 3 食品の調理性　①砂糖　②調理による食品成分の変化　③植物性食品　④動物性食品	
		福祉環境計画学	現代社会において、高齢化、少子化が急速に進み、家族が多様化している中で、今後さらにユニバーサルデザインの考え方に通じるケアデザイン社会の構築が重要な課題となる。本講義では、主にこども、高齢者、障がい者にとっての具体的な環境計画を学び、ユニバーサルデザインにもとづく生活空間の統合のあり方を考えていく。 （オムニバス方式／全15回） （5 真木利江／12回） 福祉環境設計の課題・計画学に関する講義を通して、福祉環境の基礎的な設計知識を身につける。 （41 上田一臣／3回） 福祉環境に関わる近年の取り組みを解説し、現場見学等により福祉の実際を理解する。	オムニバス方式
		地域連携デザインセミナーⅠ	生活デザイン学科における学びを活かし、地域貢献・地元企業との連携等、実社会における地域連携活動を行う。具体的には、活動内容により求められる成果は異なるが、調査（文献調査、フィールドワーク等）・レポート作成・デザイン提案・プレゼンテーション等を基本とする。このセミナーを通じて、社会におけるデザインの役割についての理解を深め、自ら考え、行動する契機とする。	
		地域連携デザインセミナーⅡ	地域連携デザインセミナーⅠに引き続き、生活デザイン学科における学びを活かし、地域活動・地元企業との連携等、実社会における地域連携活動を行う。地域連携デザインセミナーⅠをさらに具体的な提案へと導くためのプログラムとし、活動内容により求められる成果は変わるが、社会の人々とのコミュニケーションを通じて、さらに上位のデザイン提案・プレゼンテーションを目差す。このセミナーを通じて、社会において専門性が必要なデザインについての理解を深める契機とする。	
		生活デザインインターンシップ	生活デザインにおける専門分野の活動とそこで働く人びとの仕事内容について、「インターンシップ（就業体験実習）」を通じて理解を深め、自らの職業意識の形成を図るとともに、職業適性、職業生活設計、職業選択について考える契機とする。事前学習として、生活デザイン専門分野の組織についての理解を深め、求められる実務能力開発やキャリア・プランニングを探求する契機とする。 受講生は、１週間～最長4週間の期間「インターンシップ」に参加し、ならびに事後学習としての「研修報告」（研修レポート提出、報告会参加・発表等）を行う。	

専門科目	セミナー	地域デザインセミナーⅠ	我々を取り巻く地域の生活空間について、「生活環境」「生活文化」「地域社会」「コミュニティー」の面から調査・考察するための基礎的な手法、知識を身につけ、より良い生活空間を深く考えるための基礎的思考力を修得する。本セミナーでは、それぞれの専門的な領域について、最新の学術的な論文等を得るための文献調査、地域の現状を把握するためのフィールド調査、獲得した情報を集約し活用するためのデータ分析の手法を学び、学びを深めるための基礎を作る。	
		地域デザインセミナーⅡ	「地域デザインセミナーI」と連動し、「生活環境」「生活文化」「地域社会」「コミュニティー」における実践的調査を実施しながら、それぞれの専門領域において深く研究する力を養う。本セミナーでは、「地域デザインセミナーI」で修得した研究に関する基礎力を応用し、各自がそれぞれの調査のテーマを決定し、文献調査に基づいた計画の作成、調査計画の作成、グループディスカッションによる改善点の議論を行い、研究活動を行うための実践的な行動力、思考力を身につける。	
		被服心理学演習Ⅰ	被服は、外界から人体を守る役目を果たすと同時に、人間が美しくありたいと願う欲求を満たし、人間の精神面に様々な影響を与えている。自分の身体を美しく見せること、流行のファッションに身を包むこと、自分の印象を思いのままに管理すること、これらの目的のためには、人間（特に若い女性）は自分の命を危険にさらすこともある。 この授業では、被服心理学の意識調査アンケートの作成方法を学ぶことを目的とし、アンケート手法によりデータの集計を行い、因子分析結果から被験者の意識や感覚を読みとる能力を養う	
		被服心理学演習Ⅱ	「被服心理学演習Ⅰ」においては、消費者の意識調査手法を学んだ。「被服心理学演習Ⅱ」では、画像を用いた視覚官能調査のアンケート手法を学ぶことを目的とする。 まず、グラフィックソフトを用いて、アイテムの種類と形を固定した画像に、異なる色や柄を合成し、複数の画像試料を作成する。次に、視覚による官能評価アンケートによりデータを収集し、因子分析を行う。分析結果から、官能評価プロフィール、因子負荷量、単相関係数、因子得点の分布などのグラフと表を作成する。その後、画像のデザインや色彩による評価の違いとその要因について考察を行う。	
		服飾史学・美学演習Ⅰ	これまでの服飾史学、服飾美学に関する講義及び演習授業の内容をふまえ、現在服飾史学界、服飾美学界が抱える諸問題に対して、卒業論文執筆に向けた調査、分析、論証といった研究活動ができるようになることを目的とする。 授業の内容としては、服飾史学論文講読、服飾美学論文講読、研究発表の方法(レジュメ作成法、パワーポイント作成法)、服飾史学・服飾美学研究分析（受講生による既存研究論文発表、分析、講評）を予定している。	
		服飾史学・美学演習Ⅱ	これまでの服飾史、服飾美学に関する講義授業の内容をふまえ、自身が疑問に思った諸問題に対して、調査、分析、論証を行うための研究活動ができるようになることを目的とする。 授業の内容としては、服飾史学研究の方法について、服飾美学研究の方法について、服飾史学・服飾美学に関する研究（テーマ設定、文献調査、フィールド調査、調査結果分析）、研究発表の方法（ＰＰ作成法)、服飾史学・服飾美学に関する研究発表を予定している。	

専門科目	セミナー	アパレル・デザイン演習Ⅰ	被服は私たちの生活に無くてはならないものである。被服には、機能的な役割とファッションとしての役割がある。ファッションとしての被服は、消費者のニーズによって時代とともに移り変わるものである。この授業では、ファッションとしての被服に重点を置き、ファッションブランドの意義を学び、私たちの生活や感性を豊かにしていることについて学ぶ。また、現代におけるファッションブランドのニーズや、デザイナーの意図するファッションやコンセプトについて文献や書籍から知識を習得することを目的とする。	
		アパレル・デザイン演習Ⅱ	衣服は、私たちの生活に無くてはならないものである。この授業では、ファッションに関連した各々の研究テーマを設定し、関連するファクターに対して主観的・客観的調査を行い、それらの調査結果を集計・分析・考察しする。また、主観的調査と客観的調査を比較検討することにより、研究内容を深める。さらに、研究内容を他者に伝えることにより、プレゼンテーション能力の向上を目指し、新たな発想を提案する能力を養うことを目的とする。	
		生活デザイン・建築セミナーⅠ	生活を中心にすえた視点から、生活空間や、これらに関わる人、もの、状況を、研究対象として深めるトレーニングを行う。そのためには、対象への関心を持ち、興味を掘り下げ、自分の問題意識を明確化することが必要である。本セミナーでは、テーマ設定をした後、調査（文献調査、事例研究、フィールドワーク等）およびレポート作成、作品作成を行い、自分なりのもののとらえ方の基礎を確立することを目差す。また、作業の経過報告を毎回行い、ゼミ内で問題意識の共有化を図る。	
		生活デザイン・建築セミナーⅡ	生活デザイン・建築セミナーⅠに引き続き、生活空間や、これらに関わる人、もの、状況について、各自研究テーマの設定を行なう。その後、それに基づく文献調査、事例研究、フィールドワーク等を行い、その過程の中で、自分の設定した課題に対する答えへの道筋を見出し、さらに卒業研究のテーマへ接近していくことを目的とする。同時にプレゼンテーション能力の向上、新たな提案力を養うことを目差す。また、調査、作業の経過報告を毎回行い、ゼミ内で問題意識の共有化を図る。	
		卒業研究セミナーⅠ	これまで学んできたことの集大成として、各自卒業研究のテーマ設定を行い、卒業論文の執筆および卒業設計等の制作に取り組む。また、毎回各人の途中経過報告および討議を行うことで、生活空間に関わる現状把握を行い、問題意識の共有化を図る。 ①研究計画：卒業研究テーマの絞り込み作業を行い、卒論題目を決定する ②先行研究調査：各自のテーマに関連する文献、研究論文、情報を収集する。 ③卒論目的の明確化：卒論題目を選択した経緯、動機、社会における実態を明らかにし、この研究を通して何を明らかにし、実証したいのか、研究の目的を明確にしておく。 ③研究手法と手順の確定：どのような方法で論文執筆に必要な資料・情報を収集するのかを決定する。文献調査、アンケート調査、官能評価法と分析、フィールドワークなど ④卒業論文の項目を作成し、論文の執筆を開始する ⑤卒業研究中間報告会の実施	

専門科目	セミナー	卒業研究セミナーⅡ	卒業研究セミナーⅠをふまえ、卒業論文の執筆および卒業設計等の制作に取り組む。また、毎回各人の途中経過報告および討議を行うことで、生活空間に関わる現状把握を行い、問題意識の共有化を図る。 ①結果　：これまでに収集した、研究に必要な資料やデータのまとめを行う。文献調査を行った学生は、各文献の要点をまとめ、新たに必要な考察や自分の解釈などをまとめる。アンケート調査を用いた学生は、データの入力、統計、分析を行い、必要な図表を作成する。フィールドワークによるデータを収集した学生は、分類と集計を行い、結果をわかりやすく提示するための資料を作成する。 ②考察　：①でまとめたデータや図表を元に、研究テーマに関する考察を行う。 ③提案　：考察を経て、問題点や疑問点を整理し、それらを解決するための提案を行う（デザイン案、設計製図、新説による解釈、作品制作、など）	
		卒業論文等	各ゼミ指導者の下、卒業研究セミナーⅠ・Ⅱによって完成した4年間の学びの集大成である卒業論文、卒業制作、卒業設計を評価する。 ①卒業論文の執筆・完成：序論（緒言）・本論（結果）・結論（考察）の流れに従い、論文内容を簡潔にまとめる。結論（考察）に際しては、その根拠となるデータや論拠を提示しなければならない。また、第三者が見ても結果が一目で把握できるよう、グラフや表、写真等によって、わかりやすい表現方法を工夫する必要がある。 ②卒論要約の作成：卒業論文の内容を書式規程に従い、要約としてまとめる。要約は口頭試問においてレジュメとして配布する。 ③口頭試問のための資料の作成と発表：口頭試問は卒論発表会形式で行う。卒業論文の内容をパワーポイントでまとめ、定められた時間内でプレゼンテーションを行う。プレゼン終了後に主査および副査教員、参加者からの質疑応答を行う。 ④卒業設計：建築士課程の学生は、卒業論文の他に、卒業設計作品の制作を行う。	
関連科目Ⅰ	教職・社会教育主事	教育原理	学校、子ども、幼児教育の３つのテーマをもとに、歴史的・社会的視点から見ることを通して、教育の原理や本質について理解する。また、以上の理論的考察とともに、さまざまな実践的課題について自分なりの見通しを持つことができる。到達目標は以下の3点である。1点目は、学校教育・保育の本質・原理について歴史的、社会的側面から説明できることを目標とする。2点目は、学校教育・保育をめぐる課題や問題について説明できることを目標とする。3点目は、学校教育・保育をめぐる課題や問題の解決や実践に向けた見通しを持つことができることを目標とする。	
		教育心理学	学校教育においては生徒の内面を深く理解し、一人ひとりの生徒が必要としている適切な支援を行うことが大切である。そのためには心理学の基礎を身につけ、心理学的な人間のとらえ方、支援のあり方について学ぶことが有意義である。本講義では、これまでに心理学において研究されてきた発達・学習・人間関係・評価についての成果をふまえて、それらを教育にどのように生かしていくかを考える。また、教育的な支援を必要とする生徒（障がいのある生徒）への理解を深め、その支援のあり方について考える。	

関連科目Ⅰ	教職・社会教育主事	教育社会学	身近な事例やメディアにあらわれた教育事象などをもとに、社会学的に教育を捉える視点を養う。具体的には学校の役割、学校と社会階層、「子どもの誕生」、教育とジェンダーなどのテーマについての理論的考察およびそれらを通した教育の現代的課題に対する実践的な見通しを持つ。到達目標は以下の3点である。1点目は、教育社会学の主要な概念を理解することを目標とする。2点目は、教育社会学の主要な理論を理解することを目標とする。3点目は教育社会学の理論、概念を用いながら現実の教育事象について議論できることを目標とする。	
		家庭科教育法Ⅰ	家庭科の指導者として必要な家庭科教育観を確立するとともに、ビデオ・DVD映像を通してさまざまな授業実践例を知り、学習指導案の書き方や教材研究の方法など実際的な学習指導のあり方について学ぶ。また、環境教育、福祉教育、消費者教育、食農教育など現代の教育課程と家庭科教育との関係を理論的に整理し、授業つくりに役立てる。なお、到達目標は下記の通りである。 ①家庭科学習指導案の書き方を理解する。②実際的な学習指導のあり方を理解する。③1時間分の授業を作成し、マイクロティーチングを行うことができる。	
		家庭科教育法Ⅱ	学習指導要領から家庭科の学習方法を理解させるとともに、授業実践例をもとに効果的指導法、教材研究および授業設計の方法を習得させる。また、効果的な学習方法を用いた学習指導案を作成させ、授業実践力を培う。授業づくりでは中学家庭では「家庭生活と消費」、「家庭生活と環境」を、高校家庭では「人の一生と家族・家庭及び福祉」、「生活の自立及び消費と環境」を取り上げる予定である。なお、到達目標は下記の通りである。①家庭科学習指導要領の内容を理解する。②効果的な学習方法を理解する。③学習指導案およびワークシートを作成し、板書計画を発表することができる。	
		家庭科教育法Ⅲ	映像資料や文献から家庭科授業の分析を行い、家庭科の現代的課題を見出すとともに、課題への取り組みとして新しい視点を導入した教材・教具の開発を行う。授業実践の分析では、食生活、衣生活、住生活と福祉領域、消費生活領域を取り上げる。教材、教具の制作は4回にわたって行い、その後、その教材・教具を活用し、学習指導案の作成を行う。なお、到達目標は下記の通りである。①家庭科授業の分析を行うとともに、評価方法を理解する。②家庭科の現代的課題を視野に入れた学習指導案を作成することができる。③教材教具の試作品を作ることが出来る。	
		家庭科教育法Ⅳ	持続発展教育（ESD）の視点を取り入れた家庭科の授業のあり方を理解させるとともに、自らが考えた家庭科の教材・教具を作成することで、家庭科教師に必要な資質能力を育成する。ESDの視点を取り入れた授業実践例は衣食住、消費生活、保育領域を取り上げ、それを踏まえて新教材・教具の考案を視野に入れた学習指導案を作成し、実践を行う。なお、到達目標は下記の通りである。①ESD(持続発展教育）について理解する。②ESDの視点を取り入れた家庭科学習指導案を作成することができる。③自主教材(教具)を作製することができる。	
		教育史	現代の日本においては、教育を受けることは国民の権利であり、全国共通の教育の学校システムにおいてすべての子どもが学ぶことは自明なことと捉えられている。しかし、こうした教育のありようは18～19世紀の欧米の教育思想や制度に強い影響を受けながら形成されてきたものである。本授業では、西洋と日本という二つの視点から、それぞれの子どもと子育ての歴史、教育思想史、学校の成立史、戦争と教育の歴史、戦後教育と福祉の歴史について学ぶ。	

関連科目Ⅰ	教職・社会教育主事	学習心理学	学習に関する基礎的知識を習得し、学習に関わる諸問題を理解することができるようになることを目標とする。具体的内容としては、学習の基礎理論である条件づけ、記憶・理解・知識の獲得における認知過程、及び動機づけに関して心理学で解明されてきた知見について講義するとともに、学校における学習指導を効果的に行うための基本となる事項については具体的事例をあげ、体験的実習や演習を採り入れながら授業を進めていく。授業を通して、児童生徒の学習面でのさまざまな問題を理解し、解決するための支援ができる実践的指導力の育成をはかる。	
		教育と法	教育行政のしくみ、主に学校教育制度を法的側面から考察する。教育法規の最新の改正情報や教育をめぐる裁判例や事件記事、統計的数値といった具体的な資料を取り上げ、学生が身近に教育制度を理解できるように解説する。また、教育を受ける中心となる子供の権利について詳しく解説する。教育委員会や学校をめぐる地域との連携など、学校を取り巻き、支える組織や協力体制、安全や危機管理、個人情報保護など、教員が理解しておくべき関連法規についても理解できるように分かりやすく解説する。	
		教職実践演習（中・高）	本授業科目は４年後期に開設されていることから、これまで教職課程履修の経過をみて、学生の指導を行うとともに、不足していると認められる知識や技能を補うことを目的とする。具体的には、中学校・高等学校教諭に必要とされる実践的な活動（事例研究、現地調査、模擬授業）を通して、教師としての資質能力、知識を身につけることにより教職生活へのよりよいスタートを図ることをめざす。1、2、5、8、9回については共同で実施し、それ以外の回については取得を目指す教科を勘案して3つのクラスに分級して行う。	共同
		人間関係論Ⅰ（含家族関係学）	前半で人間関係を社会心理学的観点から解説し、後半で人間関係の1つである家族に焦点をあて講述することで、人間関係に働く心理構造や家族内の人間関係の特徴などを理解させる。特に、対人認知、対人魅力、対人影響課程、自己概念と対人関係、コミュニケーション、集団の心理、家族の心理耕造、夫婦関係、きょうだい関係、高齢者と家族を取り上げ、その特徴や機能についての知識の伝達や、統計データを用いた現状分析などを解説する。	
		人間関係論Ⅱ（含家族関係学）	人間関係を、心理学的観点から検討する。人間関係に影響を与えるもの、生涯発達における人間関係の特徴、人間関係の始まりと展開、職場や社会における人間関係などについて説明し、自分を含めた人と社会との関わりについて考える。特に、パーソナリティ、動機づけとフラストレーション、生涯発達と人間関係（乳幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期）、自己と対人認知、他者との相互作用（説得的コミュニケーション、同町・服従）、組織・集団の人間関係（職場の人間関係、コミュニケーション、意思決定）について取り上げ、解説、理論・モデルの紹介を行なう。	
		生活経営学（含家庭経営学・家庭経済学）	人間生活は、あまりにあたりまえすぎて、これまで必ずしも研究の対象として取り扱われてはこなかった。生活経営学では、個人の生活や家庭生活を研究対象としてとらえる。個人の生活や家庭生活を、生活とはどのようなものであるかという生活構造の視点、および生活が外部環境との相互作用によって成り立っているという視点から理解することを目的とする。生活経営の考え方の基礎、生活の変化についての学習をふまえ、主として生活時間の視点から生活経営を考える。	

関連科目Ⅰ	教職・社会教育主事	食品学概論	少子・高齢社会を迎え食生活の多様化している現代において、食品の分類と食品の成分について習熟することは、健康の維持・増進ならびに生活習慣病予防の観点からも大切なことである。健全な食生活を営むために必要な食品成分の性状と機能を総論的に把握することを目的とし、食品と栄養、食品成分とその変化、食品の物性などについて理解を図る。さらに、植物性食品および動物性食品について、各食品の栄養的特徴ならびにそれらの加工特性について各論的観点から理解を深める。	
		保育学(含実習・家庭看護)	保育学という学問領域は、教育思想史、発達心理学、福祉と保育に関する法令、保育施策の現状と課題、幼稚園･保育所の保育実践例、小児看護など、総合的にアプローチするという、学際的内容を特徴としている。講義において、教育思想史を概観し、保育の現状を知り、子どもの発達と生活を学ぶ中で、21世紀における保育・育児・子育て支援の課題を探り、教育（保育）者として、保護者として、社会人として、子どもとの適切なかかわりを理解する。	
		家庭電気・機械	電子レンジ、薄型テレビ、IH調理機器など電化製品は次々と開発され、またガソリン車から電気自動車へと家庭で使われる機械は進化を始めている。この授業では、これらの電気機器や機械を適切に利用し、安全かつ能率的にその機能を発揮させるために必要な電磁気、エネルギー変換、材料、機械の知識を修得する。さらに、電力を利用する際のエネルギー消費について、日本の現状と将来への予測を通して環境負荷や省エネルギーに配慮した生活への意識を深める。また、学習指導案を作成し、技術・家庭及び家庭科の指導が行える力を養う。	
	司書・司書教諭	情報メディアの活用	図書館資料を構成する多様なメディアに関する理解を深め、情報メディアを活用するための実務的技術の育成を目指す。デジタルアーカイブという観点から、情報メディアの意義・種類・特質、メディアを扱う上で必要な著作権や情報倫理について学ぶ。またコンピュータやネットワークの基本的操作や情報メディアを管理・運用するための技術を学ぶ。学習メディアセンターとしての役割を認識し、図書館に関わるさまざまな情報提供と学習者の情報メディア活用を支援するための知識と技術を修得する。	
		図書館情報技術論	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するためにコンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。まず、コンピュータを使いこなし、自ら情報を収集し、整理し、保存する能力を身に付ける。また、図書館とコンピュータとの関係について深く理解させ、司書の業務にコンピュータを有効に活用する能力を身に付けさせる。学習者の個々に能力に応じて指導し、コンピュータ活用能力の基礎力アップを目指したい。	
		情報サービス論	図書館における情報サービスの意義とあり方について、特に近年の電子図書館化による多様な情報ニーズへの対応に主眼をおき、情報サービスの理論と情報検索の実際を解説する。まず、情報サービスの定義について明確にし、情報サービスの歴史と情報サービスの意義、サービス環境、館内インフォメーション、図書館利用者教育、情報リテラシー教育について述べる。また、情報サービスの情報源として、レファレンスコレクションの種類や電子メディアの種類と特徴、レファレンスコレクションの構築について理解させる。	

関連科目Ⅱ	教職	教職論	教職をめぐる組織・制度・環境等について学び、教師としての資質・能力に何が求められるのかを追究する。 （オムニバス方式／全15回） （24 戸田浩暢／13回） 「教職の要件」、「教職の意義と教員の使命・資質」、「教員の研修と服務規程」、「初等・中等教育と教員」、「教員養成と教職課程」、「求められている教師の資質・能力及び指導力」等を学ぶ。また、特別講義として、教職経験者から現場の実際について講話を聞き、学びを深める。 （34 大橋隆広／2回） 「教員の仕事と役割」、「特別活動の在り方について」、それぞれについて授業者が説明し、理解を深める。	オムニバス方式
		教育課程論	中等教職をめざす学生に必要とされる「教育課程」の基礎について学ぶ。第一に、日本の教育課程の歴史と日本の新しい教育課程の取り組みについて知ることにより、近代学校成立以降の日本の教育課程の変遷と現在の姿を理解する。第二に、教育課程を支える基本的な考え方や仕組み、教育課程編成の方法原理、学習指導要領、教育評価のあり方を学び、教育課程編成のための基礎的な能力を身につける。第三に、学力格差、新しい学力観、カリキュラム・マネージメント、学校間の移行期の教育問題を取り上げ、現代社会における教育課程を取り巻く諸問題について理解を深める。	
		教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）	教育において、自ら学び、自ら考え、自ら決断し実行できる力を育成することが最も重要な教育目標となってきた。このような中で、これまで知識の教授に主眼をおいてきた教科指導から、自己学習能力を最大限に発揮させることのできる新しい学習指導への移行が模索されている。この講義では、伝統的な教育方法をふまえた上で、新たな視点から教科指導の方法、教育技術の開発、教育評価の問題について考えていく。具体的には、近代学校成立以来の伝統的な教育・学習方法である一斉指導およびそれらの伝統的な方法に代わる近年の個に応じた指導、協働学習などの教育・学習方法について、また近年の情報機器・技術の発展を踏まえたICTの活用方法について、そして従来の伝統的な教育評価法である相対評価、量的評価および近年の絶対評価、到達度評価、ルーブリック評価などの新しい教育評価について、説明する。	
		生徒・進路指導論（進路指導の理論及び方法を含む）	生徒指導は、学校教育において生徒一人一人の個性を伸長し、社会性を育てるうえできわめて重要な役割をもっている。本講義では、生徒が日常生活で直面している課題や問題を認識したうえで、将来を見据えて課題を解決していくために、教師としてどのような支援を行うべきかを考える。そして、積極的な生徒指導および進路指導の観点から生徒への対応のあり方、それらが有効に機能するために教師に求められる役割について研究する。具体的には、「生徒指導の意義と課題」、「生徒指導の原理と理論」、「生徒理解の進め方」、「学級（ホームルーム）経営の進め方」、「生徒指導と道徳教育」、「教科指導と生徒指導」等を学ぶ。	
		特別活動論	『中学校学習指導要領解説〔特別活動〕編』（文部科学省）の内容を周知することで、特別活動の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習する。具体的には、「特別活動の目標・内容」、「学級活動の事例研究」、「学校行事の事例研究」、「模擬講話（個人発表）を通しての指導講話のあり方・話し方研究」、「学校行事「文化的行事」の実際（ＤＶＤ）の検討」等を学ぶ。以上を通して、特別活動の教育的意義を踏まえた上で特別活動の実践を構想する方法や力量を養うことを目指す。	

関連科目Ⅱ	教職	学校カウンセリング	今日、学校教育の現場では、不登校やいじめなどさまざまな問題が見受けられる。中学生・高校生の時期は青年期にあたり、その心理的特徴として、性差や個人差が目立つこと、アンバランスな心身の発達、抽象的な思考の発達により関心が自己の内面に向かうことなどをあげることができる。この講義では、ライフサイクル上、非常に不安定になりやすいこの時期の生徒を、私達はいかに理解し、また、その心理的問題に対して、どのように対応すれば良いかを考えたい。	
		道徳教育指導論	『中学校学習指導要領解説〔道徳〕編』（文部科学省）の内容を周知することで、道徳教育の意義を理解し、その内容、計画、実践の方法などについて学習する。具体的には、「道徳教育の目標・内容」、「外国の道徳教育の現状」、「道徳の授業づくりと学習指導案の書き方」、「道徳授業（ＤＶＤ）の参観と授業検討」、「道徳の模擬授業と授業分析」等を学ぶ。以上を通して、道徳教育の教育的意義を踏まえたうえで道徳教育の実践を構想する力量や方法を養うことを目指す。	
		介護等体験Ⅰ	小学校もしくは中学校の教諭の普通免許状の取得を希望する場合、特別支援学校（２日間）及び社会福祉施設（５日間）において７日間以上の介護等体験を行う必要がある。介護等体験は、様々な支援・福祉を必要とする、様々な方々と出会い、一人一人の生き方の多様性、重みを知ることを目的とする活動である。これらの活動を通した学びは、教育実習において、子ども達をみる目（理解）に生かされてくることを、十分自覚して取り組む必要がある。	共同
		介護等体験Ⅱ（事前・事後指導）	介護等体験の意味や本質について考え、その上で介護の現場としての特別支援学校における指導の実際や課題、各学校における日常の生活や教師の活動について、また社会福祉施設における施設利用者の実状などについて学ぶ。 （オムニバス方式/全10回） （34 大橋隆広／2回） オリエンテーションを実施し、介護等体験の意義と目的等について理解を深めさせる。 （24 戸田浩暢／2回） 介護等体験に係る留意点について理解させる。また、介護等体験の前期の事後指導において、体験した内容を省察するとともに体験者の間で共有することを目指す。 （15 神野正喜／1回） 介護等体験の後期の事後指導において、体験した内容を省察するとともに体験者の間で共有することを目指す。 （34 大橋隆広・24 戸田浩暢・15 神野正喜／5回） （共同） 特別支援学校(聴覚障害)・特別支援学校(視覚障害)・高齢者福祉施設・障害者福祉施設等の特別講師から、介護等体験での現場における指導の実際や課題、日常の生活や教職員等の活動についてや、施設利用者の実状などの講話を伺い、介護等体験に係る学びを深める。	オムニバス方式・共同（一部）
		教育実習Ⅰ	中学校・高等学校において１～２週間の観察・参加形式の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職に関する科目および教科に関する専門科目の知識・技術および大学内外におけるボランティア活動の体験等をもとに得た知見を、実際の教育現場において指導教諭から指導を受けながら生徒たちとの間に展開することである。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面を学ぶことをめざす。	共同

関連科目Ⅱ	教職	教育実習Ⅱ	中学校・高等学校において２週間の観察・参加形式の教育実習を行う。教育実習は、大学において学んだ教職に関する科目および教科に関する専門科目の知識・技術および大学内外におけるボランティア活動の体験等をもとに得た知見を、実際の教育現場において指導教諭から指導を受けながら生徒たちとの間に展開することである。その実践を通じて、教師としての自らの適性、教育実践の技術的な面を学ぶことをめざす。	共同
		教育実習Ⅲ（事前・事後指導）	本授業では教育実習前・後の指導を行う。教育実習の事前指導としては、教育実習の意義・目的を学ぶとともに実習中の授業への準備として、それぞれ取得を目指す学校段階・教科に関わる模擬授業を行う。また、現場の教師の講話を通して教育現場の実際について学ぶ。事後指導としては、教育実習を通して学びえたことをアンケート、集団討論、発表、個別面接により自覚的に捉えることを目指す。	共同
	学芸員	博物館経営論	博物館の形態面と活動面における適切な管理･運営について理解し、博物館経営（ミュージアム・マネージメント）に関する基礎的能力を養う。まず博物館の経営基盤として、ミュージアムマネージメントの意義を説き、行財政制度、財務、施設・設備（ユニバーサル化を含む）、組織と職員などについて解説し、使命と計画と評価、博物館倫理（行動規範）、博物館の危機管理利用者との関係に関して紹介し、さらに博物館における地域や博物館間の連携にふれる。	
		博物館資料論	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、 博物館資料に関する基礎的能力を養う。まず博物館における調査研究活動についてその意義と内容を検討した後、博物館資料の概念として、資料の意義、資料の種類、資料化の過程を検討する。また博物館資料の収集・整理・活用として、収集理念と方法、資料の分類・整理、資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む）について論じる。	
		博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。博物館における情報・メディアの意義を考察した後、博物館情報・メディアの理論として、博物館活動の情報化、資料のドキュメンテーションとデータベース化、デジタルアーカイブの現状と課題、映像理論、博物館メディアの役割と学習活用などを検討し、博物館における情報発信、博物館と知的財産などについても解説する。	
		博物館資料保存論	博物館資料の保存に関する理念、その目的と意義を理解し、実際について基礎的能力を養う。「博物館法」に端的に表われているように、博物館はいくつもの機能を持っているが、外部から最も見えづらいのが保存である。博物館は収集した資料を保存し、守り伝えてゆく使命を負うが、資料は多様でその保存方法も様々である。展示と保存はしばしば背反するが、保存の必要性、資料の価値を周知するためにも展示は重要である。展示と保存の両立、或いは均衡といった観点からも博物館資料について考える。	
		博物館展示論	来館者にとって、博物館の最も身近な機能は展示である。展示のしかた次第で、来館者にとっての博物館資料の認識まで左右されかねない。資料をいかにわかり易く、或いは、見易く、また、よりよく見せるかという技術は博物館学芸員にとって必須のものである。もちろん、博物館と一口にいってもその展示室の限界や可能性はさまざまである。ここでは、そもそも展示するとはどういうことか、その意義と理念を学ぶと同時に、いくつかの具体例をもとに、展示方法に関しての技術や知識を習得する。	

関連科目Ⅱ	学芸員	博物館実習Ⅰ	博物館学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。その実習Ⅰでは、学内で博物館資料の取り扱いや展示の基礎的知識・技能を実践的に学ぶ。まず、博物館資料の種類や性格について改めて学んだ後、資料の点検と整理保管、梱包を実際に行う。取り扱いでは額や掛け軸、屏風、巻子などの絵画、工芸品、服飾品など実物を用いて技能の習得をする。写真・拓本のとり方、植物資料の維持管理などについて実習を行うほか、学内で展覧会を企画して開催する。 （オムニバス方式／全30回） （8 福田道宏／27回） 学内実習全般のオリエンテーション、及び服飾品を除く博物館資料の取り扱い、資料の記録、梱包、展覧会の企画開催など実践的実務の学びを担当する。 （22 田頭紀和／2回） 植物公園への引率及び植物資料の維持管理について現地で講義する。 （32 楢﨑久美子／1回） 博物館資料のうち服飾品の取り扱いについて担当する。	オムニバス方式
		博物館実習Ⅱ	博物館学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。その実習Ⅱでは、Ⅰで学んだ作品の取り扱いや展示の知識・技能を踏まえ、実際の博物館園において1週間程度の実務実習を行う。実習先は受講者の卒業研究テーマなどを勘案して、決定する。館園により実習内容は様々だが、実習期間中、毎日日誌をつけて実習先担当学芸員の検印を受けるとともに、実習後、自らの実習内容について受講者全員の前で口頭での報告をし、レポートにまとめて、学修内容の定着をはかる。	
		博物館実習Ⅲ	博物館学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う。その実習Ⅲでは、多数の博物館がある関西もしくは関東などの遠隔地で2泊3日の見学研修、その事前事後指導を行う。大規模館から小規模館まで、また国公立、私立など設置・運営の形態の異なる博物館を見学することで、博物館の多様さとその実務を学ぶ。事前に見学先について受講者自身が調査して冊子にまとめ、見学後はレポートを提出する。また、ⅠからⅢの受講生の報告書を編集して、『博物館実習報告』を刊行する。	
	社会教育主事	生涯学習論Ⅱ	本科目では、学習機会が多様化する今日の生涯学習社会において生涯学習の持つ意味と、社会教育主事などの社会教育にかかわる職種について、その実際も踏まえつつ学ぶことを目指す。あわせて、生涯学習社会を生き抜く力を身につけることを目的とする。そのため、多くの議論や意見交換の機会を設け、理論的に考えることはもちろん、実践に応用できる柔軟な発想を持つこと及び公の場におけるコミュニケーション能力を育成することを目指す。	
		社会教育計画Ⅱ	「社会教育計画Ⅰ」と連動し、社会教育計画の構造やそれに基づく年間事業計画、個別事業計画を正しく理解するとともに、社会教育の計画・立案に必要な理論と方法を習得する。また、授業内では、より実践的な力を身につけるために、様々な実践例を理解するとともに、自らが地域で実際に教育活動を実施することを想定した個別事業計画の作成、学修プログラムの開発、それらのリプログラムなどのシミュレーションを通して、計画を通して社会教育主事として必要となる力を身につける。	
		社会教育演習Ⅱ	「社会教育演習Ⅰ」での学びを踏まえて、事業実施の準備と事業の現場実施研修、改善企画案の立案、新企画案についてより実践的な力を身につける。本演習では、具体的な地域における社会教育の現状調査から、課題設定、企画検討、最終的な企画実施までの一連の流れを体験的に学ぶことによって、企画実施に必要となる思考力や判断力を身につける。また、グループワークやディスカッションを通して、社会活動を行うために必要となるコミュニケーション力を高める。	

関連科目Ⅱ	社会教育主事	社会教育課題研究Ⅱ	社会教育課題研究Ⅰでの野外活動企画・運営に関する学びを踏まえて、小学生もしくは青少年を対象とした企画事業を、立案、準備、実施、ふりかえりというプロセスで遂行し、社会教育主事に求められる実務能力及び、基礎的技能を習得する。 （オムニバス方式／全15回） （8 福田道宏／１回） 小学生または青少年を対象とする事業を企画するにあたり、企画を立案するとはなにか講義する。 （10 伊藤千尋／13回） 江田島青少年交流の家など社会教育施設および他大学と連携し、小学生または青少年を対象とする事業を立案、準備、実施するまでを担当する。 （7 永野晴康／1回） 社会教育をめぐる法的・制度的背景という観点から、実施した事業の振り返りを担当する。	オムニバス方式
	司書・司書教諭	図書館概論	図書館とは何か、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図る。また、図書館がどのような歴史を持ち、現在どのような種類の図書館があり、各館種の図書館にどのような違いがあるか、その社会的意義、図書館の自由、著作権の知識、さらに、図書館職員が果たすべき役割とそのための資格および専門性の内容、図書館に係わる類縁機関について、そして、図書館の現在の課題とこれからの展望など、幅広いテーマの基本を知り、考察することによって、その中で、特にまず、身近にある図書館に興味と関心が持てるよう概説する。	
		図書館制度・経営論	市民の知る権利（知る自由）を穂書する機関が図書館である。その権利保障機関としての図書館を支える法的環境の制度等に触れていくとともに、公立図書館の経営に係わる諸問題を概説する。図書館が市民に親しまれ役立つ施設となるために求められる経営のあり方を考える。例えば、図書館評価と統計、図書館サービスの評価、図書館の建設、図書館の施設と設備、図書館の管理運営上の諸問題、危機管理など、さらには図書館職員を取り巻く現状と課題、図書館経営の現状と課題などについて講義する。	
		図書館サービス概論	公立図書館のサービス活動の内容を中心に、それを支える理念および近年の公立図書館のサービス活動の歩みと現在の課題を概説し、公立図書館への関心と理解を深める。公立図書館のサービス活動の歩みについて概説し、図書館サービスの概要、貸出の意義や登録・貸出方法・貸出の規程、予約サービス、相互協力、図書館サービスと著作権、行事・集会活動、ＡＶサービス、利用に障害のある人たちへのサービス、全域サービスと図書館システムについて述べ、最終的には図書館の自由とは何かということについて理解させる。	
		情報サービス演習Ⅰ	レファレンス・ワーク演習と関連して、文献やデータの検索が自在に行えるようにする。演習問題を文献やweb-siteから検索して回答を導き出す能力をつける。検索のツール、例えば、蔵書検索として、ＮＤＬ、Webcat、Ｗｏｒｌｄｃａｔ、雑誌記事検索として、ＮＤＬ、NIIなどを利用する方法を学ぶ、さらには、古典籍や漢籍、公文書、政府関係資料、法令関係資料、判例や特許関係の資料の検索ツールについて学ぶ。また、さまざまな情報検索問題を与え、それを解決させることにより、情報検索問題を与え、それを解決させることにより、情報検索の技術の向上を図る。	

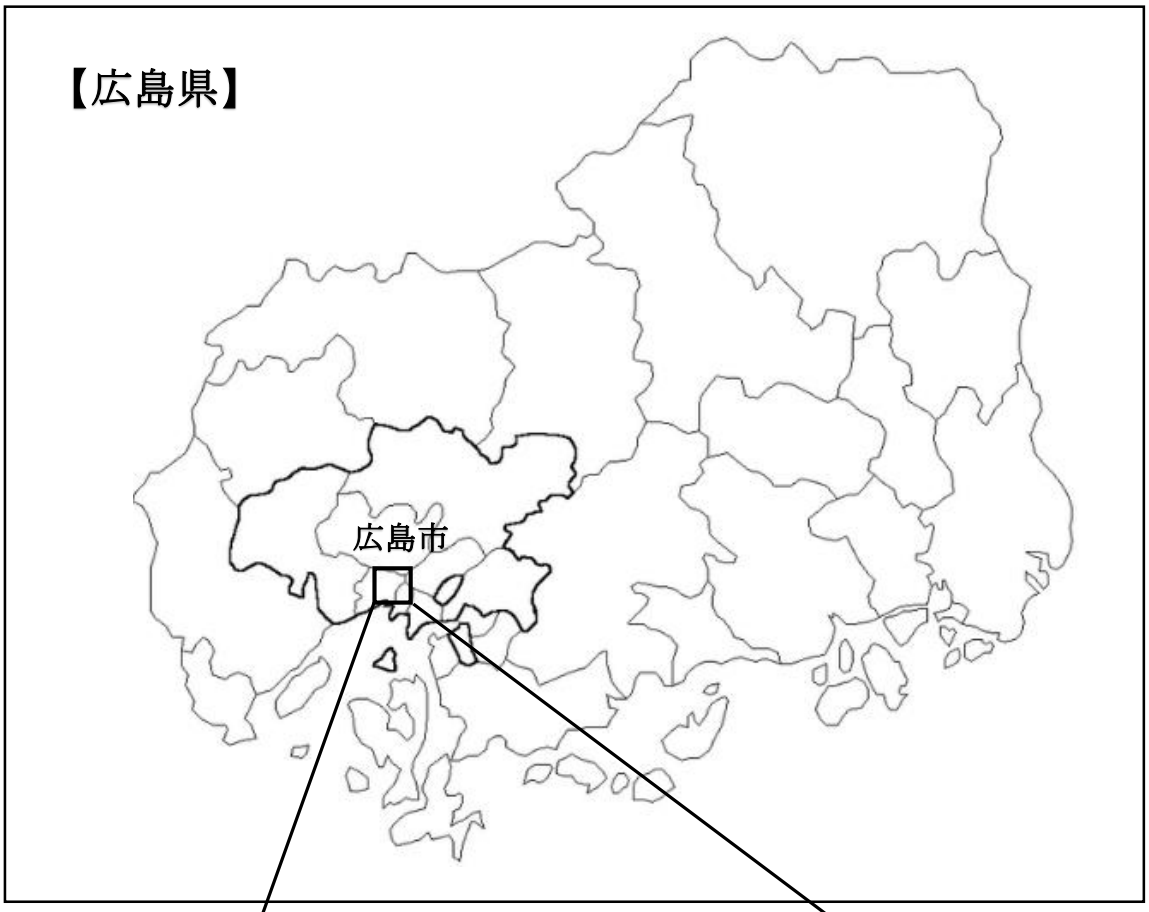
関連科目Ⅱ	司書・司書教諭	情報サービス演習Ⅱ	レファレンス・サービスを行うための、問題解析、情報源の探索、情報の評価、回答に至る一連のプロセスを演習により習得する。web-siteや図書館の活字資料から自在に情報を求めることが出来るようにする。レファレンスの問題演習を実際に行わせることによって、実践的技術を修得させる。また、レファレンスのインタビューを練習させることによって、質問の受け方の訓練を行う。また、質問内容の調査や回答の実際例を学び、実践的技術を身に付ける。	
		図書館情報資源概論	公立図書館における資料の選択・収集の問題を中心に、図書館資料の特質と種類、新しいメディア、資料の利用、出版流通、蔵書管理と保存等の問題について学ぶ。 まず、図書館資料とは何かについて明確にさせ、図書館資料としての図書、雑誌と新聞、地域資料、小冊子、地図、楽譜、外国語資料、ＡＶ資料、電子資料、インターネット情報など、さまざまな資料について理解させる。さらには、資料選択、複本購入の問題、資料選択の実際と課題、図書館資料の保存と電子化などの問題について述べる。	
		情報資源組織論	図書館がその社会的役割を果たすための基本である図書館資料（図書館情報資源）について、その資料組織とはなにか、なぜ必要なのかといった内容から、資料が組織化されている現状、そして図書館が扱う資料・情報を組織化していく上で必要となる知識である目録法と分類法について概説する。最終的には資料組織についての理解を深める。資料組織の業務と意義、書誌コントロール、OPAC、記述目録法の実際、主題目録法について学び、分類法の基礎を理解させる。	
		情報資源組織演習Ⅰ	今日の目録作業はコンピュータ化されそのフォーマットは国際標準化され、日本でもそれに基づいて『日本目録規則』(NCR)もできている。この『日本目録規則』を十分に理解して、これにより資料の目録が記述できるようになることを目指す。『日本目録規則』は、国際標準書誌記述(ISBD)に準拠していることを理解させる。タイトル関連情報、版表示と関連事項、出版事項、対照事項、注記などについて説明し、演習を通して正確な記述が出来るようにしていく。	
		情報資源組織演習Ⅱ	先の『日本目録規則』(NCR)への理解を踏まえたうえで、『日本十進分類法』(NDC) についてその意義と役割への理解をすすめ、これにより資料に分類記号が与えられるようになることを目指す。個々に『日本十進分類法』の演習を解かせることにより、資料の主題を分析し最適な分類番号を付与することが出来るようにしていく。『基本件名表目標』(BHS)の仕組みを理解し、件名（主題を表す言葉）の与え方について学び、資料の主題を分析し最適な件名を付与することが出来るようにしていく。	
		児童サービス論	公立図書館の児童サービスについて、乳幼児から中学生くらいまでを対象と考えて、児童サービスの意義とその歩み、子どもの読書の現状と読書の役割、絵本や児童文学などの図書館資料についての知識と児童書の選択・収集・保存、資料提供等の基本的なサービスと読み聞かせやストーリーテリングなどの行事・集会活動等のサービス内容、児童サービスに係わる施設・設備のあり方、ヤングアダルト・サービス、学校図書館の状況と公立図書館による学校図書館への援助、それに現在のさまざまな動きと課題等を概説する。特に、児童書の内容を知り、児童サービスの意義について理解を深めることを目的とする。	

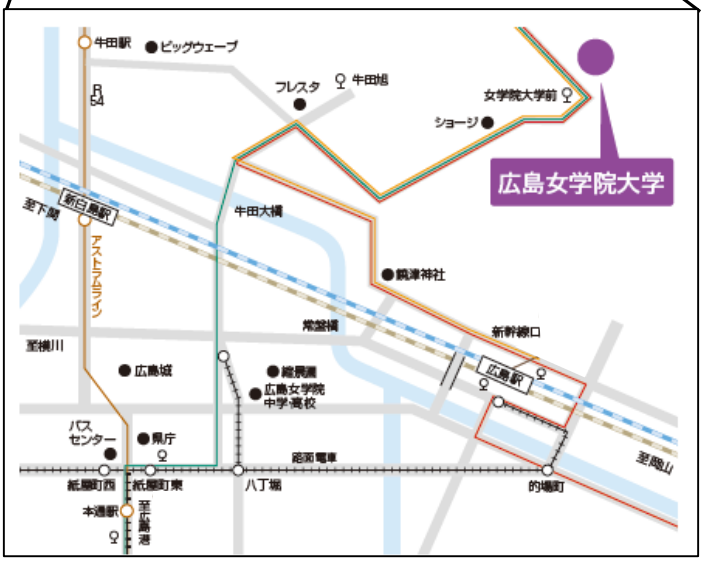
関連科目Ⅱ	司書・司書教諭	図書・図書館史	図書館は人類が生み出した「知的財産」を「収集・整理・保存・提供する」ための機関である。まさしく、人類の歴史のうえに成り立つ機関なのである。そうした図書館の社会的役割を踏まえながら、世界と日本の図書および図書館の歴史を概説する。世界における、文字と図書の歴史を概括し、古代の図書館、中世の図書館、近代の図書館についてそれぞれ理解させつつ、また、各国の図書館の現在について紹介していく。日本についても同様に、古代、中世、近世、明治時代、戦後、現代へと、時代を追いながら行使し、時間と場の広がりの中で、日本の図書館の現状を意識させる。	
		図書館サービス特論	実際に起きた様々な「図書館の自由」に関する事例について学び、その問題点をともに検証していく中で、図書館の存在意義や役割、サービスの意味、図書館のあり方について考察する。図書館サービス概論で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスを支えている規範について取り上げる。とくに、図書館のあり方が極限で問われる「図書館の自由」の問題について、過去の図書館の自由に関する事例を素材にして解説する。それらの事例を検証しながら、現実に置かれた図書館の姿を理解させる。 さらには、その現実を踏まえたうえで、図書館の使命・役割を果たすべき図書館の在り様について、考察・提起していければと思っています。	
		図書館基礎特論	図書館は人びに対し、様々なサービスをしている。その姿は決して一様なものではない。こうした図書館を様々な視点から把握することで、図書館をより深く、より多面的に理解していく。具体的には、日本における様々な種類の図書館について概説し、外国における図書館の状況についても解説することで、図書館をいろいろな方向から見ることができるようにしていく。さらには、図書館で提供する専門的な主題の資料や特殊な資料について、多角的に捉え理解して、図書館の役割について考えさせる。	
		図書館情報資源特論	人類の「知的財産」の「収集・整理・保存・提供」という役割を担う図書館が扱う資料は、図書だけでなく実に幅広い。この図書館が扱う様々な情報資源（図書館資料）の現状について、印刷資料（図書や小冊子、地図などの印刷資料、新聞・雑誌などの逐次刊行物）、非印刷資料（視聴覚資料など）、それぞれの資料について、その特徴や扱い、現状と課題について概説する。図書館が提供する情報資源を使いこなすことを目指すとともに、情報資源の将来的なあり方について考えさせる。	
		読書と豊かな人間性	人が成長していくためには、読書は欠かせない。人間の発達にとって「読書は権利」なのであり、その権利を保障するための機関のひとつが学校図書館である。子どもの読書状況と読書の意義、子どもの本の内容について概説したうえで、読書を推進する施設としての学校図書館や関連施設の役割および現在とこれからの問題を考察する。絵本や児童文学など、基本的な児童書を紹介することにより、子どもの本に関心を持ち、子どもの読書の現状と問題を幅広い視野で理解させることを図り、読書する子どもたちを育て、魅力的な学校図書館づくりができる能力を身につけることを目的とする。	
		学校経営と学校図書館	1997（平成９）年の学校図書館法の改正により、2003（平成15）年４月から12学級以上の学校に司書教諭が配置されている。1998（平成10）年には、学校図書館経営の中核を担う司書教諭を養成する「学校図書館司書教諭講習規程」が一部改正された。司書教諭の資格を得るための講習で履修すべき５科目の一つである本科目では、学校図書館の教育的意義やその経営・管理、司書教諭の役割などについての理解を図り、学校教育目標の達成を支援する学校図書館のあるべき姿について考察する。	

関連科目Ⅱ	司書・司書教諭	学校図書館メディアの構成	指導要領では、学校図書館は「学習情報センター」としての役割が重視されている。学校図書館が十分にその木野を果たすためには、学校図書館コレクションの的確な組織化が求められる。学校図書館メディアの役割、内容と特性、選択・収集とその組織化について概説する。特に、資料の選択、受入、分類、目録など、資料組織化の実務を知ることによって、学校図書館が多様なメディアを的確に選択・収集し、組織化することが、児童・生徒の主体的な学習に役立つ図書館になるための基本的な要件であることについて理解を深めるとともに、コンピュータ化やインターネット活用の状況や今後のあり方を解説する。	
		学習指導と学校図書館	学校図書館法の一部が1997（平成9）年に改正され、2003（平成15）年4月以降は12学級以上の学校に、半世紀近くも配置が猶予されていた司書教諭の配置が義務づけられた。現在学校教育は、知識を一方的に教え込みがちであった教育から、自ら学び自ら考える教育へと基調の転換が図られている。1998（平成10）年に改正された学校図書館司書教諭講習の５科目の一つである本科目では、学習指導における学校図書館メディア活用の基本的な視点と具体的な活用方法などを取り扱う。	

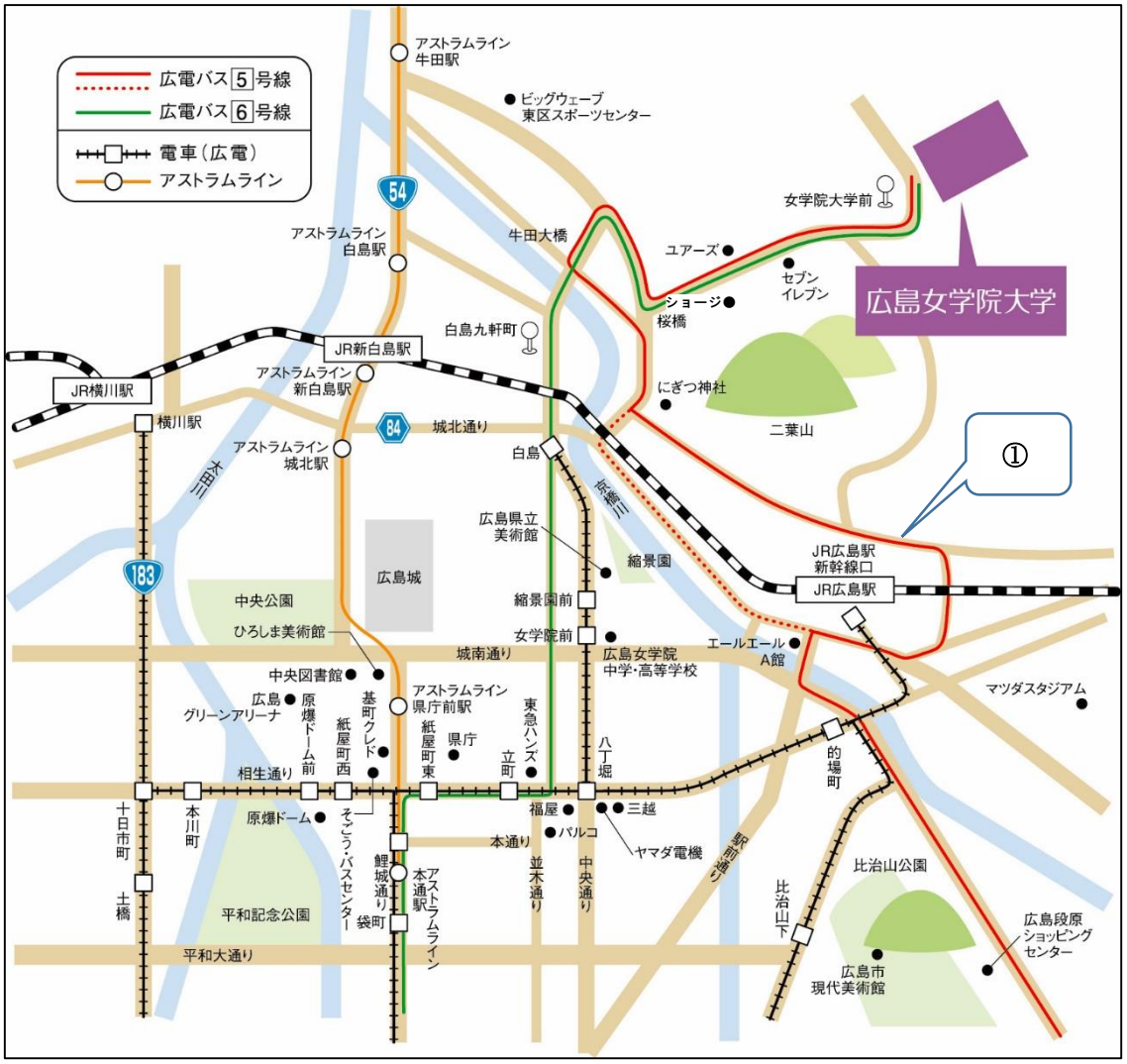
（1）都道府県内における位置関係の図面

大学所在地：〒732-0063 広島県広島市東区牛田東 4-13-1





（2）最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



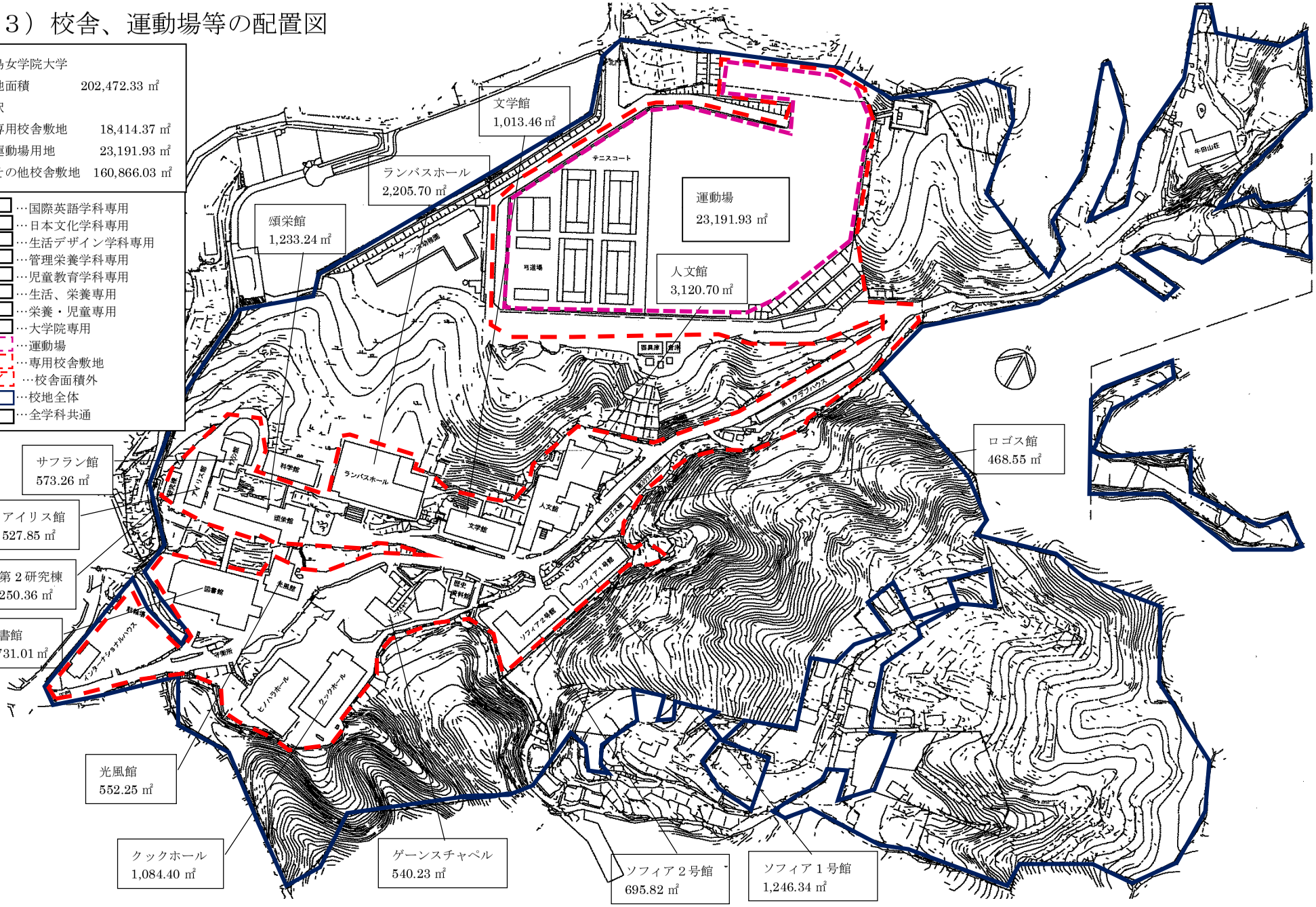
①・・・広島駅北口から約 3km

広電バス（5 号線）にておよそ 15 分

（３）校舎、運動場等の配置図

広島女学院大学
校地面積　202,472.33 ㎡
内訳
専用校舎敷地　18,414.37 ㎡
運動場用地　23,191.93 ㎡
その他校舎敷地　160,866.03 ㎡

…国際英語学科専用
…日本文化学科専用
…生活デザイン学科専用
…管理栄養学科専用
…児童教育学科専用
…生活、栄養専用
…栄養・児童専用
…大学院専用
…運動場
…専用校舎敷地
…校舎面積外
…校地全体
…全学科共通



設置の趣旨等を記載した書類

目　　次

①設置の趣旨及び必要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1
②学部・学科等の特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 3
③学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 5
④教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 6
⑤教員組織の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 8
⑥教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 9
⑦施設、設備等の設備計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.11
⑧入学者選抜の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.14
⑨取得可能な資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.17
⑩実習の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.18
⑪企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画・・P.24
⑫管理運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.25
⑬自己点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.26
⑭情報の公表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.27
⑮教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・・・・・P.29
⑯社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・・・P.30

「生活デザイン学科」設置の趣旨

①設置の趣旨及び必要性

（１）改組の経緯と必要性

本学は 1886(明治 19)年に前身となる広島女学会を創設して以来 130 年以上にわたりキリスト教主義を基盤としたリベラルアーツ教育による女子の人格教育を一貫して推進してきた。その間には、時代の要請に呼応して学部・学科の再編や新設を実施することで、建学の精神を守りつつも時代のニーズに即した人材の養成を行うよう努めてきた。2012(平成 24)年度には全学的改組を実施して、国際教養学部と人間生活学部の 2 学部に再編した。国際教養学部は、国際的な視野と時代に即応するしなやかな感性をもって、地域に根ざしつつ、常に社会的公正を希求し、キリスト教主義に基づく人間愛にあふれる豊かな人間性をもった女性の育成を目的として設置した。

人間生活学部は、多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において高度に貢献できる人材を育成することを目的として設置された。人間生活学部には、生活デザイン・建築学科、管理栄養学科、幼児教育心理学科の 3 学科が設置されており、それぞれの領域において、自己と隣人の生活の質を高めるために、豊かな衣生活および住生活の実現に向けて創意工夫し社会で応用する力、科学的な視点で食や健康の諸問題を発見し改善策を見出し実践できる力、子どもの内面を深く洞察し子どもの主体的な人間形成を支援する力を身に付け、生活デザインと住居・建築、健康と食・栄養、幼児・児童教育と心理学の領域において女性としての感性と創造性を発揮し、強い倫理観と実践力、コミュニケーション力を備え自立した専門家を養成することを目的としている。

生活デザイン・建築学科は、家政学の研究領域である「衣・住」の分野において、人間の身体を中心としてその周縁に広がる衣服、生活用品やインテリア、住居空間・建築・都市とその環境緑化等、人間の多様な生活空間・環境を統合し、よりよい生活空間をデザインする知見と技術およびその根底をなす精神性を有する人材を養成し、社会・地域・家庭において幅広く貢献し、活躍できる能力を修得させることを目的としてきた。これまでに、本学科は住居・建築関係、被服・ファッション関係を中心に高い実績をあげている。例えば、広島 8 大学卒業設計展における多年度受賞、広島デザインデイズ大賞受賞を始め、数々のデザインコンテストにおいて受賞実績をもち、学科がめざしてきた生活デザインと住居・建築における専門家を養成するという目標に適合した人材を多く輩出してきた。

生活デザイン・建築学科がこれだけの実績を残してきた背景としては、生活デザインの各領域における専門の知識・技能を身に付けさせるとともに、学生を積極的に地域社会に送り出し、住民の方々とともに当該地域のニーズを発掘することで、それに則した実用性の高いデザインを創出していくという極めて実践的な教育活動を積み重ねてきたことがあ

げられる。このような教育活動を実践するためには社会の様々な要請に応えていく必要があり、本学科が当初から掲げてきた「住居・建築関係」及び「被服・ファッション関係」に基づくデザインを取り扱うだけでは十分でなく、さらに多様なデザイン領域をカバーすることが求められる。そのため現在では、「生活デザインプロデュース」「ファッションデザイン」「ヴィジュアルデザイン」「インテリアデザイン」「建築デザイン」の５つの領域を設けて、学生や地域社会のニーズに対応できるようにしている。

このような経緯から、現在の学科名称である「生活デザイン・建築学科」では、生活に関わる多様なデザインを広く視野に入れ、それらを総合的に捉えながら豊かな生活を創造していくという学科の新たな方向性を端的に表現する上では適切なものとはいえなくなってきた。そこで、学科名称をより包括的な「生活デザイン学科」とすることで、生活に関わるあらゆるデザインを視野に入れながら、人々の価値観の多様性を理解し、地域・生活環境を多面的に捉え、質の高い暮らしを提案するという学科本来の目的を適切に表現することができるものと判断した。

さらに、学科のこれまでの地域社会における活動実績をふまえて、新たに地域デザインに関する科目を加えることで、地域資源を発掘し、地域を創造するグローカルな視点をもって社会に貢献できる人材育成を一層推進していくことが可能となる。このことは、地域社会と密接に関わりながら協働していくという地方大学の使命に適うものであり、これからの社会のニーズに十分に応えられるものと考えている。

（２）人材の養成、教育上の目的

人間生活学部における人材養成及び教育上の目的は、これまで学部として推進してきたものを継承しつつ、大学全体がめざす「ライフキャリアの確立」という新たな目標を加えて次のとおりとする。すなわち、多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において女性のライフキャリアを通して貢献できる人材を養成する。さらに人間生活の基本となる〈衣・食・住〉および〈育〉の分野で、被服と住居・建築、健康と食・栄養、および保育・教育と子育て支援についての高度な知識・技能を身に付け、実践していくことのできる専門家を養成することを目的とする。教育上の目的を達成させるために、豊かな衣生活および住生活の実現に向けて創意工夫し社会で応用する力、科学的な視点で食や健康の諸問題を発見し改善策を見出し実践できる力、子どもの内面を深く洞察し子どもの主体的な人間形成を支援する力を身に付け、生活デザインと住居・建築、健康と食・栄養、幼児教育・児童教育の領域において女性としての感性と創造性を発揮する態度、優れたコミュニケーション力、及び強い倫理観と実践力を習得させる。

生活デザイン学科は、地域・生活に関わる知識・技能を用いて、豊かな生活を創造する発想力を持ち、人々の生活や価値観の多様性を理解し、地域・生活環境を構成する事象を

多面的に捉え、よりよい暮らしを提案することができる人材を養成する。さらに、地域の人々の声を受け止め、ニーズに即した行動、および他者との協働によって地域・家庭生活の問題解決に貢献できる人材を養成する。そして、生活環境・生活空間に関わる専門知識・専門技術を用いて、生活を豊かにするものづくりに主体的に関わるとともに、幅広い学問の知識を融合して、オリジナルな感性から地域資源を発掘し、地域を創造する発想力、グローカルな視点から地域社会が固有に持つ特性を理解し、活性化に向けた計画を生み出し得る力を習得させる。さらに、一極集中の現代において、各個人が置かれた地域でそれぞれの能力を活かして、生涯を通して具体的に貢献できる力を習得させることを教育上の目的とする。

（３）中心的な学問分野

改組前の旧学科（生活デザイン・建築学科）は、大学設置基準に定められた教育研究上の専攻分野の「家政学関係」を中心とする学科として設置されており、改組後の生活デザイン学科においても専攻分野は変更せず「家政学関係」を中心的な学問分野とする。

生活デザイン学科は、家政学の中心領域である衣・食・住のうち「衣と住」を中心とした教育研究を行う。学科基礎科目として、衣生活論、住生活論、生活空間デザイン論を設けるとともに、環境や地域と人間との多様な相互作用を論ずる科目を加えることで、人間生活をより広範な視点から捉え、科学的に分析していくための基礎的な力を修得させる。

専門科目は、住居・建築系、被服・ファッション系、生活デザイン系から構成することで、基礎力を深化させ専門性をさらに高めていけるようにしている。また、セミナー科目である生活デザイン・建築セミナー、被服心理学演習、服飾史学・美学演習、地域デザインセミナー等をふまえた上で卒業研究セミナーにおいて家政学の研究活動に従事することになる。このような教育課程をとおして、人々の生活や価値観、地域及び生活環境を多面的に捉え、豊かな生活を創出することができる力を育成する。

②学部・学科等の特色

本学は、建学の精神「キリスト教を教育の基盤とし、女性の生涯を支える高度の教養を授け、専門の学術を教授研究することにより、真理と平和を追究し、世界と地域の人々に仕えるゆたかな人格の育成を目的とする」（学則第１条）を教育の基本として、女性のライフキャリアを支援する。この目的を達成するために、豊かな教養と専門的知識を通して、冷静な判断力と決断力を兼ね備えた「ぶれない個」を形成し、自己のライフキャリアの確立を目指すとともに、自己と他者の多様な価値観・生き方を発見し、責任を持って受容し、他者との共生を実現することができる力を習得させる。その上で、寛容の精神をもって他者を受容し、自己の女性としての特性を活かしながら、他者と協働し、地域社会および国際社会に貢献できる力を育成する。

生活デザイン学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」における「高

等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」をふまえると、「総合的教養教育」及び「幅広い職業人養成」の機能に重点を置くものといえる。これらの機能にもとづき、本学科では次の点を主たる特色とする。

（1）ライフキャリアを確立するための基礎力を育成する

本学は創設以来、キリスト教主義に基づく女子の人格教育を行ってきた。しかし、現代社会においては女性の生き方が多様化するとともに、女性が自己を確立し、一人の人間として自己実現を果たしていくことがますます困難な状況になっている。このような中で、本学の教育理念を達成するためには、女性の生涯を見通した「ライフキャリア」という視点に立脚した新たな教育課程に基づく女性教育が不可欠となる。そこで、ライフキャリアを次のように定義した上で教育課程を編成することとした。つまり、ライフキャリアとは「報酬が得られる職業に就いている時だけがキャリアではなく、具体的に金銭化されない労働（主婦労働・ボランティア労働・文化形成労働・定年退職後の労働など）をも含めて、各個人が全生涯にわたって組み合わせて形成した労働生活全体である。」

生活デザイン学科においては、生活デザインの領域を基盤としながら総合的な幅広い教養を身に付けるとともに、教育課程に新設する「ライフキャリア科目」によって「自己との関係」「他者との関係」「社会との関係」についての認識を深めることで、自己の将来への展望を明確にし、ライフキャリアを確立していくための基礎力を育成する。このライフキャリア基礎力をもとにして、自己の知識・技能を活用し、これまでの経験をふまえながら、自己の力を最大限に発揮し、豊かで充実した生活・労働を実行していくことで生涯にわたって自己を実現させていくことのできる女性を育てることを目的とする。

（2）生活デザインの専門家として地域に貢献する

生活デザイン学科では、建築士（一級、二級、木造）受験資格、中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）、学芸員、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、情報処理士、ビジネス実務士、プレゼンテーション実務士といった多様な資格を取得することを可能にしている。また、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、カラーコーディネーター、ファッションビジネス能力検定、色彩検定等の生活デザインに関する各種資格の取得も奨励していく。学生は、自己のライフキャリア構築に向けて必要となる資格を選択して取得するとともに、その分野の専門家として自立していく上で必須となる実践的な知識・技能を修得する。さらに、前述したライフキャリア基礎力を身に付けることによって、一人の職業人として自立するだけでなく、人生における様々なライフステージにおいて自己を生かし続け、生涯にわたって生活デザインの専門家として社会に貢献していくことができる女性を育成する。

本学科の教育課程では、「住居・建築系」「被服・ファッション系」「生活デザイン系」の３つの系の専門科目に、新たに「地域デザイン」に関する科目を設けることとした。地域

デザインに関する科目は、学科基礎科目として「地域デザイン入門」「グローバル化と地域」を設け、専門科目としては住居・建築系に「地域資源と利用」「地域地理学」「地域環境実習」等、被服・ファッション系に「地域と歴史」「広島地域ビジネス論」等、生活デザイン系に「グローバル地域社会論」「地域文化実習」等を設けている。このように、生活デザインの各系において地域デザインに関する科目を履修し、これらを「地域デザインセミナーⅠ・Ⅱ」「地域連携デザインセミナーⅠ・Ⅱ」に連携させることによって、生活に関わる多様なデザインを地域社会のために活用していく方法論についても修得できるようにした。こうすることによって、地域と密接に関わりながら生活デザインの専門性を発揮し、社会に貢献していく力を育成することが本学科の特徴となる。

③学部・学科等の名称及び学位の名称

（1）「生活デザイン学科」の名称とする理由

①（1）の「改組の経緯と必要性」において述べたとおり、現学科名称「生活デザイン・建築学科」では、本学科がめざす教育上の目的である「生活に関わる多様なデザインを広く視野に入れ、それらを総合的に捉えながら豊かな生活を創造していく」という方向性を端的に表現する上では適切なものとはいえなくなってきた。そこで、学科名称から「建築」を削除し「生活デザイン学科」という包括的な名称にすることで、建築設計に特化することなく、生活に関わるあらゆるデザインを教育研究上の対象としていることを明確に示すことができると判断した。また、教育課程として新たに地域デザインに関する科目を加えることで、地域社会と密接に関わりながら当該地域の生活に則したデザインを創造していくという方向性をも包摂しうる名称であると考えている。

（2）学位の名称

本学科は、家政学の領域のうち「衣と住」を中心とした教育研究を行い、被服・ファッション、住居・建築、生活デザインにおける専門性を修得することを目的とする。そして本教育課程を修めることにより、人々の生活や価値観、地域及び生活環境を多面的に捉え、豊かな生活を創出するという家政学全般に関わる専門的な力を育成する。したがって、学位の名称は、教育研究上の専攻分野である「家政関係」にもとづいて「学士（家政学)」とする。

以上をふまえて、本学科における卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は次のとおりとする。

〔生活デザイン学科のディプロマ・ポリシー〕

生活デザイン学科は、次の要件と資質を有している者に対して学士（家政学）の学位を授与する。

【学位授与の諸要件】

学則第 13 条に定める要件を満たし、あわせて別に定める学位論文審査基準を満たした者。

【資質】

DP1（ぶれない個）

地域・生活に関わる知識、技能を用いて、豊かな生活を創造する発想力を持つことができる。

DP2（多様性）

人々の生活や価値観の多様性を理解し、地域環境・生活環境を構成する事象を多面的に捉え、よりよい暮らしを提案することができる。

DP3（寛容と協働）

地域の人々の声を受け止め、ニーズに即した行動し、他者と協働することで、家庭生活から地域環境までの問題解決に貢献できる。

＜学部学科の名称、英文名称＞

学部	学科	学位	学生定員		卒業要件単位数
			入学定員	収容定員	
人間生活学部 Faculty of Human Life Studies	生活デザイン学科 Department of Human Life and Environment	学士（家政学） Bachelor of Home Economics	65 名	260 名	124 単位

④教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の編成の考え方

人間生活学部の教育課程は、全学共通の「基礎科目」「ライフキャリア科目」と、各学科の専門科目である「専門科目」「関連科目Ⅰ」「関連科目Ⅱ」から編成される。

「基礎科目」は、①大学における主体的な学びの態度を身に付け、他者と協働して一つの課題に取り組むことができる（主体的な学びの態度と他者との協働）、②キリスト教主義に基づく倫理観を持ち、自己理解と他者理解を深め、他者に対する思いやりを持つことができる（キリスト教主義に基づく人格形成）、③日本語と英語を使って、読む、書く、聞く、話すことができ、基本的な IT スキルを身に付け、コンピュータを用いて情報を活用できる（基礎学力）、の 3 点を学修目標とする。学修目標①（主体的な学びの態度と他者との協働）に対応する授業科目として「初年次セミナー」、学修目標②（キリスト教主義に基づく人格

形成）に対応する授業科目として「キリスト教学入門Ⅰ」「キリスト教学入門Ⅱ」、学修目標③(基礎学力)に対応する授業科目として「日本語表現技法」「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」「基礎英語Ⅲ」「基礎英語Ⅳ」「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」を置いた。「基礎科目」はすべて必修科目である。なお、外国人留学生等は、「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」「基礎英語Ⅲ」「基礎英語Ⅳ」の代わりに、「基礎日本語Ⅰ」「基礎日本語Ⅱ」「基礎日本語Ⅲ」「基礎日本語Ⅳ」を必修とする。

「ライフキャリア科目」は、生涯にわたって女性のライフキャリアを支える根幹を形成することを目標とし、各学科及び共通教育部門から提供される、女性のライフキャリアを活かす科目で構成される。「ライフキャリア科目」は、必修科目「キャリアプランニング」「女性とライフキャリア」と選択科目からなり、選択科目は、「自己との関係科目群」「他者との関係科目群」「社会との関係科目群」「その他科目群」で構成される。「ライフキャリア科目」における必修科目と、自己、他者、社会との関係における選択科目の学修を通して、①冷静な判断力と決断力、②前に踏み出す行動力、③自己を活かし、他者と協働する力の「社会人基礎力」を身に付けることを目標とする。

生活デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「基礎科目」「ライフキャリア科目」の修得を土台とした深い専門性を身に付けることのできる教育課程を編成した。生活デザイン学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、次の３点である。

〔生活デザイン学科のカリキュラム・ポリシー〕

CP1：ものづくりや空間設計を地域環境の中で活かすために必要な専門知識、専門技術を修得する科目を配置する。

CP2：生活や価値観の多様性を理解し、生活を構成する事象を多面的に捉えるため、人々の生活や行動、歴史、文化、環境に関する科目を配置する。

CP3：生活を総合的に捉え、生活に関する問題への解決策を計画・デザインする力、提案する力、説明する力を養う科目を配置する。

生活デザイン学科の専門科目は、「専門科目」「関連科目Ⅰ」「関連科目Ⅱ」で編成される。「専門科目」は、「学科基礎科目」「住居・建築系」「被服・ファッション系」「生活デザイン系」「セミナー」からなる。「学科基礎科目」は、学科専門の基礎となる科目群であり、学生が学びの分野を自由に選択できるようにすべての科目を選択科目とする。学びの分野により、「住居・建築系」「被服・ファッション系」「生活デザイン系」の３系に分け、すべて選択科目とし、一つの系を深く学ぶことも、複数の系を幅広く学ぶことも可能にしている。「セミナー」は、3 年次の選択必修科目である演習・セミナーと、4 年次の必修科目「卒業研究セミナーⅠ・Ⅱ」「卒業論文等」からなり、3 年次でゼミ選択を行う。「関連科目Ⅰ」

「関連科目Ⅱ」は資格関連科目であり、「関連科目Ⅰ」は「教職・社会教育主事」「司書・司書教諭」、「関連科目Ⅱ」は「教職」「学芸員」「社会教育主事」「司書・司書教諭」に区分される。なお、「関連科目Ⅰ」は卒業要件に含めるが、「関連科目Ⅱ」は卒業要件外としている。

生活デザイン学科の「専門科目」と、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの対応関係について、生活デザイン学科カリキュラム・マップ（資料 1）に示した。また、科目間の関連について、生活デザイン学科カリキュラム・ツリー（資料 2）に示した。（資料 1）と（資料 2）に示されたように、「専門科目」のうち、「学科基礎科目」を 1・2 年次に配置し、1 年次から生活全般とそれを取り巻くデザインの基礎を学ぶとともに、「住居・建築系」「被服・ファッション系」「生活デザイン系」について広く学ぶことができるように専門科目を配置した。2 年次に「住居・建築系」「被服・ファッション系」「生活デザイン系」の多様なデザインから自由に深めたい学びを選択し、3 年次から「地域デザインセミナーⅠ・Ⅱ」「被服心理学演習Ⅰ・Ⅱ」「服飾史学・美学演習Ⅰ・Ⅱ」「アパレル・デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」「生活デザイン・建築セミナーⅠ・Ⅱ」のうちのいずれかのセミナーを選択し、4 年次で必修科目「卒業研究セミナーⅠ・Ⅱ」「卒業論文等」を配置し、卒業研究に取り組む。なお「卒業論文等」としたのは、論文だけでなく作品も含めるためである。「卒業論文等」において、4 年間の集大成を行う。

（２）教育課程の特色

生活デザイン学科の教育課程の特色は、ファッションやインテリア、建築、地域まで、生活に関わる幅広い分野からデザインを学ぶことができることである。入学後に、広く多彩なデザインを学び、深めたいデザインを自由に選択可能であることも大きな特色であり、将来のライフキャリアについて深く考え、様々な試行錯誤を繰り返すことで、より明確な将来のビジョンを持つことを可能にした。また、2 年次以降、幅広く体系的な実習、インターンシップ、フィールドワークが用意されており、現場での学びを通してデザインの実践力を身に付けることができる。さらに、女性のライフキャリアを支援する、中学校・高等学校の教員免許（家庭科）や建築士（一級・二級・木造）受験資格、学芸員、社会教育主事など、人間生活に関わる多彩な免許・資格を取得できることも特色である。

⑤教員組織の編成の考え方及び特色

生活デザイン学科は、学問の中心的分野を「家政関係」と位置づけ、家政学の領域のうち「衣と住」を中心とした教育研究を行い、住居・建築系、被服・ファッション系、生活デザイン系における専門の知識・技能を修得させることを目的とする。また、住居・建築系では一級建築士、二級建築士及び木造建築士の受験資格を取得できるようにする。さらに、地域デザインに関する科目を設けて、地域社会と密接に関わりながら当該地域の生活に則したデザインを創造していく力を育成する。

教員組織の編成にあたっては、住居・建築系、被服・ファッション系、生活デザイン系の担当者を目的に応じて配置することにしている。学科の専任教員 10 名のうち、住居・建築系に 4 名、被服・ファッション系に 2 名、生活デザイン系に 4 名を主たる担当者として配置する。なお、各系を主として担当する教員は他の系の授業科目も担当することで、特定の系の専門性に偏ることなく幅広く生活デザインについて履修させるとともに、地域デザインに関する科目を各系に適切に配置することで各系の専門性を地域と連携させるよう配慮している。

教員の完成時における年齢構成は、70 歳代 1 名、60 歳代 2 名、50 歳代 4 名、40 歳代 2 名、30 歳代 1 名となっている。60 歳代の教員のうち 1 名（完成時 66 歳）は、本学の「広島女学院就業規則」第 29 条の 7 第 1 項第 1 号の規程(資料 3)により完成年度前年の 2021(平成 33)年度末をもって定年となるが、同規程第 29 条の 7 第 2 項に基づいて定年を 1 年延長させ完成年度まで任用されることが決定している。また、別の 1 名（完成時 72 歳）については本学の「特別専任教職員の任用等に関する規程」第 2 条第 1 号（資料 4）により採用され、同規程第 6 条第 1 号に基づいて完成年度まで任用されることになっている。完成年度以降の運用に当たっては、「特別専任教職員の任用等に関する規定」等の趣旨を踏まえた適切な運用に努め、計画的な後任の採用を行っていくことにしている。完成時における後任の採用については、定年退職となる教授 2 名に代えて、まず准教授 2 名を教授に昇任させた上で、准教授 1 名、講師または助教 1 名を新規に採用し、バランスのとれた年齢構成となるよう計画している。この人事が着実に実行されるよう全学人事委員会に諮った上で手続きを進める計画である。

教育研究上の資格に関しては、学科を構成する教員のうち 3 名が博士の学位、5 名が修士の学位を取得しており、いずれも十分な研究業績を有している。2 名の教員については学士の学位取得者であるが、両者とも一級建築士の資格を有していることに加えて、前学科の建築士課程の授業担当者として十分な教育実績もあり、本学科の建築士養成において実践的な授業科目を担当する実務家教員として不可欠な構成員となっている。

本学では、教員の採用、昇任時には全学人事委員会及び学部任用教授会において厳密な資格及び業績審査を実施しており、科目担当者はいずれも当該分野における十分な資格を有するものである。

⑥教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

共通教育においては、少人数教育を特徴としており、「基礎科目」のうち「初年次セミナー」、「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」「基礎英語Ⅲ」「基礎英語Ⅳ」は、すべて 20 名程度のクラス編成である。１年次から少人数教育を行うことで、学生一人ひとりの教育的ニーズにきめ細やかに対応し、大学における主体的な学びの態度の育成と、基礎学力の向上をめざす。「基礎科目」のうち残りの科目においても、１クラス 50 名程度を適切数とし、丁寧な

個人指導を可能としている。「ライフキャリア科目」の選択科目「自己との関係科目群」「他者との関係科目群」「社会との関係科目群」「その他科目群」においても、1 クラス 50 名程度を適切数とし、グループワークやディスカッション、ディベートなど、アクティブラーニングを行う。また、「ライフキャリア科目」では、学部を超えて他学科所属の教員による授業科目を選択することが可能であり、所属する学科の専門以外の領域についての学びを通して、より広い視野から将来のライフキャリアについて考える機会を提供する。生活デザイン学科の専門科目においても、3 年次以降の「セミナー」は 10 名から 20 名程度のクラス規模で、グループワークやプレゼンテーションを取り入れ、学生間のディスカッションやディベートを通して、より深い学びの態度の修得や他者との協働をめざす。

生活デザイン学科の専門科目の授業形態は、講義、演習、実験・実習に分類され、（資料 1）と（資料 2）に示されたように、適切な開講年次に適切に配置されている。講義、演習科目は、1 クラス 50 名程度を適切数とし、知識伝達を主とする授業においても、グループディスカッションやディベートなどのアクティブラーニングの方法を取り入れている。専門科目のうち特に実験・実習は体系化され、「住居・建築系」「被服・ファッション系」「生活デザイン系」のすべてにおいて幅広く、2 年次以降に配置されている。実験・実習においては、PBL（問題解決型・課題解決型学習）の方法を取り入れたアクティブラーニングを行う。授業で学んだことをもとに、地域連携・産学連携プロジェクトなど、学外と連携した活動に発展させることで、地域連携、地域貢献など、地域創生に積極的に関わるライフキャリアの基礎を形成する。さらに、4 年次の「卒業論文等」において、4 年間の集大成を行う。

（２）履修指導方法

1 年次からチューター制度を導入し、一人ひとりの学生のライフキャリアを見通した指導を行う。すなわち、1 年次から広い分野からデザインを学ぶことで、学生の興味・関心を高めるとともに、外部のコンペ・コンテストに積極的に参加するように働きかけ、作品制作等の指導を行う。3 年次以降は、3 年次の選択必修科目「セミナー」の担当教員がチューターとなり、学生の興味・関心や適性を考慮し、学びと仕事の連続性を意識化させ、学生それぞれのライフキャリアを支援する。すなわち、学生の能力や適性を発展させるべく、実習、インターンシップやフィールドワークにおける事前・事後の個別指導、地域連携・産学連携プロジェクトなど学外と連携した活動への積極的参加の促進と支援を行う。4 年間の学びを通して、学生に自分のライフキャリアを切り開く総合的な力を身に付けさせる。

（３）卒業要件

基礎科目 16 単位を必修科目、ライフキャリア科目 4 単位を必修、12 単位を選択必修として計 32 単位を履修し、専門科目（内、3 年次の演習・セミナーを選択必修として 4 単位、4 年次の卒業研究セミナーおよび卒業論文等を必修として 8 単位、計 12 単位を履修）、関連科目Ｉから 92 単位を履修し、合計 124 単位以上を修得する。幅広い学びや、学生自身の興

味・関心により自由に科目選択をできるように、専門科目と関連科目Ⅰから 92 単位履修としている。

卒業要件として修得すべき単位数については、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を原則として 50 単位未満とする。ただし、直前学期の成績平均点数(GPA)が 2.3 未満の者については、当該学期の履修登録上限単位数を 22 単位とする。

めざすライフキャリアにより、4 タイプの履修モデルを、インテリア・住居・建築系（資料 5)、被服・ファッション系（資料 6)、生活デザイン系（資料 7)、家庭科教員をめざす（資料 8）に示した。卒業後の進路として、（資料 5）はインテリア業界、住宅・建築業界を目指す学生の履修モデルであり、（資料 6）はアパレル企業、ファッション業界をめざす学生の履修モデル、（資料 7）は地域を視野に入れた生活空間の創造をめざす学生の履修モデル、（資料 8）は、教職（家庭科）をめざす学生の履修モデルである。（資料 8）では、卒業要件外の「関連科目Ⅱ」の単位数を除き、卒業単位の 124 単位となっている。

⑦施設、設備等の整備計画

（１）校地、運動場の整備計画

本学は、JR 広島駅からバスで約 15 分の距離にあり、きわめて閑静な住宅地に位置している。JR 広島駅や市内中心部とのアクセスは、私営バスが運行されているほか、JR 広島駅と大学構内を往復するシャトルバス（業務委託）により、学生等の利便性の向上を図っている。

キャンパスは自然林に囲まれ、緑深い環境の地にあるので、隣接する民家には自然環境の保持に理解を求めながら隣接地の樹木、草木の伐採、除草を定期的に行っている。キャンパス内は平坦地が少なく、移動時には多少の困難が生じる。特に、構内道路において障がいのある学生にとって一般の車椅子での移動は容易ではないので、電動車椅子を配置するなど、その解消に努めている。

校地等面積は 202,472.33 ㎡であり、そのうち校舎敷地は 18,414.37 ㎡、運動場用地は 23,191.93 ㎡で、設置基準上必要とされる面積 13,200 ㎡を上回っている。自然林に囲まれた広大な敷地の中に、校舎等を配置し、また、グラウンドにはテニス場や弓道場などを備えている。グラウンドはキャンパス構内の上部位置し、講義棟等から徒歩で 10 分余りの距離にある。体育の授業には教育棟最上階の体育館が使用されることが多く、その利用は課外活動のウェイトが高い。グラウンドは管理棟や講義棟等が配置されているエリアと少し離れているので周辺に防犯カメラやブザーなどを増設し、安全の確保に努めている。

学生会館の役割を果たすヒノハラホール前は原則駐車禁止とし、ATM やベンチを配置しており、施設内の食堂、売店、ラウンジ等とも相まって学生が集う場所となっている。

また、講義棟の外にもテーブルや椅子、自動販売機を設置し、講義以外の時間において休憩、交流の場となっている。

（２）校舎等施設の整備計画

校舎面積は 29,882.92 ㎡であり、基準校舎面積 10,826 ㎡を上回っている。校舎には講義室 23 室、実験実習室 25 室、コンピュータルーム 7 室、演習室・セミナールーム 21 室他を設置している。また、専任教員研究室は、全室個室で研究室面積は 1 室約 30 ㎡である。

生活デザイン学科については、専用教室として、ＣＡＤ、イラストレーター等の機能を有するパソコンやドラフターを完備した第１・２造形実習室があり、住居・建築設計、造園表現設計など主として実習関係の授業科目を行う。このほか、建築材料実験室や被服関連の造形実習室を配置し、実験や実習関連等の授業科目を行う。

基本的には、これまで使用してきた施設設備を使用することとしているが、老朽化が進んでいるものもあり、計画的な整備が必要であるため、今後の検討課題としている。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学図書館の選書は、担当教員が学生の教育研究に役立つ資料を選書することを優先しているが、ブックハンティングや購入希望図書申込みによる学生選書制度や図書館職員による選書制度も導入している。現在生活デザイン関連の資料は相応に整備されている状況である。今後新学部として必要な資料については、学科予算の中で重点的に整備していく予定である。

2017(平成 29)年 3 月 31 日現在、蔵書数は 286,274 冊で視聴覚資料は 1,613 点である。このうち教育に関する資料（NDC 分類 370 番台での抽出件数）について、図書は 20,345 冊（国内図書：18,855 冊、外国図書：1,490 冊）あり、視聴覚資料は 15 点である。これらの資料は新学部の教育研究に対応できる内容であり、今後は教育研究に必要な資料（視聴覚資料を重点的に）を整備していく予定である。

完成年度には、人間生活学部生活デザイン学科については 29,492 点（国内図書：25,742 冊、外国図書：3,624 冊、視聴覚資料：126 点）を目標としている（資料 9)。

雑誌は 2017(平成 29)年 3 月 31 日現在 6,069 誌を所蔵している。継続購入中の雑誌は 243 誌で、うち 8 誌が外国雑誌である。生活デザイン学科の教育に関する雑誌は 141 誌（内外国雑誌：74 誌）である（資料 10・11)。2017(平成 29)年度における継続購入雑誌は 17 誌（国内雑誌のみ）の予定である（資料 11)。

電子情報の種類はデータベース、電子ジャーナル、電子図書がある。本学図書館が契約している電子資料とオープンアクセスの電子資料が一括検索できる Full Text Finder を導入しており、2016(平成 28)年度より図書館ホームページをリニューアルし、「情報検索」のページを整備することにより検索を簡易にしている。2017(平成 29)年 3 月 31 日現在、国内電子ジャーナル 2 タイトル、国外電子ジャーナル 179 タイトル、データベース 8 種類、電子図書 3,516 タイトル（国外電子図書：3,478 タイトル）を契約しており、JUSTICE にも加盟している。特に電子ジャーナル JSTOR や EBSCO のデータベース Academic Search Complete やジャパンナレッジ Lib は学生にとって教育効果の高い資料である。

2004(平成 16)年 10 月に新設した図書館の総延面積は 5,904 ㎡、収容可能冊数は 442,500 冊であり、館内の閲覧用座席数は 381 席で現行学生収容定員 1,880 名の 20.3%にあたる。地下１階、地上４階建てで、地下 1 階には電動集密書架があり、製本した雑誌、論集、紀要が収納され、マイクロ資料コーナーも設置している。1 階には 2010(平成 22)年 4 月にラーニング・コモンズを開設し、「Heartful　Commons」「Joyful Commons」「Useful Commons」の 3 つの空間を設置している。「Heartful　Commons」はラーニング・アドバイザーによる学修支援を集中的に受けることができる部屋として活用している。電子黒板を常設して、TOEIC 講座、英検対策講座、パソコンの使い方講座等も実施し、学生の共同学修の場としても利用している。また「Joyful Commons」では DVD、レーザーディスク、語学テープ等を自由に聴くことができ、利用形態に合わせて可動式の机や椅子を自由に動かして、グループ学修ができる。更に「Useful Commons」では 24 台のパソコンがあり、レポートの作成等学生が自由に学修できる場となっている。また 1 階には貸出・返却・レファレンスコーナー、参考図書コーナー、新聞コーナー、雑誌・論集コーナー、点字図書コーナー、文庫・新書コーナー、インターネットコーナー等を設置している。2 階には研究個室が 12 部屋あり、集中して勉強できる環境が整備され、貴重本コーナー、指定図書コーナー、栗原貞子記念平和文庫コーナーも設置している。2 階から 4 階にはグループ演習室が 7 部屋あり、共同学修の場として利用されている。更に 4 階にはプレゼンテーションルームがあり、初年次対象の図書館ガイダンスや学科別ガイダンスを行っており、学生は図書館ホームページから予約すればプレゼンテーションの練習をすることも可能となっている。

パソコンに関しては館内利用の貸出用ノートパソコンが 19 台、ラーニング・コモンズに 27 台、インターネットコーナーに 10 台、プレゼンテーションルームに 14 台、OPAC 検索用に 14 台、その他情報検索用パソコンコーナーに 7 台設置している。館内は全館無線 LAN で利用できる環境を整備している。

2018(平成 30)年度の図書館職員の構成は、専任 3 名、兼任の図書館長 1 名（教員)、特別常勤嘱託職員 1 名、派遣職員 2 名、アルバイト 2 名で、全員司書資格を有している。また司書課程を受講している学生との協働活動として、図書館ボランティアや ILL 業務・書庫整理のアルバイトを実施している。

開館時間は授業期の平日は 8：45 から 20：00 まで、土曜日は 8：45 から 17：00 まで開館しており、祝日に授業がある場合は通常通り開館している。またオープンキャンパス実施日や卒論期には日曜開館も実施しており、2015(平成 27)年度は 288 日、2016(平成 28)年度は 278 日開館している。

他大学図書館等との協力体制としては、NII (国立情報学研究所) NACSIS-CAT、NACSIS-ILL を通じた他大学との相互利用、OCLC(Online Computer Library Center)を通じた海外大学との ILL がある。また本学図書館は機関数 16 大学から構成される「広島県大学共同リポジトリ (HARP)」に所属し、本学の研究成果を無償で公開している。

⑧入学者選抜の概要

（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活デザイン学科は、地域・生活に関わる知識・技能を用いて、豊かな生活を創造する発想力を持ち、人々の生活や価値観の多様性を理解し、地域・生活環境を構成する事象を多面的に捉え、よりよい暮らしを提案することができる人材を養成する。本学科では、この目的をふまえた上で次の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めて入学者の選抜を行う。

〔生活デザイン学科のアドミッションポリシー〕

AP1：高等学校で履修した教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している

AP2：自分の考えを日本語で他者にわかりやすく文章表現できる

AP3：ある事象を多面的に捉え、考察し、自分の考えをまとめることができる

AP4：生活・地域におけるさまざまな問題に関心を持ち、身につけた専門知識、専門技術を解決のために役立てたいと考えている

入学者選抜方法ごとの評価内容を示したものが（資料 12）である。また、入学者受入れの方針の各項目（AP1～AP4）と学力の３要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）との関連性をふまえて、本学科で実施する入学者選抜方法との関係を示したものが（資料 13）である。

（２）入学者選抜方法

本学科では、入学者受入れの方針に基づき、オープンセミナー入試、ＡＯ入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、特待生入試、一般入試（前期・後期）、大学入試センター試験利用入試及び特別入試を実施する。各入学者選抜方法における募集人員は次のとおりである。

学科	入学定員	オープンセミナー入試	AO入試	指定校推薦入試	公募制推薦入試		特待生入試	一般入試		
								前期日程		後期日程
					A･B方式	C方式		A･B日程	C日程	
生活デザイン学科	65	16	4	7	5	2	2	20	2	2

学科	大学入試センター試験利用入試			特別入試	
	Ａ日程	Ｂ日程	Ｃ日程	帰国生徒	社会人
生活デザイン学科	2	2	1	若干名	若干名

募集人員の割合は、ＡＯ型入試（オープンセミナー入試及びＡＯ入試）が 30.8%、推薦入試（指定校推薦及び公募制推薦）が 21.5%、特待生入試及び一般入試（前期及び後期）が 40%、大学入試センター試験利用入試が 7.7%となっている。

各入学者選抜方法の特徴は次のとおりである。

（ア）オープンセミナー入試

受験希望者に本学の授業方針や授業内容を十分に理解した上で出願する機会を提供する目的で、ＡＯ入試の一形態として実施するものである。受験希望者は大学で開講する 3 日間の授業（オープンセミナー）を受講し、大学で学んでいくための基礎的な力を育成する授業を体験する。大学側は、セミナーの中で課す各種課題（発表・レポート等）及び受講状況に基づいて評価し、後日受講者より出願があれば、授業評価と書類審査に基づいて合否を判定するものである。この入試方法は、受験生と大学側とが相互に十分な理解を得た上で入学を決定することになるため、入学者受入れの方針に基づく適切な評価を行うことが可能であるとともに、入学後の学生の適応状況も良好である。

（イ）ＡＯ入試

本学科が対象とする領域である生活全般、衣生活、住生活、建築、地域づくり等に強い関心をもち、生活の質の向上に貢献できる学生を求めることを目的とし、生活デザインの専門家となるための適性、意欲、コミュニケーション力などを評価するものである。選考方法としては、演習、プレゼンテーション及び面接を課す演習・プレゼンテーション型と講義・理解度判定及び入念な面接により評価する面接重視型を設けて、それぞれの評価内容及び書類審査に基づき総合的に判定を行う。

（ウ）推薦入試（指定校推薦、公募制推薦）

指定校推薦入試においては、調査書における全体の評定平均値に基準を設け、学科が求める学生像を提示した上で高等学校長の推薦を受ける。選考方法は、小論文・面接による評価と書類審査（推薦書、自己紹介書、志望理由書及び調査書）の評価にもとづいて総合的に判定する。

公募制推薦入試は、Ａ方式（専願）、Ｂ方式（専願）及びＣ方式（併願）の３方式で実施する。いずれも調査書の評定平均値による成績基準は設けていないが、Ｂ方式についてはキリスト教の学校教育を受けた者、教会生活を１年以上おくった者、または本学同窓会会

員の子・孫・姉妹であることを出願の要件とすることで、本学のキリスト教主義に立脚した教育理念を理解し、賛同する受験生を求めている。

選考方法は、小論文またはデッサンまたは資格・検定試験利用と面接であり、書類審査の評価を含めて総合的に判定を行う。なお、特定の資格・検定試験（例えば、英検、TOEIC、漢字能力検定、日本語検定）の成績利用制度を設けることで、多様な評価が可能となるよう配慮している。

（エ）一般入試・特待生入試

一般入試として、前期日程と後期日程を設けている。前期日程は2月期に実施し、3日間の試験日を設けてＡ・Ｂ・Ｃ日程としている。Ａ・Ｂ日程は 2 科目型の学力試験を実施するものであり、国語、英語または数学から２科目を選択するものである。Ｃ日程は 1 科目型であり、国語または英語から１科目を選択するものである。後期日程は 3 月期に実施するものであり、学力試験として国語または英語から 1 科目を選択するとともに、面接を必須として評価する。

特待生入試は、本学での学修に強い意欲を持ち、成績優秀な者に対して入学後の勉学を奨励する目的で導入する。本入試に出願した受験生は、一般入試前期Ａ日程を受験することになっており、Ａ日程全受験者の上位 20％以内の成績であり、かつ上位 2 名の者に奨学金を給付する制度である。

（オ）大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の成績を利用して合格者を選抜する。判定時期に応じてＡ・Ｂ・Ｃ日程を設けている。Ａ・Ｂ・Ｃ日程はいずれも 2 科目型であり、国語を必須とした上で、地理歴史・公民、数学、理科、国語、英語から 1 科目を選択して、その総合点で判定を行う。

（カ）特別入試

特別入試として、帰国生徒特別入試、社会人特別入試を設けている。帰国生徒特別入試では、「日本国籍を有し、外国の高等学校段階に 2 年以上学んだ者」を出願資格としているが、外国の高等学校または同等の学校に在学した者のほかに、国際バカロレア資格証書を有する者も対象としている。選考方法は、小論文、英語及び面接による評価に基づいて総合的に判定する。

社会人特別入試では、「高等学校を卒業した者、または高等学校卒業と同等の資格があると認められる者で、入学年度の 4 月 1 日現在で満 25 歳以上の女性」を出願資格として定めている。選考方法は、小論文及び面接による評価に基づいて総合的に判定する。

（３）選抜体制

入学者受入れの方針、入学者選抜方法、入試日程、入試科目等の入学者選抜に関わる意思決定は、学長が委員長となる入試委員会の議を経て、学長によって行われる（資料 14)。また、入学者選抜の実施業務については、入試実行委員会が主導して適切に遂行している（資料 15)。各学科におけるオープンセミナー入試、ＡＯ入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、特待生入試、一般入試（前期・後期)、大学入試センター試験利用入試、特別入試の試験実施、採点、書類審査及び面接は、学科所属の専任教員によって実施する。

（４）科目等履修生及び聴講生制度

本学では、科目等履修生及び聴講生制度を設けており、各学科においても受け入れる予定である。いずれの制度においても、正規の学生の学修に差し支えない場合に限り教授会の議を経て学長が許可することになっており、科目等履修生の場合は当該授業科目担当教員及び当該学科において審査を行った上で許可するため、正規の学生の学修に支障をきたすことはない。

⑨取得可能な資格

人間生活学部生活デザイン学科で取得可能な免許・資格は、次の通りである。

【人間生活学部　生活デザイン学科】

免許・資格	国家資格 民間資格	資格取得	科目の修得・卒業要件
中学校一種免許 （家庭）	国家資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
高等学校一種免許 （家庭）	国家資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
一級建築士	国家資格	実務経験２年で受験資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
二級建築士	国家資格	受験資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない

木造建築士	国家資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
学芸員	国家資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
学校図書館司書教諭	国家資格	取得可能	教育職員免許状の取得を前提とし、卒業要件単位に含まれる科目のほか、司書教諭関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
図書館司書	国家資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、司書関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
社会教育主事	国家資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか, 社会教育関連科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない
情報処理士	民間資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない
ビジネス実務士	民間資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない
プレゼンテーション実務士	民間資格	取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが, 資格取得が卒業の必須条件ではない

⑩実習の具体的計画

【教育実習】

（１）実習先の確保状況

教育実習（中学校・高等学校（家庭））については、広島市教育委員会管轄の中学校 63

校および高等学校 8 校、中等教育学校 1 校、呉市教育委員会管轄の中学校 26 校および高等学校 1 校、広島県教育委員会管轄の中学校 1 校および高等学校 82 校、さらに系列校である私立広島女学院中学校および高等学校（資料 16）を実習先として確保している。以上のことから、実習先については十分な確保状況にある。

（２）実習先との契約内容

広島市、呉市の市立中学校において実習を行う学生については上記の広島地区大学教育実習連絡協議会を通じて実習の承認依頼を行うが、その過程で「広島市立学校教育実習実施要項」を遵守することを誓約書にて誓約させている。また、実習における個人情報の取り扱いについては、「個人情報に関する法令及びその他の規範」を遵守するよう学生に指導するとともに実習先にも依頼している。広島県やその他の市の管轄の中学校、高等学校についても準じている（広島県「教育実習実施取扱要領」など)。

（３）実習水準の確保の方策

実習への参加要件を以下のように定め、実習水準の確保に努めている。

（ア）3 年次までの全履修科目の成績平均点数（GPA）が 2.3 以上であること
編入学生は、3 年次の履修科目の成績平均点数（GPA）が 2.3 以上であること

（イ） 3 年次終了時点において、それまでに履修した「教科に関する科目」の成績平均点数（GPA）が 2.3 以上であること

（ウ） 1～3 年次まで下記に示した「教職に関する科目」(選択必修を除く必修科目）の単位を取得していること

（エ）教職に関する科目「各教科の指導法」(3 年次）において、当該科目担当者が教育実習参加に相応しいか否かの判断を迷う学生に関しては、15 回目の授業終了後に査定の模擬授業を実施し、本学組織・中等教職課程員会にて教育実習参加の可否を決定する。

［教職に関する専門科目］

「教職論」「教育原理」「教育心理学」「教育課程論」「教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む。)」「教育社会学」「生徒・進路指導論（進路指導の理論及び方法を含む)」「特別活動論」「学校カウンセリング」、「道徳教育指導論」(中学校のみ）および各教科の「教科教育法」

［教科に関する専門科目］

各教科の教科に関する科目の科目区分に合わせて 20 単位以上取得

（４）実習先との連携体制

上述の広島地区大学教育実習連絡協議会を通じて、また本学の教職課程専任教員、巡回指導担当教員が直接実習先にうかがうことで、実習先との連携を行っている。

協議会については、教育実習を円滑に進めるための連絡協議を行い、あわせて教職課程に関する情報交換を行うことを目的とするものである。定例会議は、年 2 回開催されることになっている。協議会には、会員大学の他に年 1 回は教育委員会、校長会から代表者が参加しており、実習や教職課程に関わる情報交換を行い、意見交換をしながら、教育実習の水準確保に努めている。

また実習先への訪問については、実習期間中に、本学の教職課程専任教員、巡回指導担当教員が分担して実習先を巡回指導すると共に、実習の達成目標等の共有のため校長、指導担当教員等と懇談を行っている。

（５）実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

教育実習前の感染予防対策として、実習参加学生に対し、「麻疹・風疹の抗体検査」等を実施し、感染拡大防止を心がけている。想定できない実習中の災害や事故に対応できるよう、実習参加者全員は「学研災付帯賠償責任保険」に加入している。

（６）事前・事後における指導計画

以下のように、主に、通年科目である「教育実習Ⅲ（事前・事後指導）」を通じて事前事後指導を行っている。なお、随時、本学の教職課程専任教員、巡回指導担当教員、教職課程科目担当教員およびチューターなどが指導を行っている。

（ア）時期及び時間数

事前指導：4 年次「教育実習Ⅲ（事前・事後指導）」　(90 分×16 コマ)

事後指導：4 年次「教育実習Ⅲ（事前・事後指導）」　(90 分×3 コマ)

（イ）指導計画

［事前指導］

第 1 回　オリエンテーション～教育実習の位置づけ及びスケジュール～

第 2 回　教育実習の意義と目的・教育実習と実習生の日々

第 3 回　マイクロ・ティーチングの方法について

第 4 回　模擬授業（１）

第 5 回　中学校・高等学校における生徒指導のあり方について（２コマ分）

第 6 回　模擬授業（２）

第 7 回　教育と人権について（２コマ分）

第 8 回　模擬授業（３）（４）（２コマ分）

第 9 回　模擬授業（５）

第 10 回　　中学校・高等学校における教師の教育実践について（2 コマ分）
第 11 回　　模擬授業（６）
第 12 回　　模擬授業（７）（８）（２コマ分）
第 13 回　　模擬授業（９）
［事後指導］
第 1 回　　教育実習を振り返って（1）～アンケート調査～
第 2 回　　教育実習を振り返って（2）～グループ討議とグループごとの発表～
第 3 回　　教育実習のまとめ（個別面談）

（７）教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習期間中には、各教育実習においては中等教職課程委員会の構成員である教員等で全ての実習校を巡回し、授業参観等を通して実習生の状況把握や指導･助言を行っている。

巡回指導は、実習先と大学が協力して実習教育の充実を図ることを目的としている。巡回指導に際して、担当教員は事前に実習先の状況を把握した上で、実習先との面談予約をとり、学生の実習期間中に訪問する。校長などの実習先責任者や実習指導担当教諭と学生の実習状況や問題、本学への要望などについて話し合った上で、学生が行っている授業実習等の参観を行い、指導・助言を行って意欲的に実習を継続できるように指導する。巡回指導後は報告書を作成して、中等教職課程委員会に提出し、より充実した実習指導とするための資料としている。

（８）実習施設における指導者の配置計画

実習先に対しては、本学の教職課程専任教員や巡回訪問指導担当教員が、実習先との事前の打ち合わせを通して実習生への指導計画及び実習指導担当教諭の配置計画を確認している。実習開始後は、本学の教職課程専任教員や巡回訪問指導担当教員、あるいはチューターが実習指導担当教諭と緊密に連絡を取り合って、実習の状況を常に把握し、実習生に対して効果的な助言を行うことのできる連携体制を構築する。

（９）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、教職課程専任教員等によって構成される委員会を開催し、実習先指導担当教諭や校長等による評価、実習日誌、勤務状況、巡回訪問指導の記録等と大学での事前・事後指導を総合的に判断して評価する。

教育実習および事前・事後指導のねらいは以下のとおりであり、以下の観点から評価する。

（ア）教育実習のねらい

中学校・高等学校の教育活動に参加し、生徒への理解を深めるとともに、授業実習を行い、中学校・高等学校の機能と中学校・高等学校教諭の職務について学ぶ。

（イ）事前・事後指導のねらい

教育実習を円滑に進めていくための知識・技能を習得し、学習内容・課題を明確にするとともに、実習の反省を行う。

【博物館実習】

（１）実習先の確保状況

直近の 2016(平成 28)年度の状況は別添の実習先一覧（資料 17)、および受け入れ館園の承諾書（資料 18）のとおりである。2016(平成 28)年度は 11 館園で 16 名が実習を行った。広島県立美術館、ひろしま美術館、広島市現代美術館、広島城などでは、継続して毎年複数名（2～5 名）内外の学生を受け入れていただいており、ほかにも継続的に長年受け入れていただいている館園も相当数にのぼる。過去 5 年で見ると、2012(平成 24)年度は 10 館園 16 名、2013(平成 25)年度は 13 館園 28 名、2014(平成 26)年度は 18 館園 25 名、2015(平成 27)年度は 13 館園 17 名と、履修者が年度によって一定しないものの、毎年 30 名を超えていた 2010(平成 22)年度以前に比べると減少したことや、積極的に受け入れを行う館園が増加したこともあり、受け入れ先の確保に困難はなくなっている。実習の対象学年は原則 4 年生とし、前年度までに博物館実習を除くすべての学芸員課程専門科目を履修済みで、なおかつ、独自に設ける成績基準を満たした者だけに履修を認めている。実習先の決定は、実習予定の前年度末に提出する実習希望届（資料 19）をもとに行う。届の際の参考資料として、実習館園の一覧（資料 20）を配布するが、これは過去に受け入れがあった館園、および、受け入れが許されると思われる館園を記載したもので、学生はこれ以外からも希望する館園を選ぶことができる。そのため、卒業論文の研究テーマなどとの関連で学生が希望した場合は、受け入れ実績のない遠隔地の館園に依頼することもあり、2016(平成 28)年度には大分香りの博物館（大分県）・竹中大工道具館（兵庫県）・京都服飾文化研究財団（京都府）で各 1 名が実習を行った。

（２）実習先との契約内容

本学より受け入れ先に送付する依頼状（資料 21）によって行う。受け入れ先の要請によっては契約書を交わすが、館園から過去 6 年間そのような要請はない。

（３）実習水準の確保の方策

さまざまな館園の実態に則した体験をすることに一定の意義があると認識しているため、実習カリキュラムなどについて一律の要望を行うなどの措置はとっていない。また、小規模な博物館類似施設での実習も、個々の学生に適合する館園であれば、授業担当者の判断と学芸員課程委員会の審議を経て認めている。しかし、展示内容があまりに商業的である館園での実習は認めていない。また、担当学芸員の指導が不適切であると認めた場合には翌年度以降依頼を行わないこともある。

（４）実習先との連携体制

ほぼ毎年依頼している館園とはさまざまな連携をはかっている。広島県立美術館・ひろ

しま美術館とは、本学が「キャンパスメンバー」となって会費を負担し、学生教職員が特別展・常設展を含め、何度でも無料で入館できる体制をとっている。ほかにも、学芸員等が本学に非常勤講師として出講している館園も複数ある。また、本学担当教員が講演、各種委員をつとめるなどの形でも連携をとるよう努めている。

（５）実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学生の万が一の事故に備え、2016(平成 28)年度より毎年「学研災付帯賠償責任保険 A コース」に「全員加入」している。これにより、学生が誤って実習先の器物を破損したり、他人にけがをさせたりした場合に迅速な対応ができる。

（６）事前・事後における指導計画

博物館法施行規則改正にともなう平成 24 年の新規則施行以前から、本学においては博物館実習を「博物館実習Ⅰ」（学内実習 1 単位）・「博物館実習Ⅱ」（館務実習 1 単位）・「博物館実習Ⅲ」（見学実習 1 単位）に分けて開講し、「博物館実習ガイドライン」にほぼ準拠する形で行ってきたが、平成 26 年度からは新規則により近い形態に授業内容を変更し、事前・事後における指導を徹底している。すなわち、館園実習を「博物館実習Ⅱ」と位置づけ、2 単位とするが、春学期の「博物館実習Ⅰ」（1 単位）で、事前の学習として添付の一覧（資料 22）のとおり、学内で実物資料を用いて取り扱い（1 クラスあたり 15 名以下）や梱包等の保管技術の習得、展覧会の企画実施など予備的学習を行うとともに、館園実習に向けての全体・個別での指導も行う。また「博物館実習Ⅱ」（2 単位）では、館園実習終了後に事後学習として、実習報告会を行い、各自の実習の内容を担当教員及び全履修者の前で発表させている。館園実習は既述のとおり、各館園の実態に則した体験をすることに一定の意義を認めて、一律のカリキュラムではないため、他館での実習について聴き、質疑を行うことで、館による博物館実務の多様さへの理解を深める効果を上げている。秋学期の「博物館実習Ⅲ」（1 単位）では、添付の一覧（資料 22）のとおり、主に本学所在地の広島周辺では体験できない規模や種類の多様な博物館園を見学する見学実習を 2 泊 3 日で実施するとともに、学期末に「博物館実習Ⅰ」・「博物館実習Ⅱ」・「博物館実習Ⅲ」を通じての学び全体を口頭発表させて、学芸員課程での学びを自ら総括させている。なお、見学実習においては引率する担当教員と見学館の学芸員等との緊密な連携により、出来る限り現場で学芸員の解説を受けるようにし、さらに 1 館以上で依頼してバックヤード見学を実施している。また、「博物館実習Ⅰ」・「博物館実習Ⅱ」・「博物館実習Ⅲ」とも、実習日誌をつけさせるとともに、学期末までにレポートを課し、その報告書を中心に毎年『広島女学院大学博物館実習報告』と題した冊子を発行、関係先に配布している。

第 1 回　　オリエンテーション・実習の意味と目的

第 2 回　　資料の点検と調書作成

第 3 回　　資料の梱包と保存(整理・保管)

第 4 回　　資料の取り扱い(1)掛幅（15 名以下とするため 2 分級）

第 5 回　　資料の取り扱い(2)巻子・冊子・屏風（15 名以下とするため 2 分級）

第 6 回　　展覧会の企画・運営・開催(1)
第 7 回　　資料の記録(1)写真撮影とその意味（15 名以下とするため 2 分級）
第 8 回　　資料の記録(2)写真撮影とその意味（15 名以下とするため 2 分級）
第 9 回　　展覧会の企画・運営・開催(2)
第 10 回　　資料の記録(3)拓本の採り方（15 名以下とするため 2 分級）
第 11 回　　資料の取り扱い(3)額（15 名以下とするため 2 分級）
第 12 回　　展示植物の継続管理（広島市植物公園見学実習）
第 13 回　　資料の取り扱い (4) 服飾を中心とした実物資料、館務実習の準備と心得・見学実習の準備
第 14 回　　展覧会の企画・運営・開催(3)
第 15 回　　展覧会の企画・運営・開催(4)

（７）教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

博物館勤務経験があり、博物館学の専門知識をもつ本学専任教員 1 名（准教授）が全体を統括担当するほか、植物学、服飾史専攻の専任教員が専門分野に関して協力し、一部の授業を担当する。なお、課程運営の事務の一部は学部事務室及び教務課で行う。

実習先の巡回について、学芸員課程委員の教員で分担し、遠隔地以外の実習先については原則すべてを訪問し、巡回指導を行うこととしているが、実習期間中に訪問できない館に関しては、事前・事後に担当教員と館の学芸員の間で緊密な連携を取って、巡回指導に代えている。2016(平成 28)年度の実績は添付の表（資料 17）のとおり、初めて受け入れていただいた遠隔地の館園も訪問した。

（８）実習施設における指導者の配置計画

適切な指導がいるかどうか精査した館園で実習させている。行き届いた指導が行えるよう事前に館園の指導者と授業担当者の間で綿密な打ち合わせを行っている。

（９）成績評価体制及び単位認定方法

館園実習については、受け入れ先の証明書、出席状況（原則全日出席）を単位認定の最低条件とし、担当学芸員の評価、受講者が提出する日誌の記述、期末レポートなどを総合的に勘案して授業担当者が成績評価を行う。学内実習・見学実習については受講者が提出する日誌の記述、期末レポートや授業への参加度合いをもとに授業担当者が行っている。

⑪企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（１）実習先の確保

・「生活デザインインターンシップ」

本インターンシップでは、専門的な活動の場に身を置き、職業意識を身に付けるために、1～4 週間の企業または行政機関での実習を行う。実習先としては、短期（約 1 週間）の受け入れ先として「株式会社中国新聞社」「広島エフエム放送株式会社」「株式会社ヤマサキ」

「株式会社竹中工務店」「大成建設」「株式会社フジタ」「広島信用金庫」、中期（約 2 週間）として「株式会社福屋」「野村證券株式会社」「国土交通省中国地方整備局」、長期（約 3～4 週間）として「株式会社ティーエス・ハマモト」「サポーズデザインオフィス」「株式会社タハラ」「株式会社ハーストーリィプラス」とし、実習地はすべて広島市及びその近郊とする。これら企業および機関には、これまでの実績として毎年 1～2 名の学生をインターンシップ実習生として毎年受け入れられている。

（２）実習先との連携体制

・「生活デザインインターンシップ」

学科教員及びキャリアセンター職員が受け入れ先担当者とこれまでも連携を続けており、受け入れ先に向けての事前、事後指導の内容の連絡、受け入れ先からの事前指導への要望および実習内容、実習状況についての連絡を相互に行う体制ができている。こうした相互の連絡内容をもとに、担当者連絡会（インターンシップ授業担当者、学科担当教員、キャリアセンター職員）を開き、授業内容を精査し実施すると共に、実施期間内においても適切な学生指導、受け入れ先との連携ができる体制を構築する。

（３）成績評価体制及び単位認定方法

・「生活デザインインターンシップ」

授業内での事前事後指導への取り組みと共に、インターンシップ報告書、インターンシップ先の学生評価、報告会での報告内容をもとに成績評価を行う。

⑫管理運営

（１）教授会の役割、構成員、開催頻度及び審議事項

教授会は、全学教授会と学部教授会を設置している。全学教授会は、学長、副学長、学部長及び専任教員をもって構成し、学長が議長となり、原則として毎月１回開催する。審議事項は、大学の運営に関して学長が全学的な審議を必要と認める事項について審議するとともに、全学に関わる報告を行う（資料 23)。

学部教授会は、人間生活学部専任教員を構成員とし、学部長が議長となり、原則として毎月１回開催する（資料 24)。審議事項は、「学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項」及び「学位授与の審査に関する事項」であり、この他に教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要であると学長が定めるものとして、「教育研究に関する諸規則の制定及び改廃に関する事項」「学生の転学部・転学科、転学、再入学及び留学に関する事項」「学生の退学、休学、復学及び除籍に関する事項で学長が教育上の判断を必要とするもの」「学生の学業成績判定に関する事項」「学生の賞罰に関する事項」「学部の教務に関する事項」「学部の学生支援に関する事項」「学部の諸委員の選出に関する事項」「学部の教育並びに研究計画に関する事項」「学部の教員の教育研究業績の審査に関する事項」「学部の自己点検・評価に関する事項」が明記されている (資料 25)。いずれの事項についても、学部教授会において審議された意見を聴取した上で、学長が意思決定を行うことになって

いる。

（２）教授会以外に関連する教学管理運営体制（委員会の名称と役割―教授会と関連―）

教学に関する諸課題について審議し、教育研究活動を円滑に運営していく目的で各種組織・委員会を設置している。学長の下には、学長の意思決定を支えるための学長室会議及び最高審議機関である大学評議会を置くとともに、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、全学人事委員会、広報委員会、入試委員会を設置し、いずれも学長が議長となることで大学の重要事項についての決定を行い、決定事項を全学教授会及び学部教授会に報告し全教員に周知するとともに、それらを教育研究に反映させることで、教学におけるＰＤＣＡを機能させるようにしている。

常設委員会として、授業を円滑に実施し学生の履修を適切に指導するとともに、学生の生活支援を行う「学務委員会」、共通教育の運営を円滑に実施するための「共通教育委員会」、学生のキャリアデザイン形成のためのプログラムづくりや就職活動の支援を行う「キャリア支援委員会」、学生や教職員の人権に関する問題を解決するための「人権問題委員会」及び「キャンパス・ハラスメント問題委員会」、学生のボランティア活動を支援するための「ボランティアセンター委員会」を設置している。それぞれの委員会において協議した内容は全学教授会及び学部教授会に提案し、教授会において審議することによって教育活動に生かしていくようにしている。また、教員の教育研究上の資質を向上させるために研修やワークショップを企画・運営する「ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）委員会」、研究倫理に関する審査を行うことで教員の研究活動を支える「倫理審査委員会」、学内外の教育・研究・社会貢献等に関する情報を収集・分析し、必要事項を学長に報告することにより、学長の意思決定を支援する「ＩＲ委員会」を設置することで、それぞれの教育研究上の目的が達成されるようにしている。

⑬自己点検・評価

（１）実施方法、実施体制、結果の活用・公表及び評価項目等

本学は、2002(平成 14)年に自己点検・評価委員会を設置し、点検・評価を実施する体制を整えた。当委員会には、特定の評価項目について点検・評価を行うための小委員会を設置することになっており、2015 年度については、「教育・研究評価」「アドミッション評価」「学生支援評価」「教育研究等環境・財務評価」「社会連携・社会貢献評価」「管理運営・内部質保証評価」を担当する各小委員会を設けて点検・評価を実施した。評価項目は大学基準協会の点検・評価項目に準拠しており、(1)理念・目的、(2)教育研究組織、(3)教員・教員組織、(4)教育内容・方法・成果、(5)学生の受け入れ、(6)学生支援、(7)教育研究等環境、(8)社会連携・社会貢献、(9)管理運営、 (10)財務、(11)内部質保証の 11 項目に従って実施している。

実施にあたっては、学長を委員長とする「自己点検・評価委員会」が主体となって全体

を統括し、各部署（学部・学科・研究科・委員会・事務組織等）において点検・評価された結果をとりまとめ、「自己点検・評価報告書（案）」を作成する。点検・評価にあたっては、大学基準協会の評価基準に従って〔現状の説明〕〔点検・評価〕〔将来に向けた発展方策〕の３点について行うものとする。その後、自己点検・評価委員会および委員会のもとに置かれた前述の６つの小委員会が「自己点検・評価報告書（案）」をもとに、大学基準協会の評価基準に従って評価を実施する。最終的に、自己点検・評価委員会がすべての評価結果をとりまとめ、全体的な評価を行った上で「自己点検・評価報告書」を作成し、公表することになっている（資料 26）。

点検・評価結果の活用については、大学評議会において「自己点検・評価報告書」に基づく改善策を検討した上で実施することになっている。しかし、これまでは年度毎の事業計画の策定、事業（教育研究活動）の実施、自己点検・評価の実施、さらに評価結果に基づく改善に至るＰＤＣＡサイクルが組織として明確に位置づけられていなかったため、必ずしも十分に機能していたとはいえなかった。そこで、2017(平成 29)年度より「内部質保証委員会」を設置し、ＰＤＣＡの中核組織として位置づけることにした（資料 27）。内部質保証委員会は、学長室会議において作成された当該年度の事業計画が評議員会、理事会で承認された後に各部局に指示して事業を実施し、年度の中間で執行状況のとりまとめと評価を行い、必要に応じて各部局に再度指示する。年度末には、自己点検・評価委員会が「自己点検・評価報告書」をとりまとめて内部質保証委員会に提出する。そして、内部質保証委員会は同報告書に基づき必要な改善策を検討し、大学評議会に提案する。大学評議会は改善策の提案を受けて、改善計画を策定し実施する。このようにして、自己点検・評価の結果が活用される体制を整備した（資料 28）。

⑭情報の公表

（１）情報の公表について方針、考え方

ホームページ上で情報公開を行っている。ウェブサイト上のトップページの「情報公開」から、「教育情報の公表」「教職課程の情報の公表」で、情報公開サイトへ移動できる。
トップページの URL は、https://www.hju.ac.jp/
「教育情報の公表」は、https://www.hju.ac.jp/guide/information.php
「教職課程の情報の公表」は、https://www.hju.ac.jp/guide/teacher-training.php である。
「教育情報の公表」では、学校教育法施行規則第 172 条の 2 の項目に従い、教育研究活動の基本情報公開している。すなわち、次のとおりである。

（２）ホームページへの掲載

（ア）大学の教育研究上の目的に関すること

「広島女学院大学の歩み」「建学の精神」「学部・学科の人材養成に関する目的と教育研究上の目的」「研究科・専攻の人材養成に関する目的と教育研究上の目的」、「ディプロマ

ポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」等を公表している。
https://www.hju.ac.jp/guide/jinzaikyouikumokuteki.php
（イ）教育研究上の基本組織に関すること
「学部学科・大学院構成」「事務組織図」「教職員数」を公表している。
https://www.hju.ac.jp/guide/about-organization.php
https://www.hju.ac.jp/guide/organization-chart.php
https://www.hju.ac.jp/guide/inc/pdf/kyoshokuinsu.pdf
（ウ）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
「教員組織（組織内の役割分担）」「教員年齢構成」「教員一覧」を公表している。
https://www.hju.ac.jp/guide/inc/pdf/kyoinsoshiki.pdf
https://www.hju.ac.jp/guide/inc/pdf/kyoinnenrei.pdf
https://www.hju.ac.jp/faculty/professors/index.php
（エ）入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職などの状況に関すること
「アドミッションポリシー」「入学定員・入学者数・収容定員・在籍者数」「就職実績」等を公表している。
https://www.hju.ac.jp/guide/admission-policy.php
https://www.hju.ac.jp/guide/inc/pdf/nyugakuteiin.pdf
https://www.hju.ac.jp/career/results.php
（オ）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
「学則別表」「シラバス」等を公表している。
https://www.hju.ac.jp/guide/inc/pdf/beppyo.pdf
https://clcis.hju.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010
（カ）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
「ディプロマポリシー」「カリキュラム」を公表している。
https://www.hju.ac.jp/guide/diploma-policy.php
https://www.hju.ac.jp/faculty/system/index.php
（キ）校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
「キャンパスマップ」「クラブ・サークル」「アクセス」を公表している。
https://www.hju.ac.jp/life/establishment/index.php
https://www.hju.ac.jp/life/club.php
https://www.hju.ac.jp/info/map/
（ク）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
「学費等納入金」を公表している。
https://www.hju.ac.jp/examination/expenses/index.php

（ケ）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

「トータル型サポート」「アカデミック・サポートセンター」「ボランティアセンター」「ハラスメント相談」「健康管理センター」「カウンセリングルーム」「障がい学生高等教育支援室」「就職サポート・スケジュール」等を公表している。

https://www.hju.ac.jp/life/support/

https://www.hju.ac.jp/life/establishment/

https://www.hju.ac.jp/career/

（コ）その他

「財務情報について」「事業計画について」「事業報告について」「補助金事業」「設置認可申請書・設置届出書」「履行状況報告書及び改善意見等対応状況報告書」「授業評価アンケート」「点検・評価」「研究における不正防止への取組」「内部通報制度」を公表している。

https://www.hju.ac.jp/guide/

また、「教職課程の情報の公表」は、教職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づき、課程認定における情報を公表している。すなわち、次のとおりである。

１.教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

２.教員の養成に係る組織、各教員が有する学位及び業績

３.卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

４.卒業者の教員への就職の状況に関すること

⑮教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）委員会が中心となり、教務課やキャリアセンター等の事務部署と連携し、授業内容、教育方法、教育成果の改善を図るために、全学的な教学マネジメントの下での改革サイクルを確立している。

（１）授業評価アンケート

全開講科目について、前期末（前期科目）と学年末（通年・後期科目）の授業評価アンケートを実施している。アンケート結果は、データ分析を行い、全学的傾向や各開講科目について、Web 公表し、教員に対して授業改善のための情報を提供し、全学的に授業改善に向けて取り組む姿勢を明示している。各授業担当教員は、分析結果をもとに、授業改善に向けた具体的な取組を計画し、授業改善目標として Web 公表し、学生に学修を振り返る機会を提供している。

（２）教育システムの活用に関する教職員の研修

本学では教育支援システムとして「ポータルサイト」を運用し、学生との双方向のコミュニケーションを可能にした学修支援を行っている。コンテンツは、①メール、②お知らせ、③レポート提出、④履修状況、⑤履修登録、⑥教職履修カルテ、⑦達成度評価、⑧シ

ラバス、⑨アンケート、⑩コース・資格申請、⑪希望進路登録（キャリア支援）、⑫授業用ＳＮＳシステムである。教員は、このシステムを活用し、担当する授業内容や教育方法を振り返り、一人ひとりの学生の主体的な学修態度を育むための改善策を検討することができる。また、教員と職員が、このシステムを利用し、協働することで、学生の主体的な学修を促すことができる。こうした成果は、教職員が十分にシステムを活用できることで得られるものであり、そのために、教職員のためのシステム利用に関する説明や、教育効果の高い利用の仕方の例示などについて、毎年、コンテンツの更新に合わせて研修会を実施している。

（３）FD 研修会、SD 研修会、FD・SD 合同研修会の実施

本学では、毎年、FD 研修会、SD 研修会、FD・SD 合同研修会を実施している。FD・SD 合同研修会は、教職員を対象とし、「ブランド力調査と入試分析」「入試予想と教職員の役割」等をテーマとし、大学の質保証に向けて教員と職員が協働することをねらいとした、講演会やワークショップを開催している。FD 研修会は教員を対象とし、「キャリア教育の在り方」「シラバス・ルーブリック評価を用いた教学改善」等をテーマとして、教育内容や方法、評価などに関する講演会やワークショップを開催している。SD 研修会は、教員及び職員を対象とし、「卒業時の質保証」「チームワークを高めるためのコミュニケーション向上」等をテーマとし、大学の教育研究活動の適切で効果的な運営を図るために必要な能力や資質の向上を目指して、講演会やワークショップを開催している。

⑯社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内の取組について

本学は、キリスト教主義に基づいて、女性の生涯を支える教養教育と専門教育により、真理を追求し、世界と地域の人々に仕える豊かな人格の育成し、女性のライフキャリアを支援することを目的としている。そのために教育課程において、豊かな教養と専門的知識を通して、冷静な判断力と決断力を兼ね備えた「ぶれない個」を形成し、自己のライフキャリアの確立を目指す「ライフキャリア科目」を設けている。

ライフキャリア科目は、生涯にわたって女性のライフキャリアを支える根幹を形成することを目標とし、必修科目「キャリアプランニング」及び「女性とライフキャリア」と選択科目から構成している。「キャリアプランニング」は 1 年次前期に開講するものであり、社会の一員として主体的に生きていくために、自分自身にできることは何かを考え、学生一人ひとりが自分に適した大学生活をプランニングし、ライフキャリアを描いていくことを支援する科目である。また、「女性とライフキャリア」は 2 年次前期に開講するものであり、ライフキャリアの観点から、女性の生涯における様々なライフイベントを想定し、女性の置かれた現状における問題点を明らかにするとともに、自己のキャリア・アンカーについて考え、社会貢献できる将来像を描くことを支援する科目である。必修科目に加えて選択科目を履修することによって、「自己との関係」「他者との関係」「社会との関係」の領

域において、冷静な判断力と決断力、前に踏み出す行動力、自己を活かし、他者と協働する力の「社会人基礎力」を身に付けることをめざしている。

生活デザイン学科は、人材養成の目的の一つとして、地域を創造する発想力、グローカルな視点から地域社会が固有に持つ特性を理解し、活性化に向けた計画を生み出し得る力を習得させることをあげている。そのための科目として、「生活デザインインターンシップ」「地域デザインセミナーⅠ・Ⅱ」「地域連携デザインセミナーⅠ・Ⅱ」「グローカル・フィールドワーク」等を設けており、これらの履修を通して地域社会との実践的な関わりを体験することで、生活デザインの専門家としての意識を高め、職業人としての倫理観、責任感を育成するとともに、社会的自立を促すよう配慮している。

キャリア関連科目一覧

科　　目	開講年次	単位数
キャリアプランニング	１年前期	2
女性とライフキャリア	２年前期	2
インターンシップ	２年前期	2
ライフキャリア特別講義Ⅰ	１年前期	2
ライフキャリア特別講義Ⅱ	１年後期	2
ライフキャリア特別セミナーⅠ	１年前期	2
ライフキャリア特別セミナーⅡ	１年後期	2

（２）教育課程外の取組について

本学にキャリアセンターを設置し、学生のキャリア支援・就職支援を行っている。1 年次には授業科目「キャリアプランニング」と連携して、将来の自己のキャリアを想定しながら自己を分析し、大学生活の目標づくりができるよう支援するとともに、希望する学生には入学初年次からキャリアカウンセリングが受けられる体制を整えている。2・3 年次にはキャリアセンター主催の「キャリアガイダンス」を実施するとともに、キャリア形成の目的に応じた各種セミナーを実施している（資料 29)。3・4 年次には、学生が提出する進路登録票に基づいてキャリア支援課職員が個人面談を実施するとともに、キャリアカウンセラーによるカウンセリングも随時実施している。その他にも、「学内企業合同セミナー」や東京への「合説ツアー」等を企画・実施することで、学生一人ひとりが自己のキャリアを見つめ、人生の目標に適した進路を選択できるようきめ細やかな支援を行っている。

（３）適切な体制の整備について

キャリアセンターは学部・学科、セミナーと連携を取ることによって、全学をあげてキ

ャリア支援が行えるよう配慮している。例えば、学科単位やゼミ単位でキャリアセミナーを企画することで、その学科やゼミの特性に応じたキャリア支援が実施できるようにしている。また、キャリア支援委員会を設置し、キャリアセンター長、キャリア支援課長及び各学科から選出された教員を構成員としてキャリア支援全般の運営にあたっている。委員会は、キャリア支援の方針、キャリア教育に関連する授業科目の支援、インターンシップの実施及び拡充、キャリア支援に関わる生涯学習・言語教育等の課外講座、学校推薦者の決定、キャリア支援に向けた懇談会・企業訪問等に関する事項について協議することに加えて、キャリアセンターとの連絡を密にすることで、学生への周知が徹底するよう配慮するとともに、学部・学科からの要望をキャリア支援に反映させることができる体制を整えている（資料 30)。

添付資料

目　　次

資料１・・・【生活デザイン学科】カリキュラム・マップ
資料２・・・【生活デザイン学科】カリキュラム・ツリー
資料３・・・「広島女学院就業規則」
資料４・・・「特別専任教職員の任用等に関する規程」
資料５・・・【生活デザイン学科】履修モデル（インテリア・住居・建築系）
資料６・・・【生活デザイン学科】履修モデル（被服・ファッション系）
資料７・・・【生活デザイン学科】履修モデル（生活デザイン系）
資料８・・・【生活デザイン学科】履修モデル（家庭科教員をめざす）
資料９・・・図書の整備計画
資料１０・・雑誌所蔵リスト
資料１１・・雑誌継続購入リスト
資料１２・・【生活デザイン学科】入学者選抜方法ごとの評価内容
資料１３・・【生活デザイン学科】入学者選抜方法との関係
資料１４・・「広島女学院大学入試委員会規程」
資料１５・・「広島女学院大学入試実行委員会規程」
資料１６・・教育実習施設一覧（中学校・高等学校）及び承諾書
資料１７・・〔博物館実習〕2016（平成 28）年度館務実習先一覧表
資料１８・・〔博物館実習〕受け入れ館園の承諾書
資料１９・・〔博物館実習〕実習希望届
資料２０・・〔博物館実習〕2016（平成 28）年度館園実習先一覧表
資料２１・・〔博物館実習〕実習先への依頼状
資料２２・・〔博物館実習〕2017（平成 29）年度博物館実習予定表
資料２３・・「広島女学院大学全学教授会規程」
資料２４・・「広島女学院大学学部教授会規程」
資料２５・・「学部教授会の審議事項に関する規程（学長裁定）」
資料２６・・「広島女学院大学自己点検・評価委員会規程」
資料２７・・「広島女学院大学内部質保証委員会規程」
資料２８・・内部質保証システム
資料２９・・キャリアガイダンスプログラム
資料３０・・「広島女学院大学キャリア支援委員会規程」

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

人間生活学部生活デザイン学科の入学定員については、学科の教育研究活動を広げ、推進していく必要があるとの考えのもと、養成する人材に係る社会的・地域的な需要を踏まえるとともに、教育研究活動の実施方法に留意しつつ、私立大学として安定的な財務基盤を築くことを前提に入学定員を設定している。

その規模については、学生募集の最大の母集団となる 18 歳人口の推移を前提に、本学の立地する広島県の年齢別人口の動向、高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学等の状況、人間生活学部（家政・生活科学系統）の大学進学等の状況、近隣の人間生活学系学部の入学志願状況並びに定員充足の状況など、本学を取り巻く様々な状況とデータを比較分析して想定した。そのうえで、外部委託により実施した広島県を中心とする高等学校に在籍している高校生に対する進学需要調査、同様に広島県を中心とする企業等に対する採用意向調査の結果を総合的に勘案し、他大学との競争力を有しつつ、確実に確保可能と見込まれ、かつ入学者選抜の機能が低下しない範囲の入学定員として設定している。

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(ア)人口推移並びに大学進学等の状況による中長期的な見通し

1）年齢別人口の動向による長期的な見通し

全国の 18 歳人口は、近年でみると平成 4 年をピークとして右肩下がりで推移している。その後平成 21～32 年ころまでほぼ横ばいで推移するが、平成 33 年頃からまた減少することが予測されている。平成 4 年から人口が減少していく中、大学への進学率は平成 12 年までは右肩上がりに推移しており、その後約 60 万人レベルでの微増減を繰り返していることから、全国的な大学進学者数としては平成 32 年頃まではあまり変わらないことが想定される。(資料 1)

本学の受験者層は広島県及び近隣県の出身者によって多くが占められている。県別に見ると、平成 28 年度の本学入学者（328 人）の出身地は、広島県が 270 人で入学者全体の 82.3%、山口県は 17 人で 5.2%、島根県は 12 人で 3.7%、愛媛県は 7 人で 2.1%、岡山県は 3 人で 0.9%、その他の県で 19 人（5.8%）となっている。平成 27 年度の入学者（340 人）の出身地では、広島県においては 286 人で入学者全体の 84.1%、山口県は 24 人で 7.1%、島根県は 12 人で 3.5%、愛媛県は 5 人で 1.5%、岡山県は 1 人で 0.3%、その他の県で 12 人（3.5%）となっており、8 割以上が県内から入学している状況となっている。(資料 2)

学校基本調査によると、広島県における平成 28 年度の女子 18 歳人口は 13,365 人で、その後 3 年間は微増もしくは前年とほぼ同数で推移、改組年度の平成 30 年度もほぼ同

数が見込まれており、志願者数となる生徒数は十分とは言えないまでも前年度とほぼ同数程度の学生確保は見込めると判断できる。ただし、改組完成年度（予定）翌年の平成 34 年度において、広島県内女子 18 歳人口は微減となり約 12,500 人、その後平成 43 年度に向けて増減を繰り返しており、特に平成 35 年度（約 12,000 人）と平成 44 年度（約 11,300 人）については下降幅が大きくなっているため留意しておく必要がある（資料 3）。その時点の備えとして、本学の教育研究及び課外活動の内容を一層充実させ、施設設備等について更なる整備を図ることで、志願者が増えるよう計画を進めていく予定である。

隣県である山口県における平成 28 年度の女子高等学校卒業生数は約 5,600 人で、そのうち 2,248 人が大学を志願している。3 年後の平成 31 年度は女子高等学校卒業生数が約 5,800 人、その 3 年後の平成 34 年度も約 5,900 人と微増となっており、山口県に関しては現状以上の学生確保が見込める。（資料 4）

また、島根県においては、平成 28 年度の高等学校卒業生数（男女合計）が約 5,900 人でそのうち 2,780 人が大学等へ進学している。3 年後の平成 31 年度では約 6,400 名が予想されることから島根県に関しても現状以上の数値が期待できる。（資料 5）

愛媛県においては、平成 28 年 3 月の女子高等学校卒業生数が約 5,800 人でそのうち約 2,400 人が大学へ進学している。3 年後の平成 31 年度、その数は約 5,850 人が予想されることから愛媛県に関しても、しばらく現状以上の数値が期待できる。ただし、その 4 年後の平成 35 年度で約 5,600 人と 250 人減るので注意が必要となる。(資料 6)

以上のような人口推移の動向をふまえて、学生確保に向けた積極的な取組みを実施していくとともに、将来を見据えた教育研究の一層の充実を図っていくことにしている。

2）県内の高等学校及び中学校の在籍者数

平成 28 年度の学校基本調査によると、平成 28 年度の広島県内高等学校全日制に在籍している 3 年生女子生徒数は 11,737 人であった。改組の初年度（平成 30 年度）に受験対象者となる広島県内の高等学校（全日制）に在籍している 3 年生女子生徒数は 11,726 人、同じく 2 年目（平成 31 年度）に受験対象者となる高等学校 2 年生女子生徒数は 12,002 人、3 年目（平成 32 年度）に受験対象者となる高等学校 1 年生女子生徒数は 12,786 人、完成年度（平成 33 年度）に受験対象者になる広島県内中学校に在籍している中学 3 年生の生徒数は 12,631 人となっており、11,700～12,800 人の間をほぼ横ばいで推移しており、広島県内の大学受験対象者が大きく減少することはなく、ここ数年は定員確保の見通しがあるものと見込まれる。ただし、その後は少しずつ増減を繰り返しながら減少していくので注意は必要である。（資料 7、8）

3）県内の大学進学状況

学校基本調査によると、広島県内の高等学校を卒業した女子の過去 3 年間の大学進学状況は、平成 26 年度は卒業者 12,200 人のうち大学進学者は 7,315 人で大学進学率は 60.0%、平成 27 年度は卒業者 12,307 人のうち大学進学者は 7,461 人で大学進学率は 60.6%、平成 28 年度は卒業者 12,140 人のうち大学進学者は 7,402 人で大学進学率は 61.0%となっている。また、広島県内の高等学校を卒業した女子の過去 10 年間の大学進学率は、平成 18 年度の 55.5%から平成 28 年度は 61.0%と 5.5 ポイント上昇していることなどからも、中長期的な入学定員の確保ができるものと見込まれる（資料 9）。

（イ）人間生活学部（家政・生活科学系統）の設置状況及び志願者、定員充足状況

私立大学一般入試おもな学部系統の志願者動向調査（資料 10）によると、家政・生活科学系統の志願者指数は、平成 29 年度で前年度比 101%、平成 28 年度で前年度比 105%、平成 27 年度で前年度比 97%、平成 26 年度で前年度比 98%と、近年ほぼ 100%に近い数値で推移していることから、ここ数年は一定の志願者数を確保できると見込んでいる。

本学の設置する広島県で家政・生活科学系学科を設置する大学は 3 校 4 学部、入学定員は 615 人となっており、過去 2 年間の志願者状況をみてみると、平成 28 年度は、入学定員 615 人に対して志願者数は 2,813 人で志願倍率は約 4.6 倍、平成 27 年度は、入学定員 575 人に対して志願者数は 2,292 人で志願倍率は約 4.0 倍となっている（資料 11）したがって、本学科を設置した場合においても安定した志願者を得ることが可能であると見込まれる。

（ウ）受験対象者への進学需要調査

生活デザイン学科の設置計画を策定するにあたっては、前述のように広島県内の年齢別人口の動向、高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、他大学における志願状況などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものであるが、学生確保の見込みについて定量的なデータから検証することを目的として、平成 28 年 12 月 1 日から平成 29 年 1 月 31 日にかけて、本学への進学実績にもとづき在籍者が多い出身都道府県（広島県、山口県、島根県）に所在する高等学校に在籍している高校生（開設年度の受験対象者である現 2 年生）を対象とした進学意向に関する調査を学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。

有効回答者数 5,342 人中、本学科の特徴である「ファッション・インテリア・建築などをフィールドワークやものづくりで学び、豊かな暮らしをプレゼンテーションできる生活設計のスペシャリストをめざす」に対して魅力を感じた高校生は73.9%にのぼり、また「地元企業・団体と連携し、最長 4 週間の実習・インターンシップに希望者全員が参加し、建築士、インテリアコーディネーターなどの職業をめざす」に対しても 71.1%

の高校生が魅力を感じるとしており、本学科に高い関心を示していることが分かる。

入学意向に関する項目では、入学定員 65 人の 3.3 倍にあたる 213 人が生活デザイン学科への積極的な入学意向を示しており、予定されている入学定員数を上回る入学意向者が見込める。本学の設置する広島県に所在する高等学校の在籍者に限定した場合でも、205 人の入学意向者が見込める。本学は隣接県からの入学者も確保しており、県内外からの学生確保によって、長期的かつ安定的な学生確保については十分に見込めるものと考えられる。（資料 12）

③学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学の経営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、近隣他大学の類似学部学科における学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度に収支の均衡が計れることを前提に教育研究経費比率や経営経費依存率を見据え、本学部学科の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測により設定している。

具体的には、本学科完成年度における事業活動支出のうち、人件費 200,000 千円、教育研究経費 105,000 千円、管理経費 29,500 千円の合計が 334,500 千円と算定される。この経費合計額 334,500 千円に相当する額を学生定員 260 人（65 人×4 学年）で逆算すると、学生一人あたり 1,286 千円となる。

一方、近隣他大学の類似学部学科　2 校 3 学科の学生納付金（入学金除く総額）の平均値は（資料 13）の通り約 1,143 千円　となっている。

以上を踏まえ、具体的な学生納付金の設定にあたっては同一学部内の 2 学科を含む学部全体の収支均衡も考慮しつつも、学費面での対外的な競争優位性を高めることを重視し、総合的に勘案した結果として、学生一人あたり年間 1,060 千円として設定した。内訳は、授業料 780 千円、施設維持資金 280 千円としている。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況としては、大学案内や学生募集用パンフレットの配布をはじめ、ホームページの充実および高校生向けの一般広報紙媒体による広報活動の他、テレビ、ユーチューブ等多数のメディアを使用した広報活動を行うとともに、過去において入学者の受入れ実績のある高等学校を中心とする訪問活動などを通じて積極的な情報提供を行うこととしている。特に今年度は、全教員で短期間に集中して高校訪問をする予定でおり、広く迅速に広報活動を行う予定である。

また、オープンキャンパスや大学見学会をはじめ各地域における進学相談会などの開催を通じて、各学部学科におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをはじめとする様々な教育情報について、広島県及び隣接県を

中心とする高校生や保護者、高等学校教諭に対して広く周知を図ることとしている。具体的には、以下のような取組を行う。

①具体的な取組状況

（ア）広報媒体

1)紙媒体

設置告知用チラシ	平成 28 年 12 月から 13,000 枚配付
学部・学科改組案内冊子	4 月届出予定の案内冊子を 3 月中旬作成し、「大学案内」が完成するまで資料請求者へ配付。 （届出前であることから、「予定」とする。また学科名は仮称と表記する。） 「大学案内」簡易版として高校訪問や進学説明会等で使用および配付する。
大学案内	6 月から配付予定。
入試ガイド	6 月から配付予定。
ＡＯ型入試リーフレット	6 月から配付予定。
進学情報誌	12 月より発行される主要媒体（大学発見ナビ、進学事典（1 月版）、進学事典（4 月版）、就職・資格・キャリア号、大学・短期大学進学ガイド、地元進学 BOOK、Benesse マナビジョンブック 2017（保護者版）、進学ガイド春号、17 マイナビ進学、君はどの大学を選ぶべきか、進学 FORUM、志望校検討ガイド、他）への掲載。
オープンキャンパスチラシおよびリーフレット	作成予定。 随時資料請求者や高等学校へ訪問し配布予定。 オープンキャンパスの時期が近付いたら、具体的内容を紹介したリーフレットを作成し動員を図る。
キャンパスニュース	作成予定。在学生および保護者向けの学生課主担で制作する新聞であるが、大学紹介（広報）の一つのツールとして、随時資料請求者や高等学校へ訪問し配付する予定。
行事案内（チラシなど）	実施時期に合わせチラシ等を作成し発行する予定。

2)電子媒体

ホームページ	5 月 1 日に大学サイトに設置告知特設サイトを開設予定。
携帯サイト	ホームページと連動したスマホサイトを有する。

外部業者サイト	スタディサプリ進路、ベネッセマナビジョン、マイナビ進学、逆引き大学辞典、キャリタス進学への情報掲載。

3)マスメディア

新聞広告	設置届出申請後予定
TV-CM	設置届出申請後予定

4)その他

電光掲示板の掲出（上幟町校地）	上幟町校地にある電光掲示板への掲出を予定。 （学部・学科改組について、オープンキャンパスの実施について、入学案内等）

（イ）高校訪問・塾訪問の実施

1)　教職員が、前出のアンケート協力高校や当大学への資料請求者の在籍高校をはじめとするPRを行い、広く周知を図っていく。

5月以降　広島県内主要高校訪問を実施

6月以降　中国・四国・九州（沖縄含む）地区に家政・生活科学系として高校訪問を実施

2)　近郊の大学受験予備校や進学塾へ、大学・学部学科の紹介やPRを行い、広く周知を図っていく。

（ウ）高校ガイダンス・進学説明会等の参加

高校内ガイダンスや校外イベント企画へも積極的に参加し、広くPR活動を行っていく。

５月以降、栄美通信、さんぽう、日本ドリコム、廣告社等が主催する進学相談会に出席予定。

・上記は業者主催の説明会で年間 46 回を予定。(資料 14)

・高校開催の説明会は教職員合わせて昨年 179 回実施しており、今年度もほぼ同等かそれ以上の活動を実施予定。(資料 15)

（エ）関連団体などに対する周知

卒業生、実習施設、各種企業、近郊の病院・福祉施設等に対して、大学・新学部学科の設置を広く周知する。(改組告知リーフレットの配付、学院報、キャンパスニュース、各種広報物等での紹介など。)

②届出後の具体的な取組

文部科学省のガイドラインにより、このたび本学の改組は、届出後であれば学生募集活動は可とされていることから、学生確保に向けた取組について上記の内容で速やかに実施できるよう、準備を進めている。（ただし 60 日間は措置命令の可能性があるので留意する。）

届出後は、前項に掲げた取組に加え、学生募集に関する告知を速やかに行う。入試内容をはじめとする募集要項を、ホームページや各種サイト、各媒体等で広く告知する。また、潜在志願者（オープンキャンパス参加者及び資料請求者）に対して募集要項等を送付するとともに、高校進路指導教員等へ周知を行う。

入試については、ＡＯ型入試、指定校制推薦、公募制推薦、特待生入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試等を実施する予定としており、教職員が一丸となって順次準備を進めていく。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的（概要）

①人間生活学部

多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において女性のライフキャリアを通して貢献できる人材を養成する。さらに人間生活の基本となる〈衣・食・住〉および〈育〉の分野で、被服と住居・建築、健康と食・栄養、および保育・教育と子育て支援についての高度な知識・技能を身につけ、実践していくことのできる専門家を養成することを目的とする。

②生活デザイン学科

地域・生活に関わる知識・技能を用いて、豊かな生活を創造する発想力を持ち、人々の生活や価値観の多様性を理解し、地域・生活環境を構成する事象を多面的に捉え、よりよい暮らしを提案することができる人材を養成する。さらに、地域の人々の声を受け止め、ニーズに即した行動、および他者との協働によって地域・家庭生活の問題解決に貢献できる人材を養成する。

（２）上記（１）が社会的，地域的な人材需要の動向等をふまえたものであることの客観的な根拠

①社会及び地域における人材需要の需給見通し

人間生活学部は、人間生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において女性のライフキャリアを通して貢献できる人材の養成を目的としており、生活デザイン学科においては生活における多様なデザインの専門家としての高度な知識・技能を修得し、職業人としての倫理観、責任感を身につけることで、生涯にわたって自己のキャリアを構築し、自己を生かしていく力を育成する。また、地域と密接に関わりながら生活デザインの専門性を発揮し、社会に貢献していく力をも育成する。このような人材を養成することは、少子化がますます深刻化するこれからの時代にあって、男性と協働しながら地域社会の生活の質を向上させていくことに貢献できる女性として、社会的需要に十分に応えることが見込まれる。

②関係団体等からの要望等

本学は平成 28 年度に広島経済同友会に正会員として加入し、同会と連携しながら社会において求められる人材の育成を推進することになっており、本学の卒業生が今後ますます地域社会を活性化する女性として活躍することが期待されている。本学学長は、これらの連携を強化するために、例えば、もみじ銀行が主催する「女性活躍推進応援セミ

ナー」において企業の経営者、管理職、人事総務担当者を対象として「企業や社会を生かす女性のライフキャリア」をテーマとした講演を行うなどの精力的な活動を通じて、本学がめざす女性のライフキャリア確立に向けての教育が注目されており、生涯にわたってキャリアを構築していく女性を育てる大学として期待されている。

生活デザイン学科では、本学科に就任する教員を中心に、本学が広島市東区と締結している包括協定に基づく「エキキタ地区活性化」事業への学生・教員の参画、広島県山県郡の安芸太田町地域おこし協力隊との連携による商店街の活性化事業への協力、プロバスケットボールチーム広島ドラゴンフライズ「地域振興デザインプロジェクト」と連携したグッズのデザイン開発、牛田商店街振興組合とのコラボ企画による牛田商店街のLED街路灯デザインが広島市都市整備局「ひろしま街づくりデザイン賞」を受賞するなど、地域の各種団体と協力しながら実践的な活動を繰り広げることで、地域に密着して社会貢献する学科として高い評価を得ることができている。

③生活デザイン学科の卒業後の進路

本学科は、生活環境・生活空間に関わる専門知識・専門技術を用いて、生活を豊かにするものづくりに主体的に関わることができ、人々の生活や価値観の多様性を理解し、生活を構成する事象を多面的に捉えることができる力を習得させる。また、幅広い学問の知識を融合して、オリジナルな感性から地域資源を発掘し、地域を創造する発想力、グローカルな視点から地域社会が固有に持つ特性を理解し、活性化に向けた計画を生み出し得る力を習得させる。さらに、一極集中の現代において、各個人が置かれた地域でそれぞれの能力を活かして、生涯を通して具体的に貢献できる力を習得させる。

このような資質をふまえて、一級建築士、二級建築士、木造建築士、教員（高等学校「家庭」、中学校「家庭」）、学芸員等の資格を取得し、女性ならではの感性を活かし、クリエイティブな才能を発揮できる専門職に就く進路が期待できる。また、社会教育主事、旅行会社、広告代理店、公共機関職員等、生活を育む地域の活性化を担う進路に就くことが期待できる。

④既設学科（現行）の就職状況

(ア)最近５年間の求人件数の状況

本学における最近5年間の求人件数の実績は、平成24年度は就職希望者397人に対して求人件数1,033件で求人倍率は2.6倍、平成25年度は就職希望者363人に対して求人件数1,519件で求人倍率は4.2倍、平成26年度は就職希望者398人に対して求人件数1,596件で求人倍率は4.0倍、平成27年度は就職希望者386人に対して求人件数1,610件で求人倍率は4.2倍、平成28年度は就職希望者344人に対して求人件数1,856件で求人倍率は5.4倍となっている。

このように、昨今の景気回復傾向を反映しながらではあるものの、求人件数を着実

に伸ばしていることは、本学における人材養成の目的及び教育研究上の目的が人材需要面での社会的要請に十分に応えるものであることを示しており、新学部を設置した場合でも、就職先の確保については十分に見込めるものである。

(イ)最近５年間の就職者数の状況

生活デザイン学科の基礎となっている既設の生活デザイン・建築学科は現在まで2期生が卒業しているが、その前身である生活デザイン・情報学科を含めて最近 5 年間の就職希望者数に対する就職者数の実績は次のとおりである。平成24年度は92.2%（就職者数119人／就職希望者129人)、このうち本学科に特徴的な就職先である建設業に6名、被服・ファッション系を中心とした小売業・サービス業に54名が就職している。同様に、平成25年度は92.0%（就職者数104人／就職希望者113人)、このうち建設業7名、小売業・サービス業38名であり、平成26年度は95.3%（就職者数122人／就職希望者128人)、このうち建設業9名、小売業・サービス業52名であり、平成27年度は100.0%（就職者数61人／就職希望者61人)、このうち建設業15名、小売業・サービス業22名であり、平成28年度は96.6%（就職者数57人／就職希望者59人)、このうち建設業 11 名、小売業・サービス業 29 名となっている。いずれも高い就職率で推移しており、生活デザイン学科の特色である建設業や生活関連の小売業・サービス業への就職比率が高いことが分かる。このことは、本学科における人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請をふまえたものであることの裏付けとなるものであり、新学科を設置した場合でも、卒業後の進路については十分に見込めるものである。

⑤企業、関係団体等への人材需要に関する採用意向調査

生活デザイン学科の設置は、前述のとおり社会的、地域的な人材需要の動向等及び本学の求人状況や就職状況などをふまえたうえで計画していることから、十分な卒業後の進路が見込めるものであるが、本学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請をふまえているかどうか、卒業後の具体的な進路や地域の人材需要の見通しがあるかを定量的なデータから検証することを目的として、平成28年12月1日から12月28日にかけて、学科の卒業生の就職先として想定される広島県を中心とした2,750事業所（企業及び団体）を対象として本学科卒業生の有効性、採用意向などの人材需要に関する調査を学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。

有効回答件数703社のうち86.3%にあたる607社が生活デザイン学科の卒業生は「社会にとって必要な人材」と受け止めている。

本学科を卒業した者に対する採用意向については、有効回答703社のうち71.1%にあたる500社が採用の意向を示しており、採用想定人数は311人に上る。さらに、「採用し

たいと思う」と回答した企業や関係団体等のうち採用可能人数を未定としている 310 社の採用可能人数を 1 人としてカウントした場合、全体で 621 人の採用が見込まれる結果となっている。このように限られたサンプル調査においても、生活デザイン学科で学んだ人材への需要は高いことがうかがえる。(資料 16)

なお、本調査による企業や関係団体等の過去 3 年間の平均的な正規社員の採用人数を合計すると 40,475 人となり、この採用総数を本学科の卒業生に対する採用意向に照らしてみた場合、「採用したいと思う」と回答した企業の採用総数は 28,778 人となることから、卒業後の進路については十分な見込みがあるものと考える。

前述のとおり、本学の生活デザイン学科は、社会的、地域的な人材需要の動向をふまえたものであるとともに、これまでの就職実績や想定される就職先による調査結果からも就職先の確保は十分見込まれるものといえる。

添付資料

目　　次

資料１・・・18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（文部科学省資料より）
資料２・・・本学受験者・入学者の県内比率（本学調べ）
資料３・・・【広島県】年齢別人口（H27 年度）
資料４・・・【山口県】学校基本調査（H28 年度）
資料５・・・【島根県】学校基本調査（H28 年度）
資料６・・・【愛媛県】学校基本調査より（H28 年度）
資料７・・・【全国】2016 年 12 月時点 高校在籍者数（現高 2-3）
資料８・・・【広島県】学校基本調査＿中学校（H28 年度）
資料９・・・【広島県】学校基本調査＿高等学校卒業者の卒業後の状況
（H18，H26～28 年度）
資料１０・・旺文社 web 大学進学 INFORMATION
資料１１・・広島県内で本学類似学科がある大学の入試状況
大学受験パスナビ等：旺文社より引用
資料１２・・広島女学院大学「人文学部」「人間生活学部」（仮称）
設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】
資料１３・・近隣類似大学授業料比較
資料１４・・2017 年度進学説明会参加予定表
資料１５・・2016 年度高校ガイダンス
資料１６・・広島女学院大学「人文学部」「人間生活学部」（仮称）
設置に関するニーズ調査結果報告書【企業対象調査】